

第4章 公共施設類型分類別の分析

本章では、中分類又は小分類別に主として利用者数やコスト、延床面積といった情報を基に分析を行っていきます。このような分析を行うことで、公共施設の現状と今後の課題を明らかにしていきます。

各図・表の見方を簡単に解説します。

【図・表例とデータの見方】

1. 施設一覧(中分類別)

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積(m ²)	老朽化度(%)	主要建物建築年度	主要建物構造
コミュニティセンター	〇〇	1	〇〇コミュニティセンター	直営		433	78.63	昭和55年度	鉄骨造
	××	2	××コミュニティセンター	直営	●	339	104.17	昭和63年度	鉄骨造
公民館	〇〇	1	〇〇中央公民館	直営		996	62.26	平成17年度	木造
	〇〇	2	〇〇東地区公民館	直営		692	66.00	昭和50年度	鉄筋コンクリート
	△△	3	△△中央公民館	直営		2,581	43.00	昭和53年度	鉄筋コンクリート
	△△	4	△△地区公民館	直営		655	133.33	昭和62年度	鉄筋コンクリート
その他集会所	〇〇	1	〇〇ふるさと会館	指定管理者		2,023	91.09	平成03年度	鉄筋コンクリート

◆ 公共施設類型分類別の施設の基本情報の一覧です。所在する地区と施設名称、運営主体、複合施設、延床面積、老朽化度、主要建物建築年度と構造の状況を整理しています。

運営主体	施設の運営主体者を示しています。 本市が直接運営する施設は「直営」、指定管理者制度(公の施設の管理を民間事業者を含む自治体外の団体(指定管理者)に委託することができる制度)を導入している施設は「指定管理者」と表記しています。
複合施設	一つの施設に複数の機能が存在する施設で、該当する施設に「●」を表示しています。
老朽化度	計算式: 経過年数 ÷ 耐用年数 = 【1棟毎老朽化度】 (A棟延床面積 × A棟老朽化度 + B棟延床面積 × B棟老朽化度 + C棟・・・) ÷ 施設延床面積 = 【1施設毎老朽化度】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 100%以上の場合、経過年数が耐用年数を超えた状態にあり、数値が大きいほど老朽化度合いが進んでいることを示します。逆に、100%未満の場合は、経過年数が耐用年数を下回っている状態にあり、指標値が低いほど新設に近いことを示します。 ・ 1つの施設の中に複数の棟がある場合は、延床面積をベースとした加重平均値として算出しています。したがって、主要建物建築年度は古くても、その他の建物が新しい施設は老朽化度 100%未満の数値として算出されるなどの場合があります。 ・ 法定耐用年数は、「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」に準拠しています。 なお、減価償却は、あくまで適切なコスト計算のために実施するものであり、法定耐用年数を超えたとしても、直ちに施設を安全に使用できない訳ではありません。
主要建物建築年度	施設内の主要建物(学校の校舎など施設の主な機能を持つ建物)が建築された年度を表記しています。
主要建物構造	施設内の主要建物の建築構造を表記しています。グラウンドや公園などの屋外施設の場合は、施設内にある事務所やトイレ等の構造を表記しています。

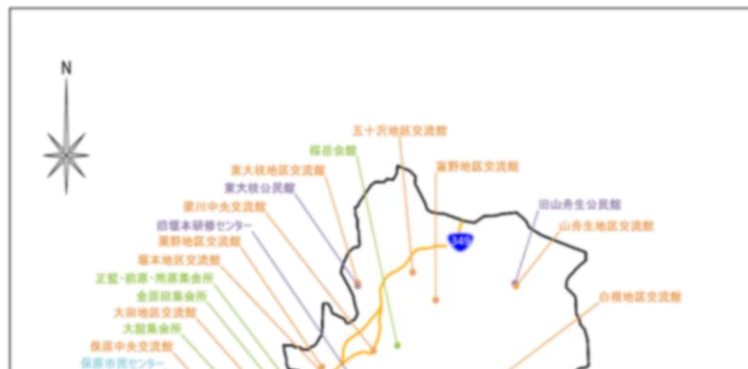
2. 利用度・コスト一覧(中分類別)

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者 1人当りの コスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者 1人当りの フルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネット 収支差額 (千円)	指定 管理料 (千円)
コミュニティセンター											
〇〇コミュニティセンター	3,810	11,816	15,627	7,433	2,102	3,677	19,304	2,597	65	19,239	—
××コミュニティセンター	3,819	6	3,826	5,316	719	813	4,640	872	512	4,127	0
小計	9,516	12,936	22,453	43,058	521	9,835	32,288	749	1,248	31,040	0
公民館											
〇〇中央公民館	5,023	6,005	11,028	41,722	264	3,974	15,003	359	61	14,941	—
〇〇東地区公民館	2,938	1,838	4,777	5,514	866	2,491	7,268	1,318	433	6,835	—
△△中央公民館	6,063	498	6,562	52,679	124	8,929	15,491	294	198	15,293	0
△△地区公民館	1,012	520	1,533	8,580	178	2,358	3,891	453	0	3,891	0
小計	54,463	65,091	119,555	326,507	366	65,967	185,522	568	2,725	182,796	0
その他集会所											
〇〇ふるさと会館	16,954	7,785	24,740	38,323	645	7,282	32,023	835	5,015	27,007	—
小計	16,988	9,259	26,248	38,323	684	10,402	36,650	956	5,015	31,634	0
合計	82,498	91,156	173,655	412,688	420	91,003	264,659	641	9,019	255,639	0

- ◆ 公共施設ごとに利用度やコストを明らかにしています。
- ◆ 維持管理費と事業運営費の合計をコスト、建物の老朽化の進行を表す減価償却費を含めたコストをフルコスト、フルコストから利用者等から受け取る収入を差し引いたものをネットコストとして整理しています。

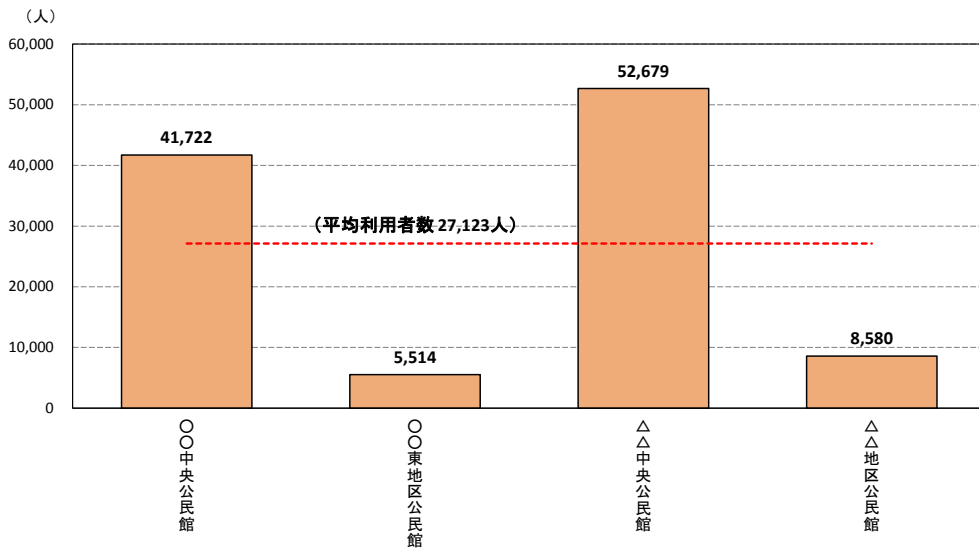
維持管理費	改修・修繕にかかる費用(修繕費)とランニングコスト(光熱水費等、土地建物賃貸借料)です。
事業運営費	事業を運営するためにかかる費用(人件費、運営業務委託費など)です。
コスト	維持管理費＋事業運営費 支出ベースの年間のコストを表しています。
利用者数	平成26年度に施設を利用した人数です。
減価償却費	建物の取得価額を耐用年数で除した額で、建設コストの毎年度の負担額です。
フルコスト	維持管理費＋事業運営費＋減価償却費 減価償却を含めた発生ベースの年間のコストを表しています。
収入	施設使用料、手数料など受益者負担として収入した金額です。
ネットコスト	維持管理費＋事業運営費＋減価償却費－収入 フルコストから収入を控除したもので、発生コストの純額を表しています。
指定管理料	利用料金(制)だけでは管理・運営に係わる経費が賅われない施設などの場合に、行政から指定管理者へ支払われる委託費です。

3. 施設配置状況(中分類別)



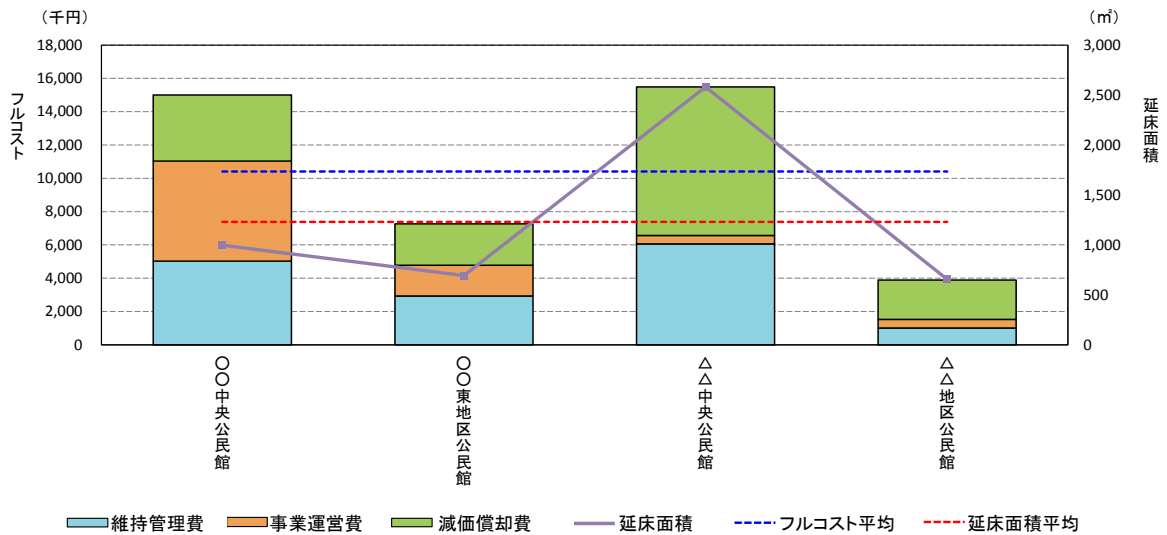
- ◆ 公共施設類型分類別に該当施設の配置状況を地図情報で明らかにしています。
- ◆ 地図情報をもとに、公共施設の配置が適切であるかどうかの検討の参考とします。

4. 利用者数(小分類別)



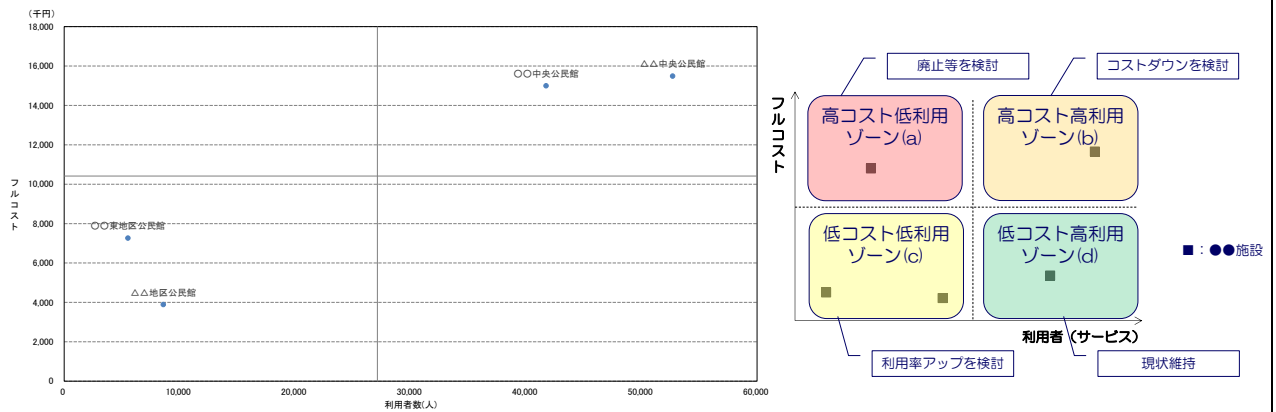
- ◆ 棒グラフで公共施設類型分類別に各施設の利用者数と平均値を示しています。
- ◆ グラフ形式で比較分析を行うことで、利用度が低い施設の特定などに役立えます。

5. フルコストと延床面積(小分類別)



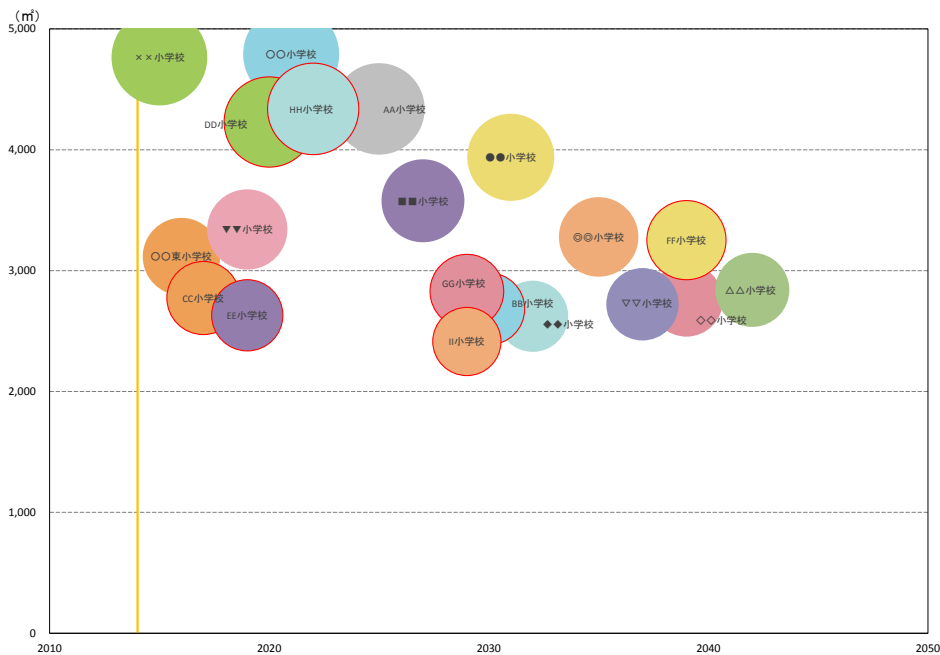
- ◆ 棒グラフでフルコストとその内訳、折れ線で延床面積を示しています。また、フルコストの平均値を青の破線、延床面積の平均値を赤の破線にて示しています。
- ◆ グラフ形式で比較分析を行うことで、類型内における各施設の規模や財政的な影響を把握します。

6. 利用者数とフルコスト(小分類別)



- ◆ 散布図で利用者数とフルコストを示しています。縦に引かれたグレーの実線は利用者数の平均値を、横に引かれたグレーの実線はフルコストの平均値を示しています。
- ◆ 2軸による4象限で表示することにより、利用とコストの状況を示します。各象限の意味するところは右上図のとおりであり、これらの象限ごとに、取るべき対応手段が分かります。

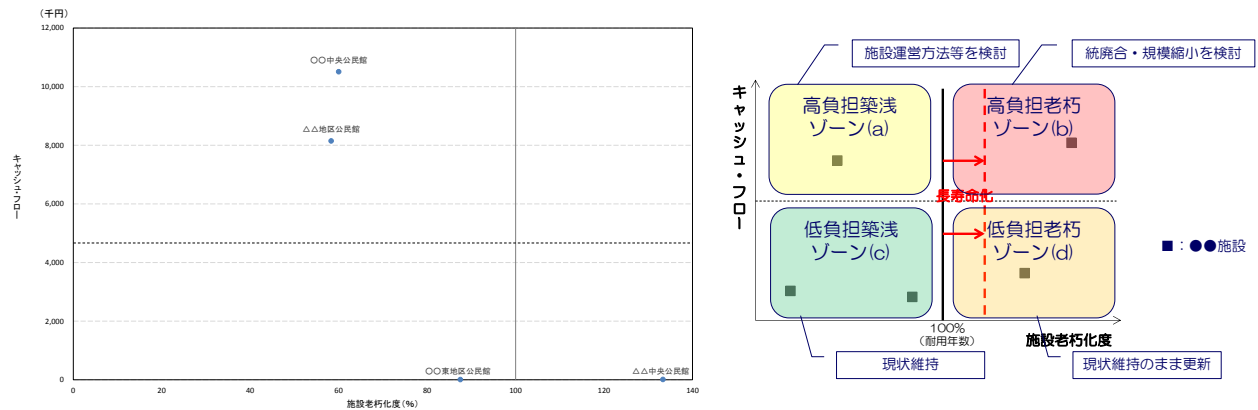
7. 延床面積と耐用年数到来年度(小分類別)



- ◆ バブル図で延床面積と耐用年数到来年度を示しています。グラフ上の黄色の縦線は調査時点の年度を示しています。
- ◆ 2軸で表示することにより、各施設の規模と更新時期の重なりを把握します。
- ◆ バブルの大きさは延床面積に比例し、施設規模の大きなものほどバブルも大きく表示されます。

※本章については比較的施設数の多い小分類や建替え・取り壊しの対象になりやすい小分類を抜粋して掲載しています。

8. キャッシュ・フローと老朽化度(小分類別)



- ◆ 散布図でキャッシュ・フローと老朽化度を示しています。
- ◆ 縦に引かれた実線は老朽化度 100%を示します。これより右側は耐用年数を経過した施設であることを、左側はまだ耐用年数未経過であることを示します。建設時は左端の 0%からスタートし、毎年経過するごとに徐々に右側に移動します。
- ◆ 横に引かれた点線は、キャッシュ・フローの平均値を示します。施設によっては収入超過となるものがあり、その場合は、マイナスの値として示されます。
- ◆ キャッシュ・フローの平均値と老朽化度 100%の水準で 4 象限を作り、施設がプロットされたゾーンごとに公費負担度合いと老朽化度を一目で把握します。老朽化度 100%を超えているもの(ないし 100%に近いものは)更新等の対応を検討すべき施設です。また、老朽化度が 100%未満であっても、キャッシュ・フローが大きく、高コスト体質(公費負担が重い)とされるものは、早急にコストの削減等を検討し、施設利用期間におけるトータルコストの圧縮を検討する必要があります。

キャッシュ・フロー	維持管理費＋事業運営費－収入 コストから収入を控除したもので、支出コストの純額を表しています、いわゆる、毎年の公費負担額を表しています。プラスは支出超過の状態を、マイナスは収入超過の状態を表しています。
-----------	--

1 集会施設の状況

表 4-1-1 集会施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
公民館	矢板	1	矢板公民館	直営		1,229	70.00	昭和 54年度	鉄筋コンクリート
	泉	2	泉公民館	直営		881	77.87	昭和 52年度	鉄筋コンクリート
	片岡	3	片岡公民館	直営		843	77.77	昭和 52年度	鉄筋コンクリート
小計						2,953			
コミュニティホール	片岡	1	コミュニティホール	直営		381	74.47	昭和 54年度	鉄筋コンクリート
小計						381			
合計						3,334			

公民館は、市内に 3 施設²あり、延床面積は合計 2,953 ㎡です。

コミュニティホールは、市内に 1 施設あり、延床面積は合計 381 ㎡です。

表 4-1-2 集会施設の利用度とコストの一覧

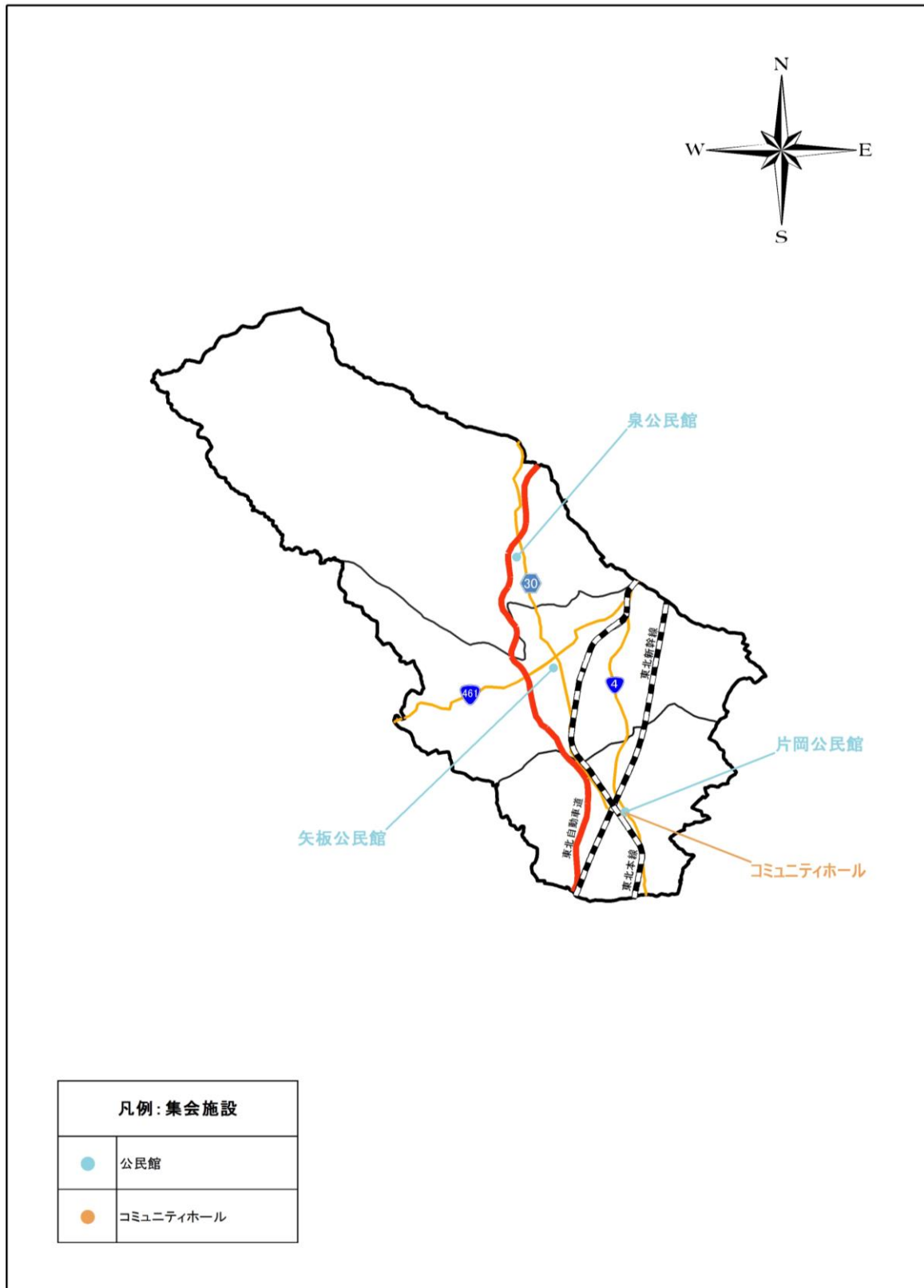
施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
公民館											
矢板公民館	2,600	19,956	22,556	23,923	942	3,266	25,822	1,079	222	25,600	—
泉公民館	2,745	26,995	29,741	8,267	3,597	1,544	31,286	3,784	34	31,251	—
片岡公民館	6,957	21,649	28,607	8,870	3,225	1,544	30,152	3,399	178	29,973	—
小計	12,303	68,601	80,905	41,060	1,970	6,355	87,261	2,125	435	86,825	0
コミュニティホール											
コミュニティホール	1,576	4,769	6,346	12,297	516	880	7,226	587	45	7,180	—
小計	1,576	4,769	6,346	12,297	516	880	7,226	587	45	7,180	0
合計	13,880	73,371	87,252	53,357	1,635	7,235	94,487	1,770	481	94,006	0

公民館の利用者数の合計は 41,060 人です。これらの施設にかかるフルコストは 87,261 千円です。

コミュニティホールの利用者数の合計は 12,297 人です。これらの施設にかかるフルコストは 7,226 千円です。

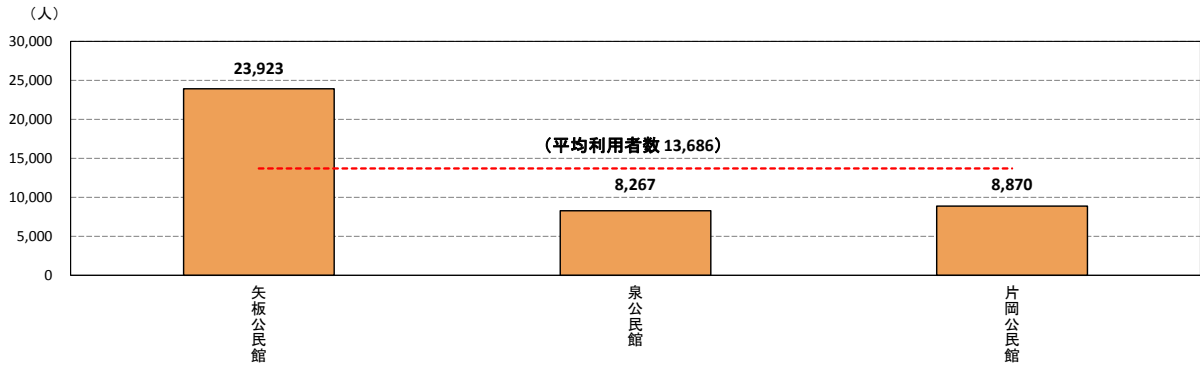
² 泉公民館（矢板市基幹集落センター）及び片岡公民館（矢板市就業改善センター）は、本来、農業振興施設であります。公民館として広く周知・活用されているため、公共施設白書の中では公民館として取り扱っております。

図 4-1-1 集会施設の配置状況



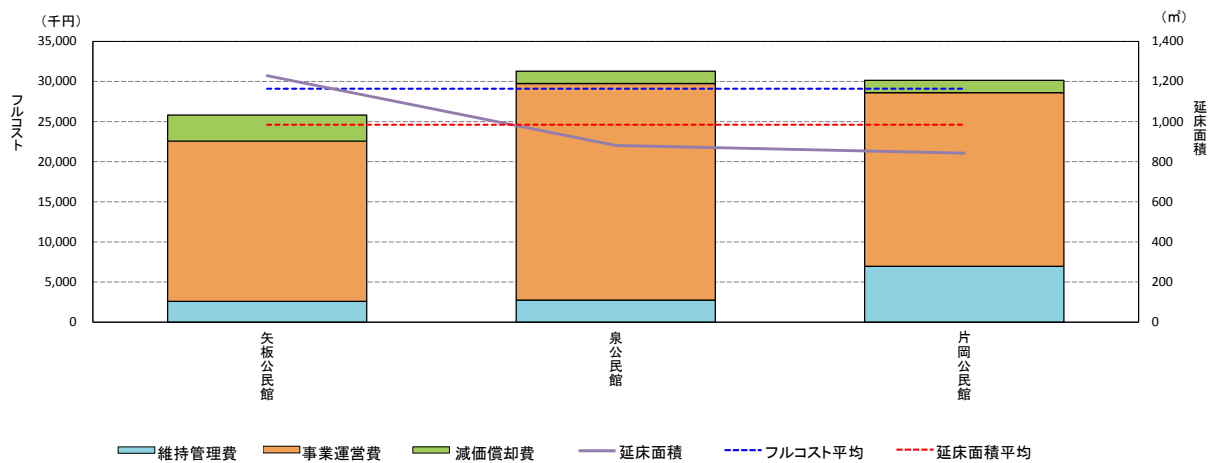
① 【集会施設】公民館の状況

図 4-1-2 公民館の利用者数(平成 26 年度)



公民館のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、矢板公民館の 23,923 人であり、2 番目は片岡公民館の 8,870 人です。最も利用者数が少ない施設は、泉公民館の 8,267 人です。

図 4-1-3 公民館のフルコストと延床面積



公民館のうち、延床面積が最も広いのは、矢板公民館の 1,229 ㎡であり、2 番目は泉公民館の 881 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、泉公民館の 31,286 千円であり、2 番目は片岡公民館の 30,152 千円です。

図 4-1-4 公民館の利用者数とフルコスト

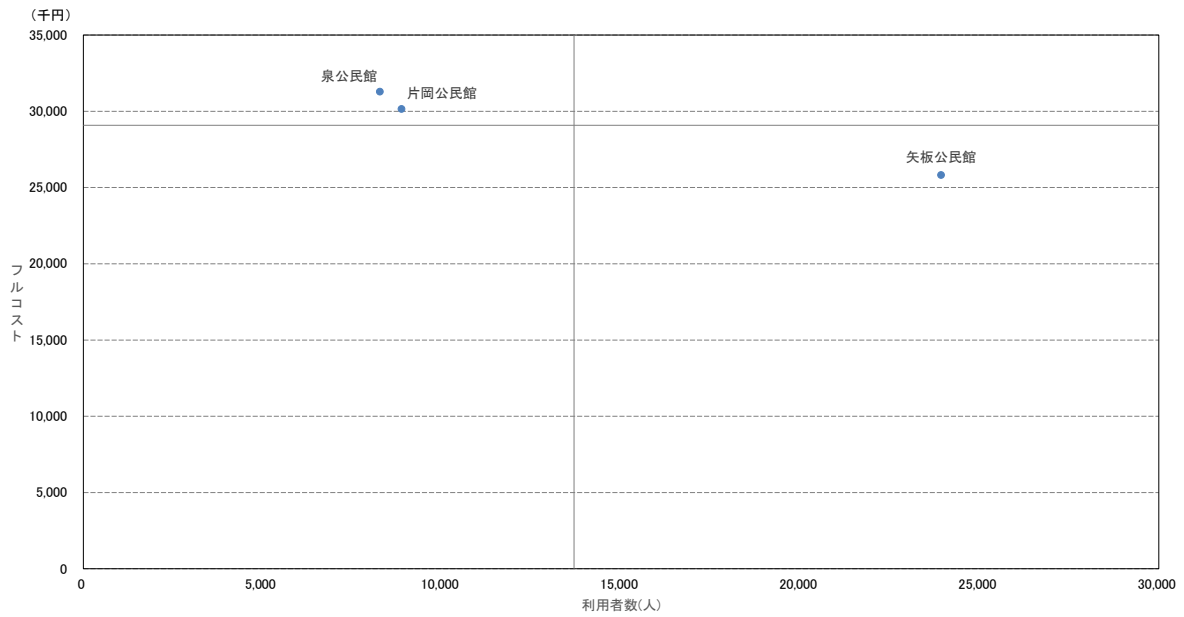
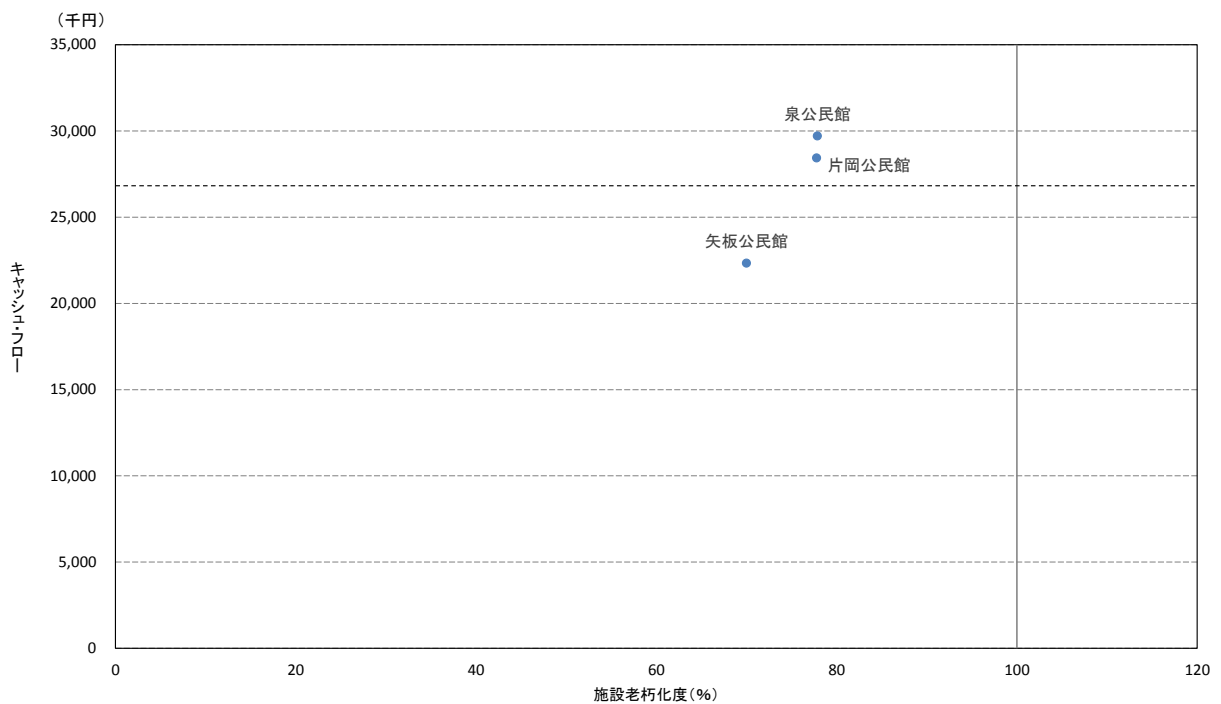


図 4-1-5 公民館のキャッシュ・フローと老朽化度

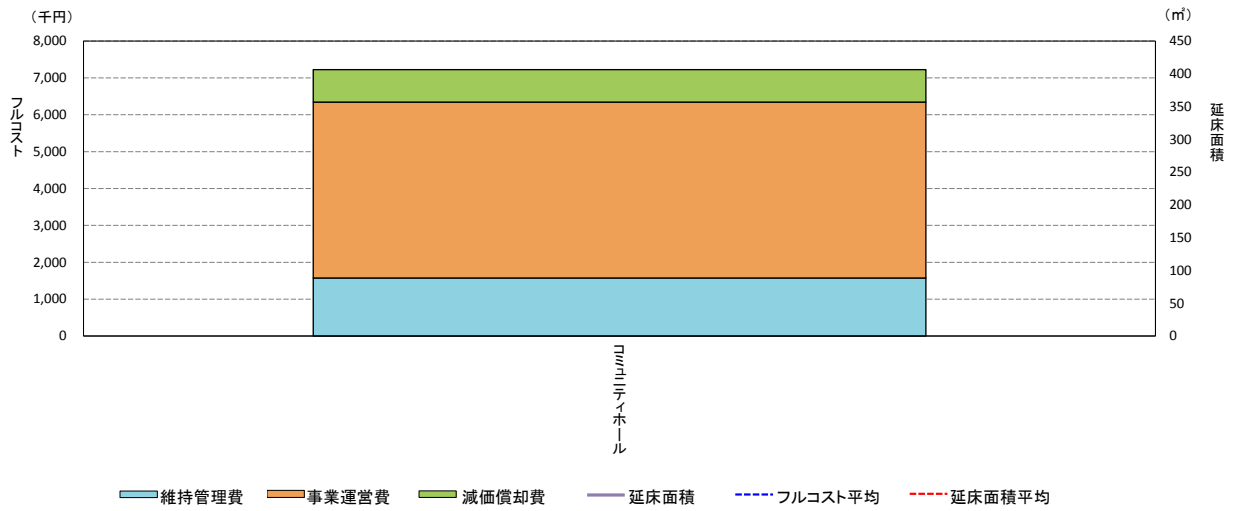


公民館は市内に3施設あり、市民活動の拠点として位置づけられる施設です。運営は、全て本市の直営で行われています。3施設とも同程度のコストがかかっている一方で、泉、片岡の公民館は利用者が少ない状況です。また、いずれも昭和50年代に建築したため、老朽化が進行しています。

今後の更新を検討するにあたっては、今後の利用者数の状況を適切に踏まえた規模とすることなどを検討する必要があります。

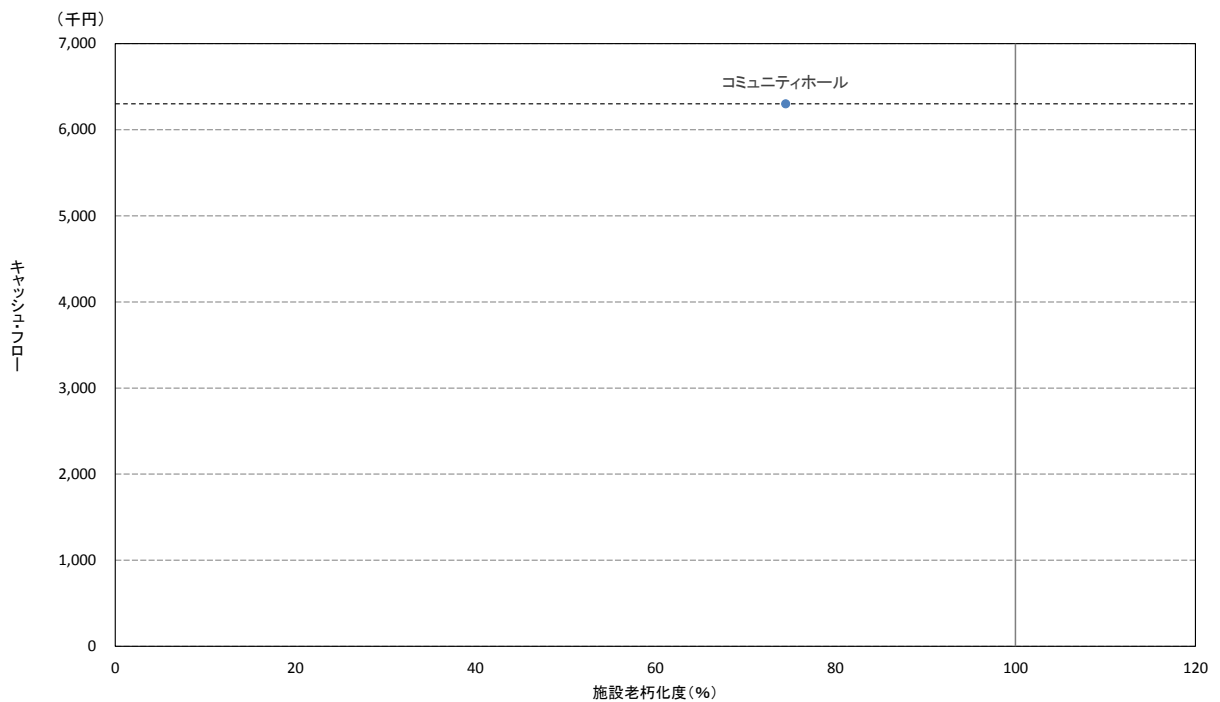
② 【集会施設】コミュニティホールの状況

図 4-1-6 コミュニティホールのフルコストと延床面積



コミュニティホールの延床面積は 381 ㎡です。また、フルコストは 7,226 千円です。

図 4-1-7 コミュニティホールのキャッシュ・フローと老朽化度



コミュニティホールは、昭和 50 年代に建築したため、老朽化が進行しております。今後の更新を検討するにあたっては、利用者数を適切に踏まえた規模とすることなどを検討する必要があります。

2 文化施設の状況

表 4-2-1 文化施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
文化会館	矢板	1	矢板市文化会館	直営		4,652	72.34	昭和 55年度	鉄筋コンクリート
小計						4,652			
生涯学習施設	矢板	1	矢板市生涯学習館	直営	●	1,231	46.00	平成 3年度	鉄筋コンクリート
小計						1,231			
合計						5,883			

文化会館は、市内に 1 施設あり、延床面積は合計 4,652 ㎡です。

生涯学習施設は、市内に 1 施設あり、延床面積は合計 1,231 ㎡です。

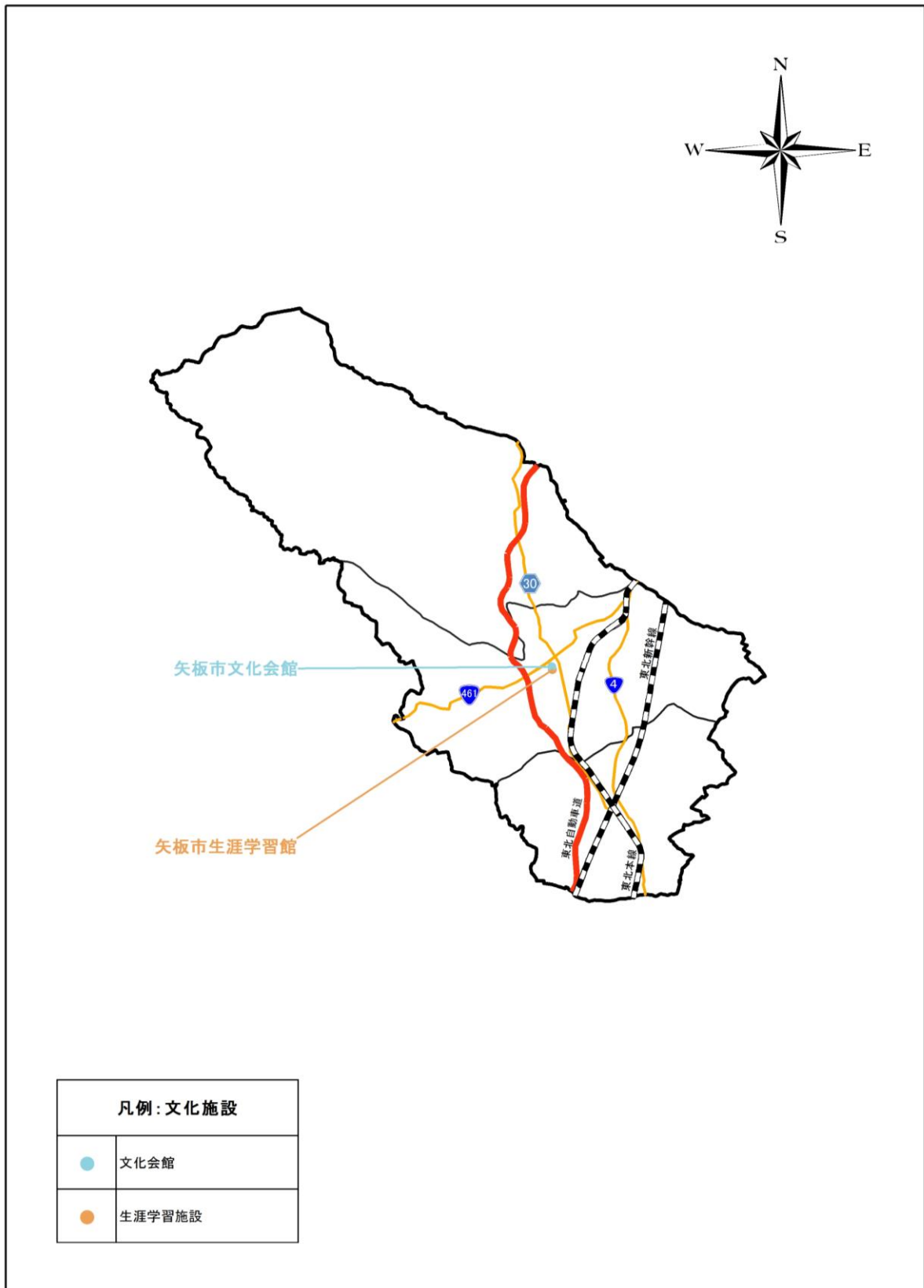
表 4-2-2 文化施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
文化会館											
矢板市文化会館	37,173	16,822	53,996	46,974	1,149	26,144	80,140	1,706	8,176	71,964	—
小計	37,173	16,822	53,996	46,974	1,149	26,144	80,140	1,706	8,176	71,964	0
生涯学習施設											
矢板市生涯学習館	3,399	3,160	6,560	27,767	236	7,375	13,935	501	1,082	12,853	—
小計	3,399	3,160	6,560	27,767	236	7,375	13,935	501	1,082	12,853	0
合計	40,573	19,983	60,556	74,741	810	33,520	94,076	1,258	9,259	84,817	0

文化会館の利用者数の合計は 46,974 人です。これらの施設にかかるフルコストは 80,140 千円です。

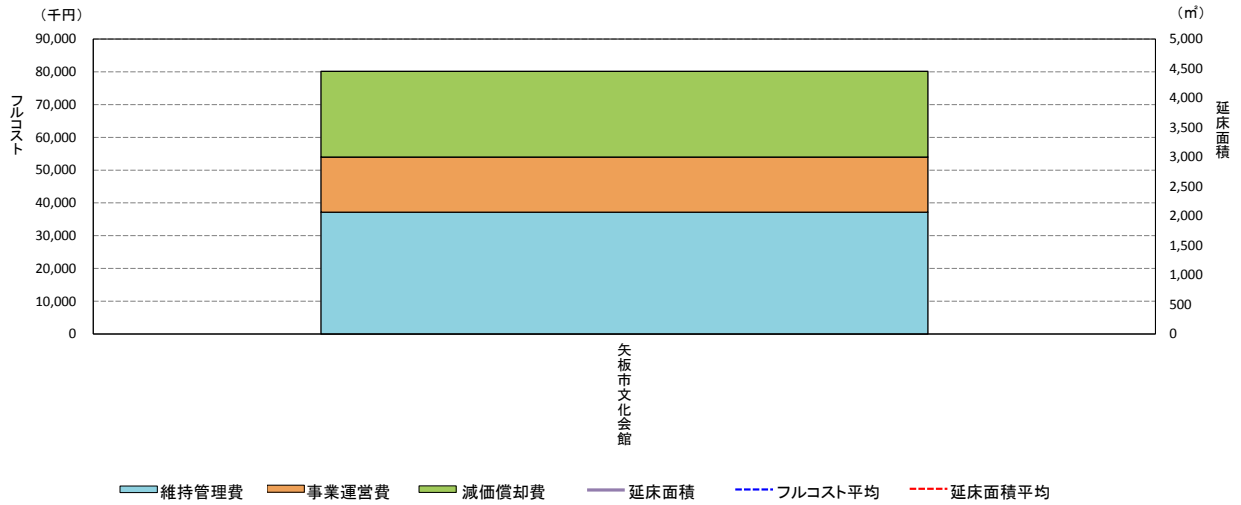
生涯学習施設の利用者数の合計は 27,767 人です。これらの施設にかかるフルコストは 13,935 千円です。

図 4-2-1 文化施設の配置状況



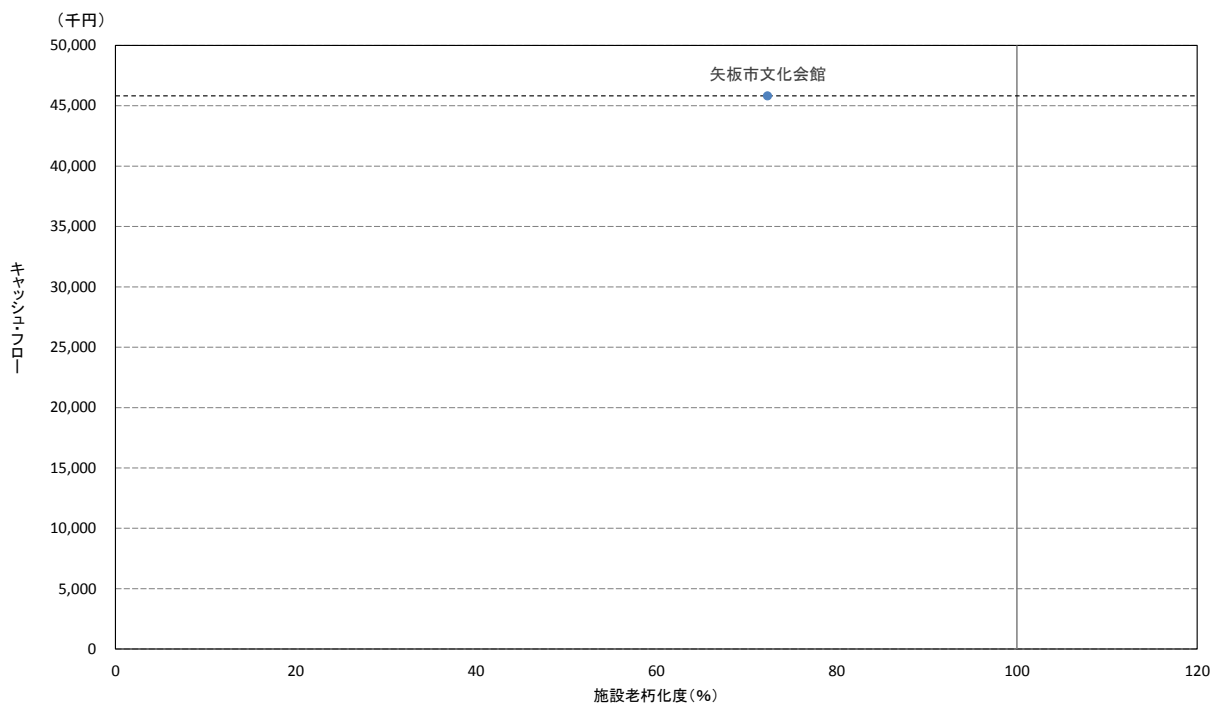
① 〔文化施設〕文化会館の状況

図 4-2-2 文化会館のフルコストと延床面積



矢板市文化会館の延床面積は 4,652 ㎡です。また、フルコストは 80,140 千円です。

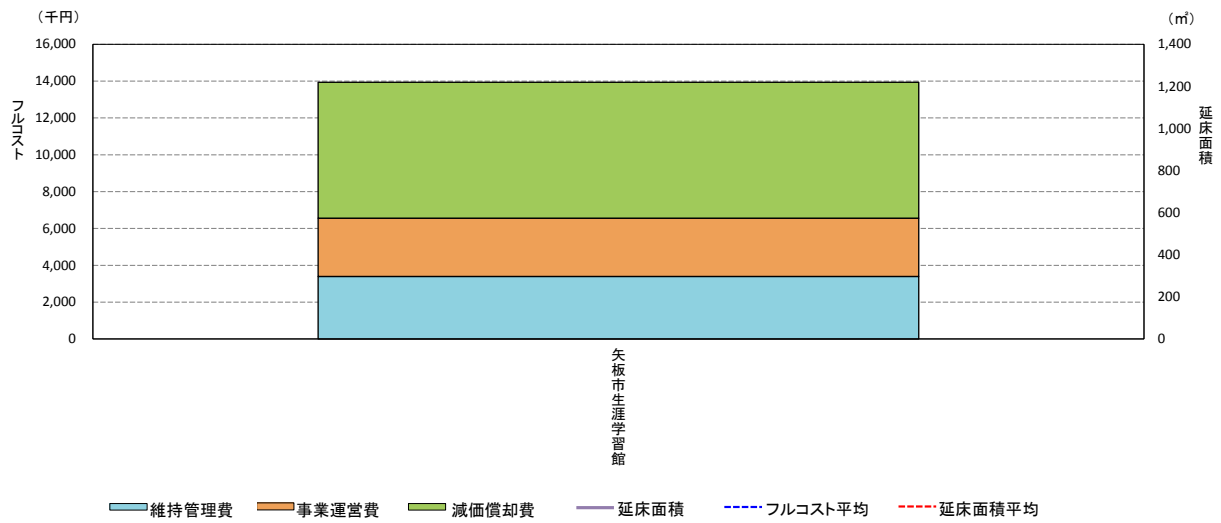
図 4-2-3 文化会館のキャッシュ・フローと老朽化度



矢板市文化会館は、本市の直営で行われています。昭和50年代に建築されており、老朽化が進行しています。維持管理に年間 30,000 千円以上のコストがかかっており、高コスト体質の施設になっています。コスト面から運営方法などの検討の可能性があります。

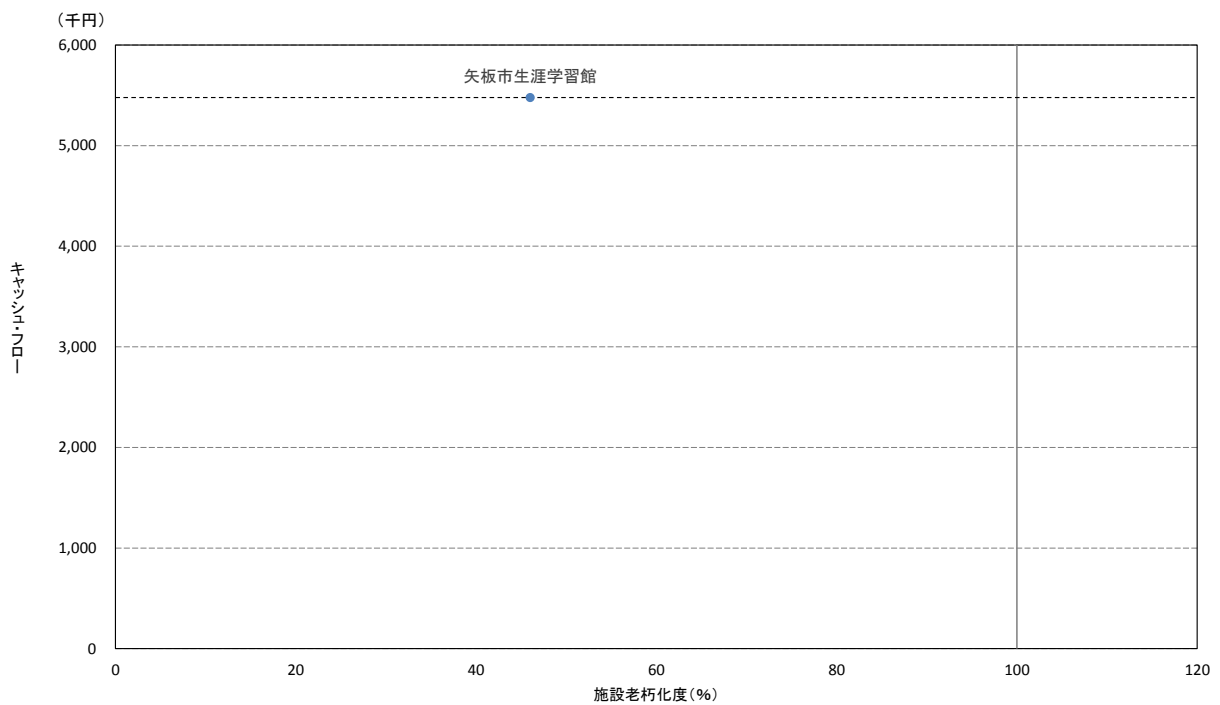
② 【文化施設】生涯学習施設の状況

図 4-2-4 生涯学習施設のフルコストと延床面積



矢板市生涯学習館の延床面積は 1,231 ㎡です。また、フルコストは 13,935 千円です。

図 4-2-5 生涯学習施設のキャッシュ・フローと老朽化度



矢板市生涯学習館は、本市の直営で行われています。平成3年度建築であり比較的近年に建築された施設です。体育室や研修室、会議室が設置されており、多目的な用途に使える施設となっています。利用者の利便性を高めるとともに、スペースの有効活用を図っていくことが必要です。

3 図書館の状況

表 4-3-1 図書館の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
図書館	矢板	1	矢板市立図書館	指定管理者		1,232	70.00	昭和 54年度	鉄筋コンクリート
小計						1,232			
合計						1,232			

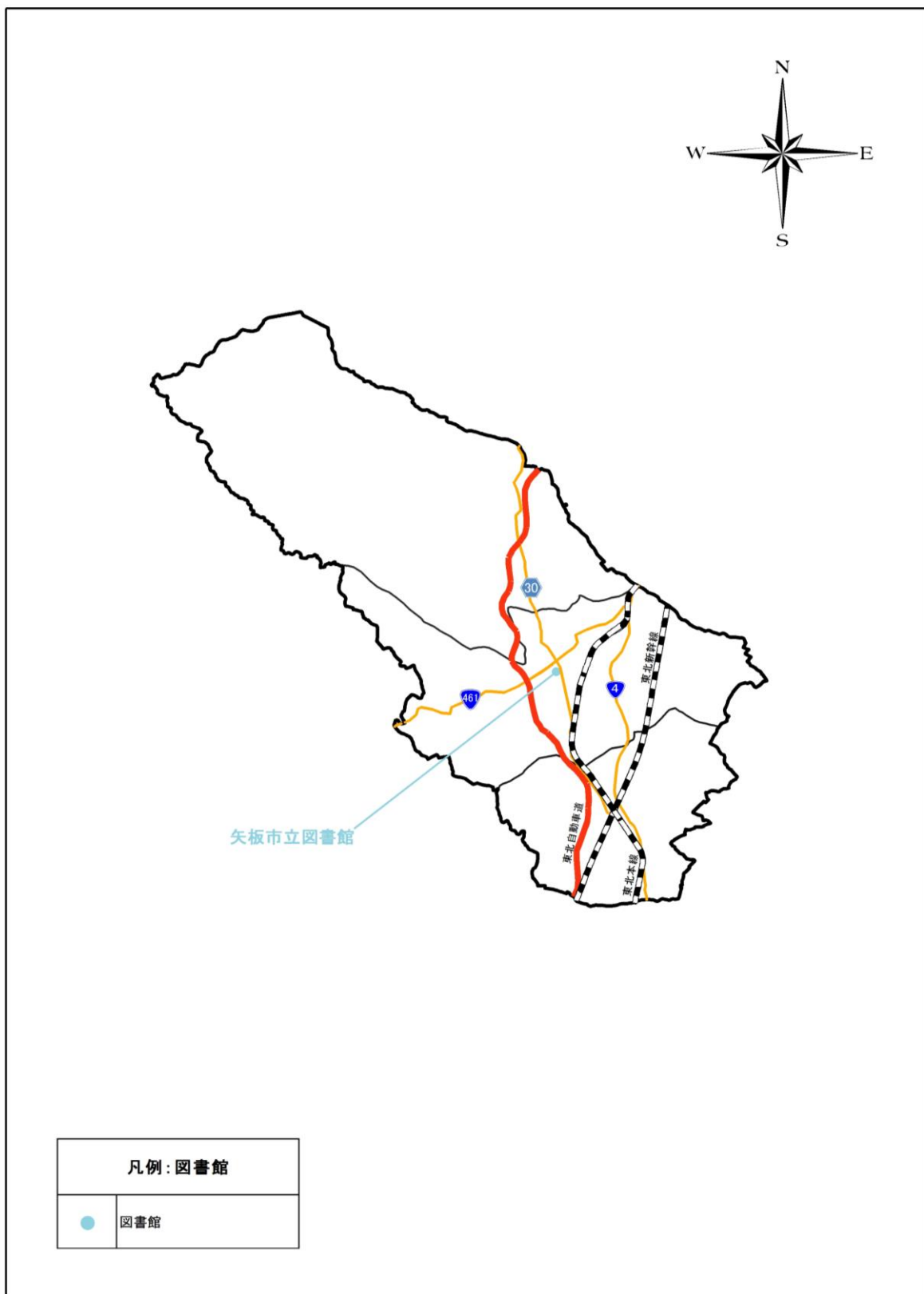
図書館は、市内に 1 施設あり、延床面積は合計 1,232 ㎡です。

表 4-3-2 図書館の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
図書館											
矢板市立図書館	10,254	36,700	46,955	98,270	477	4,500	51,455	523	12	51,442	46,285
小計	10,254	36,700	46,955	98,270	477	4,500	51,455	523	12	51,442	46,285
合計	10,254	36,700	46,955	98,270	477	4,500	51,455	523	12	51,442	46,285

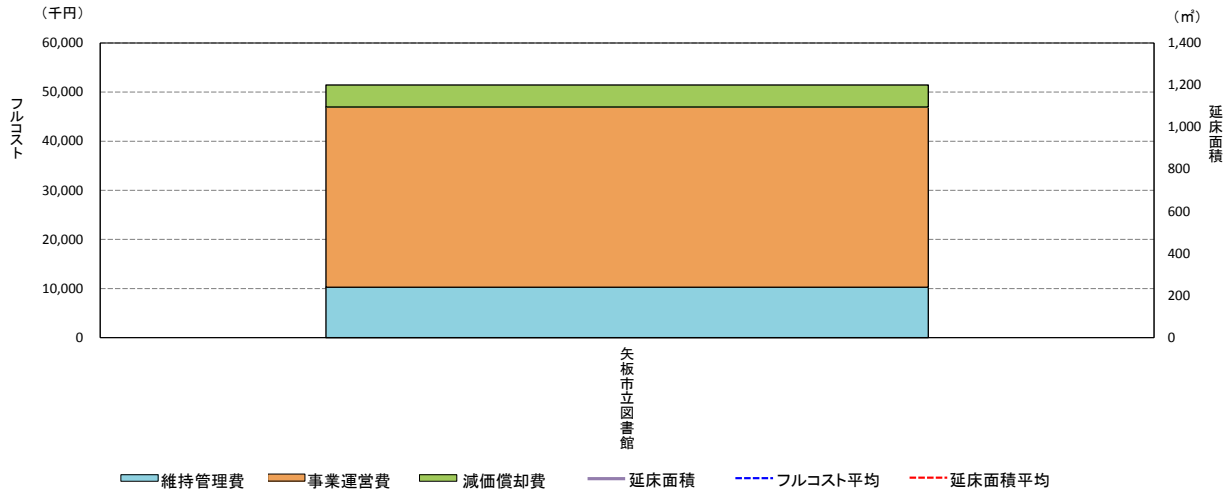
図書館の利用者数の合計は 98,270 人です。これらの施設にかかるフルコストは 51,455 千円です。

図 4-3-1 図書館の配置状況



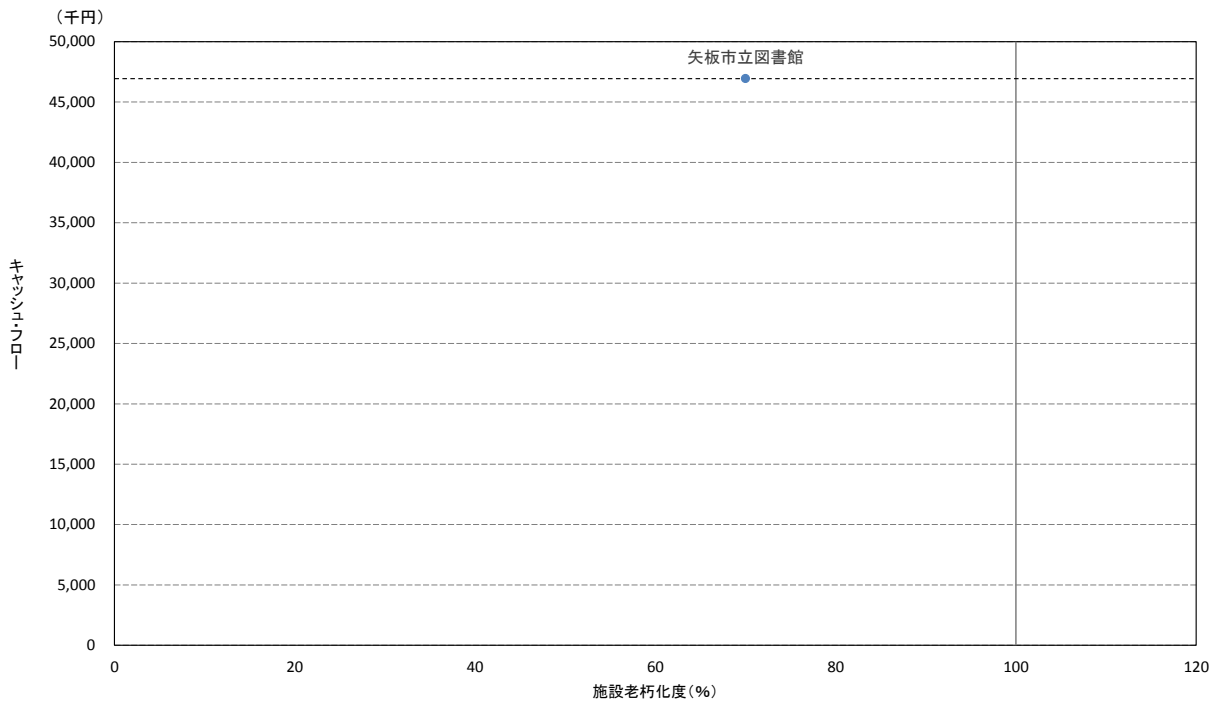
① 〔図書館〕図書館の状況

図 4-3-2 図書館のフルコストと延床面積



矢板市立図書館の延床面積は 1,232 ㎡です。また、フルコストは 51,455 千円です。

図 4-3-3 図書館のキャッシュ・フローと老朽化度



矢板市立図書館は、指定管理者の運営で行われています。昭和 50 年代に建築したため、老朽化が進行しています。利用者数は多いことから、他の公共施設における図書の配置などとあわせて、適正な図書館機能のあり方を検討していくことが求められます。

4 博物館等の状況

表 4-4-1 博物館等の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
文化財、博物館	矢板	1	矢板武記念館	直営		481	816.45	嘉永 3年度	木造
	矢板	2	矢板武記念館仮設倉庫	直営		26	87.50	平成 5年度	軽量鉄骨造
	泉	3	荒井家住宅公衆トイレ	直営		6	133.33	平成 6年度	木造
	泉	4	郷土資料館	直営		1,484	56.33	平成 7年度	鉄骨造
小計						1,997			
合計						1,997			

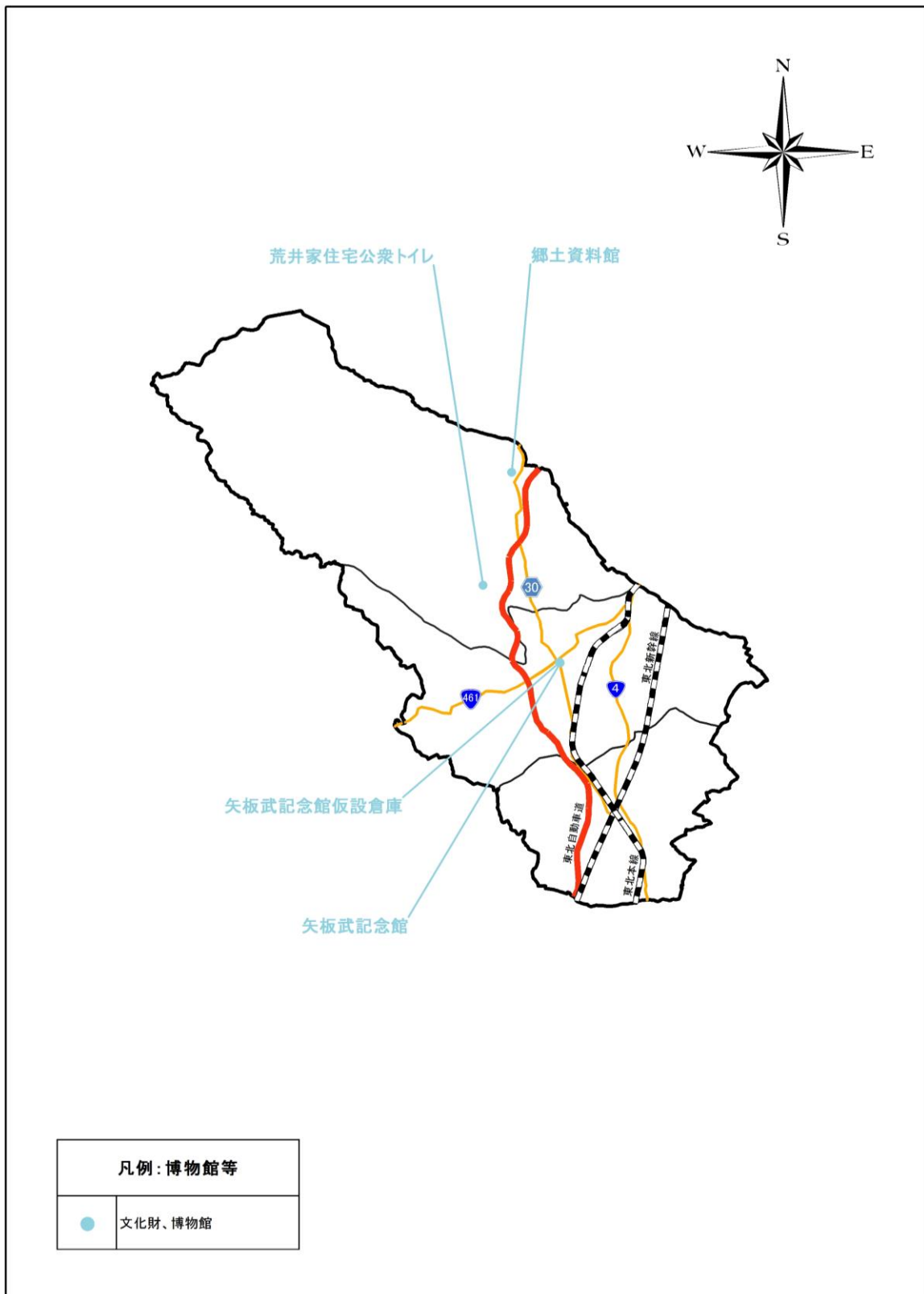
文化財、博物館は、市内に 4 施設あり、延床面積は合計 1,997 ㎡です。

表 4-4-2 博物館等の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
文化財、博物館											
矢板武記念館	7,126	3,380	10,507	3,554	2,956	173	10,681	3,005	201	10,479	—
矢板武記念館仮設倉庫	0	7	7	—	—	44	51	—	0	51	—
荒井家住宅公衆トイレ	2	7	10	—	—	0	10	—	0	10	—
郷土資料館	2,746	5,401	8,148	4,318	1,887	9,919	18,068	4,184	0	18,068	—
小計	9,875	8,797	18,673	7,872	2,372	10,138	28,811	3,659	201	28,610	0
合計	9,875	8,797	18,673	7,872	2,372	10,138	28,811	3,659	201	28,610	0

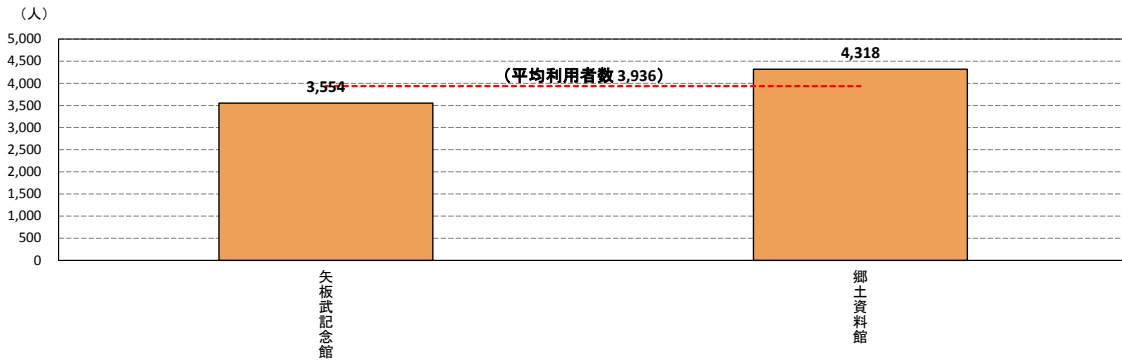
文化財、博物館の利用者数の合計は 7,872 人です。これらの施設にかかるフルコストは 28,811 千円です。

図 4-4-1 博物館等の配置状況



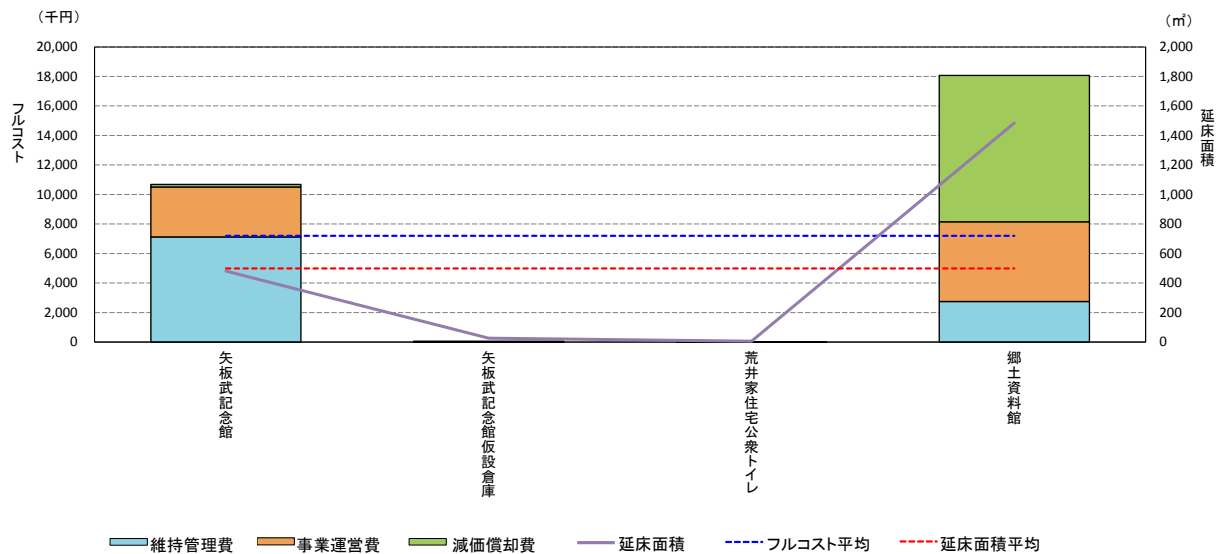
① 〔博物館等〕文化財、博物館の状況

図 4-4-2 文化財、博物館の利用者数(平成 26 年度)



文化財、博物館のうち、郷土資料館の利用者数は 4,318 人であり、矢板武記念館の利用者数は 3,554 人です。

図 4-4-3 文化財、博物館のフルコストと延床面積



文化財、博物館のうち、延床面積が最も広いのは、郷土資料館の 1,484 ㎡であり、2 番目は矢板武記念館の 481 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、郷土資料館の 18,068 千円であり、2 番目は矢板武記念館の 10,681 千円です。

図 4-4-4 文化財、博物館の利用者数とフルコスト

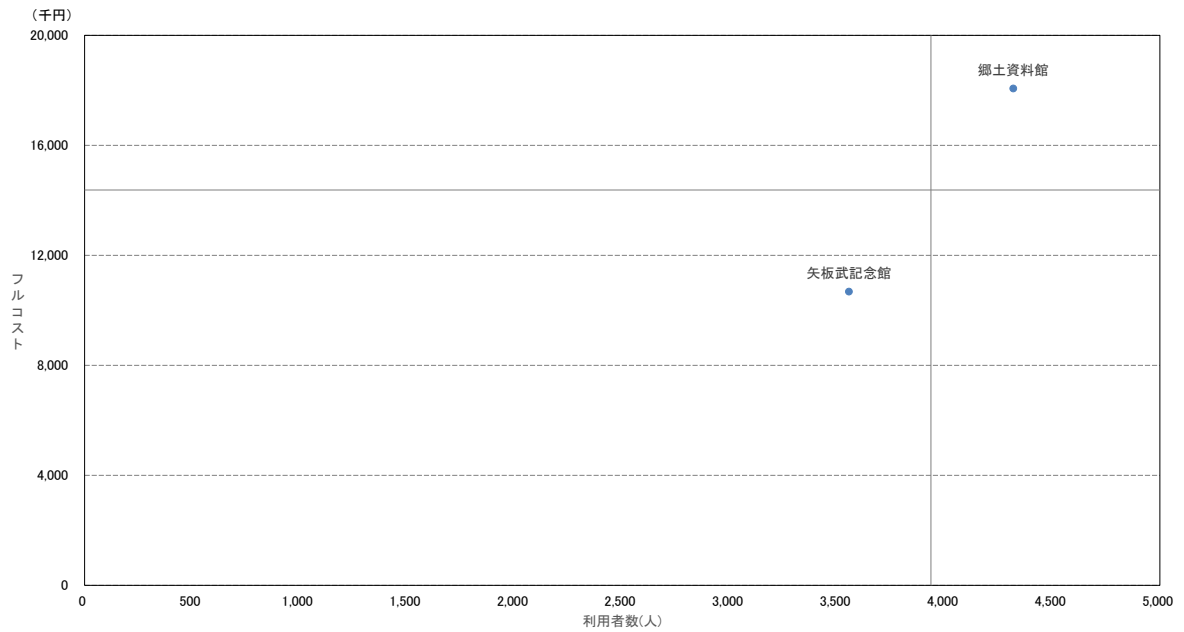
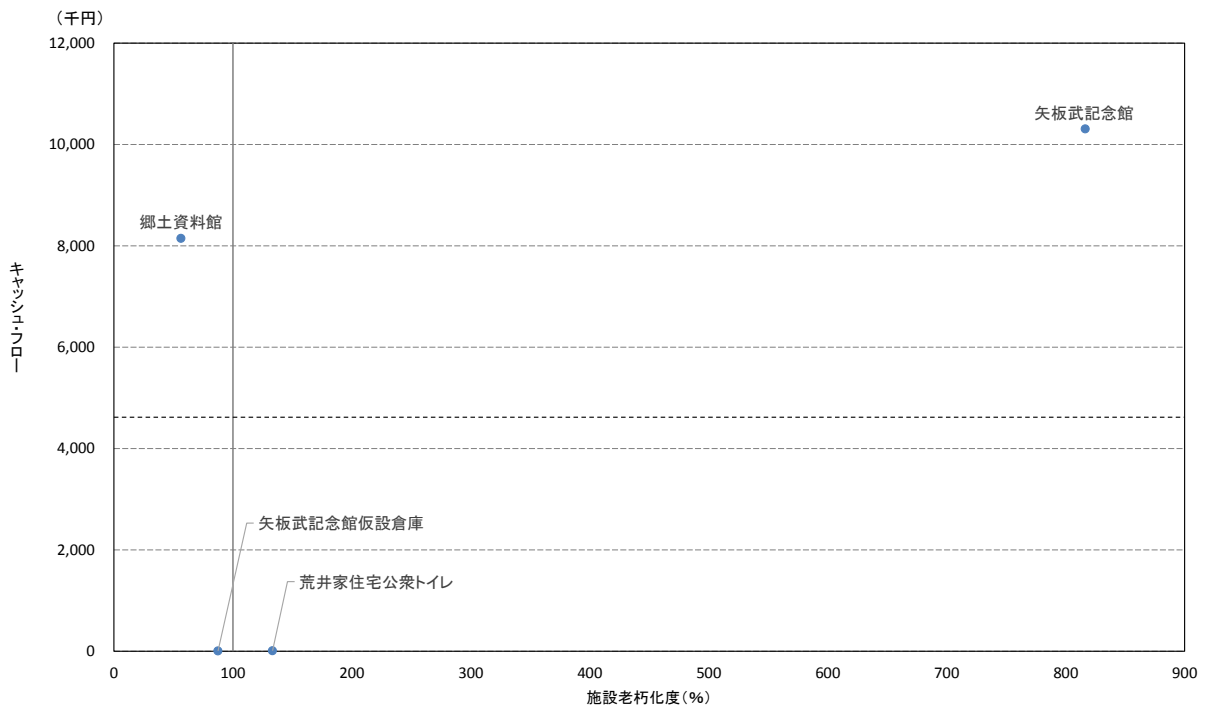


図 4-4-5 文化財、博物館のキャッシュ・フローと老朽化度



郷土資料館、矢板武記念館ともに維持、事業運営に 10,000 千円程度のコストがかかっています。施設運営にあたっては経済性、効率性を追求していくことも必要です。矢板武記念館は歴史的建造物としての要素もあり、容易に建替えられるものではないため、原型のままで維持管理を適切に進めていく方策を検討していくことが必要です。

5 スポーツ施設の状況

表 4-5-1 スポーツ施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営 主体	複合 施設	延床 面積 (㎡)	老朽 化度 (%)	主要建物 建築年度	主要 建物構造
屋内 スポーツ施設	矢板	1	矢板市体育館	直営		1,680	138.24	昭和 42年度	鉄骨造
	矢板	2	日新体育館	直営		825	67.65	平成 3年度	鉄骨造
	矢板	3	矢板市武道館	直営		854	94.12	昭和 57年度	鉄骨造
	矢板	4	矢板市弓道場	直営		204	127.27	昭和 61年度	木造
	泉	5	長井体育館	直営		854	53.67	平成 8年度	鉄骨造
	泉	6	上伊佐野体育館	直営		833	52.94	平成 8年度	鉄骨造
	片岡	7	農業者トレーニングセンター	指定管理者		1,237	94.12	昭和 57年度	鉄骨造
小計						6,487			
屋外 スポーツ施設	矢板	1	矢板運動公園管理事務所	直営		218	104.25	昭和 50年度	鉄骨造
	矢板	2	矢板運動公園陸上競技場	直営		206	79.00	昭和 53年度	鉄筋コンクリート
	矢板	3	矢板運動公園サッカー場	直営		83	102.57	昭和 54年度	鉄筋コンクリート
	矢板	4	矢板運動公園プール	直営		324	63.83	昭和 59年度	鉄筋コンクリート
	矢板	5	矢板運動公園相撲場	直営		365	67.65	平成 3年度	鉄骨造
	矢板	6	矢板運動公園テニスコート	直営		128	55.32	昭和 63年度	鉄筋コンクリート
	矢板	7	矢板運動公園多目的グラウンド	直営		100	45.32	平成 9年度	鉄筋コンクリート
	矢板	8	矢板運動公園野球場	直営		1,554	21.32	平成 17年度	鉄筋コンクリート
	矢板	9	日新多目的グラウンド	直営		35	160.00	平成 2年度	木造
	泉	10	泉運動場	指定管理者		35	160.00	平成 2年度	木造
	泉	11	旧長井小校庭	直営		30	67.74	平成 5年度	鉄骨造
	泉	12	旧上伊佐野小校庭	直営		50	120.00	平成 8年度	木造
	片岡	13	片岡運動場	指定管理者		85	127.34	昭和 57年度	木造
小計						3,213			
合計						9,700			

屋内スポーツ施設は、市内に 7 施設あり、延床面積は合計 6,487 ㎡です。

屋外スポーツ施設は、市内に 13 施設あり、延床面積は合計 3,213 ㎡です。

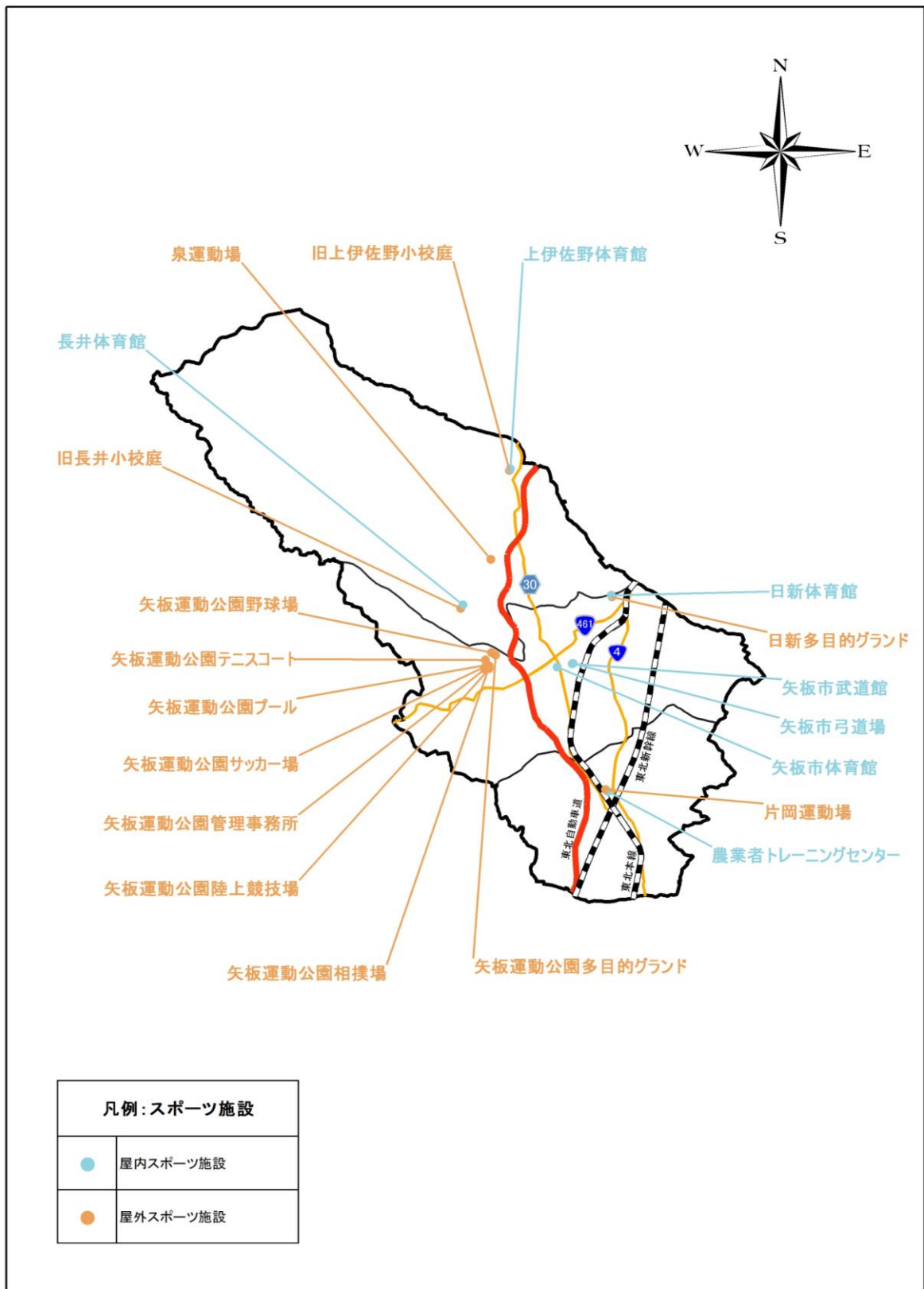
表 4-5-2 スポーツ施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持 管理費 (千円)	事業 運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者 1人当たり のコスト (円/人)	減価 償却費 (千円)	フル コスト (千円)	利用者 1人当たり のフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネット コスト 収支差額 (千円)	指定 管理料 (千円)
屋内スポーツ施設											
矢板市体育館	959	586	1,546	33,999	45	0	1,546	45	729	817	—
日新体育館	971	824	1,795	3,918	458	4,573	6,368	1,625	20	6,348	—
矢板市武道館	540	510	1,051	20,402	51	2,574	3,625	177	174	3,450	—
矢板市弓道場	248	466	715	2,551	280	0	715	280	141	573	—
長井体育館	790	824	1,614	5,208	309	5,295	6,910	1,326	112	6,797	—
上伊佐野体育館	20	53	73	2,450	30	5,268	5,342	2,180	40	5,302	—
農業者トレーニングセンター	1,788	6,123	7,911	12,238	646	3,300	11,211	916	1,457	9,753	7,223
小計	5,319	9,389	14,708	80,766	182	21,011	35,719	442	2,675	33,044	7,223
屋外スポーツ施設											
矢板運動公園管理事務所	771	824	1,595	—	—	59	1,654	—	0	1,654	—
矢板運動公園陸上競技場	5,736	945	6,682	15,430	433	674	7,356	476	867	6,489	—
矢板運動公園サッカー場	3,368	824	4,192	8,211	510	733	4,926	600	95	4,831	—
矢板運動公園プール	1,053	824	1,877	5,398	347	1,760	3,637	673	554	3,083	—
矢板運動公園相撲場	6	62	68	610	112	1,526	1,595	2,614	10	1,585	—
矢板運動公園テニスコート	1,872	824	2,696	13,743	196	492	3,189	232	1,778	1,410	—
矢板運動公園多目的グラウンド	3,434	824	4,258	19,886	214	765	5,024	252	581	4,442	—
矢板運動公園野球場	2,818	824	3,642	11,165	326	7,601	11,244	1,007	432	10,811	—
日新多目的グラウンド	1,808	824	2,632	9,961	264	0	2,632	264	263	2,369	—
泉運動場	2,020	422	2,442	8,228	296	0	2,442	296	181	2,261	1,304
旧長井小校庭	770	824	1,594	926	1,721	59	1,653	1,785	0	1,653	—
旧上伊佐野小校庭	1,635	824	2,459	3,245	757	0	2,459	757	0	2,459	—
片岡運動場	10,516	1,058	11,574	14,604	792	99	11,674	799	610	11,063	3,419
小計	35,813	9,905	45,718	111,407	410	13,773	59,492	534	5,375	54,116	4,723
合計	41,132	19,294	60,426	192,173	314	34,784	95,211	495	8,050	87,161	11,946

屋内スポーツ施設の利用者数の合計は 80,766 人です。これらの施設にかかるフルコストは 35,719 千円です。

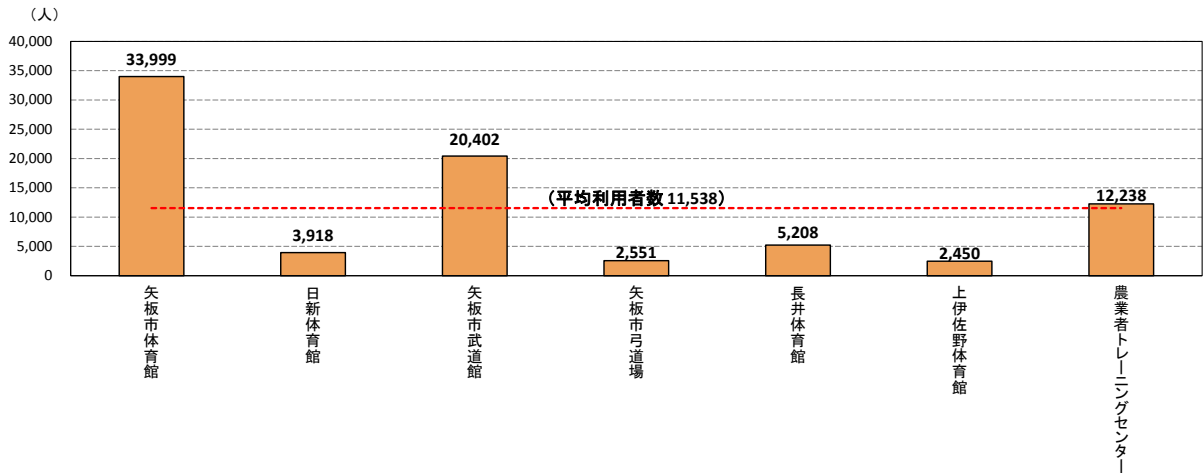
屋外スポーツ施設の利用者数の合計は 111,407 人です。これらの施設にかかるフルコストは 59,492 千円です。

図 4-5-1 スポーツ施設の配置状況



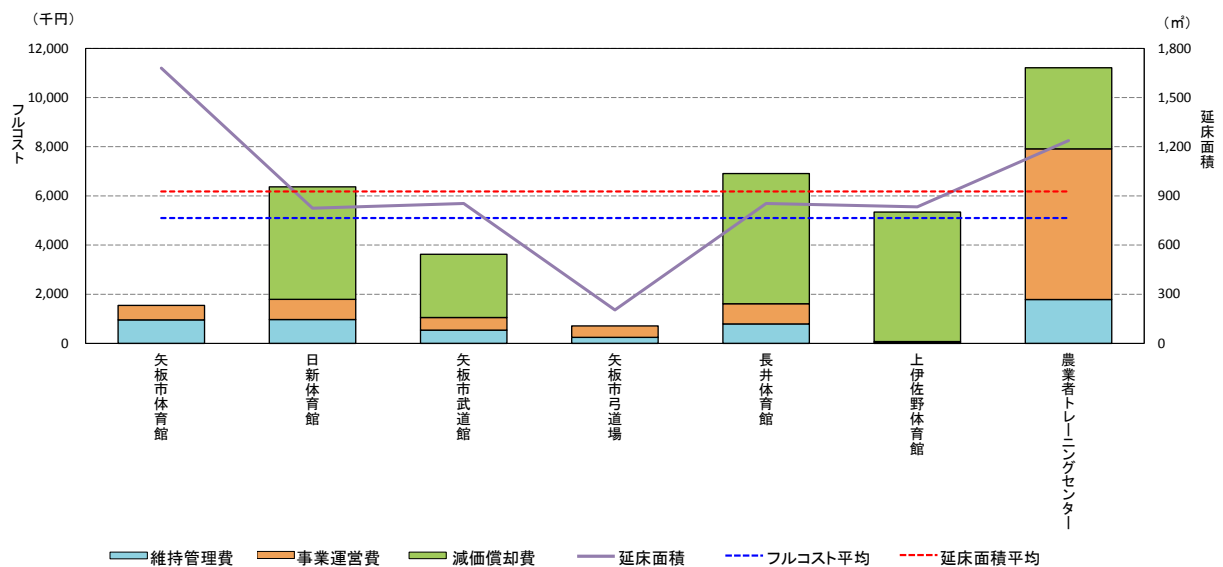
① 【スポーツ施設】屋内スポーツ施設の状況

図 4-5-2 屋内スポーツ施設の利用者数(平成 26 年度)



屋内スポーツ施設のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、矢板市体育館の 33,999 人であり、2 番目は矢板市武道館の 20,402 人です。最も利用者数が少ない施設は、上伊佐野体育館の 2,450 人であり、2 番目は矢板市弓道場の 2,551 人です。

図 4-5-3 屋内スポーツ施設のフルコストと延床面積



屋内スポーツ施設のうち、延床面積が最も広いのは、矢板市体育館の 1,680 m²であり、2 番目は農業者トレーニングセンターの 1,237 m²です。また、フルコストが最も高いのは、農業者トレーニングセンターの 11,211 千円であり、2 番目は長井体育館の 6,910 千円です。

図 4-5-4 屋内スポーツ施設の利用者数とフルコスト

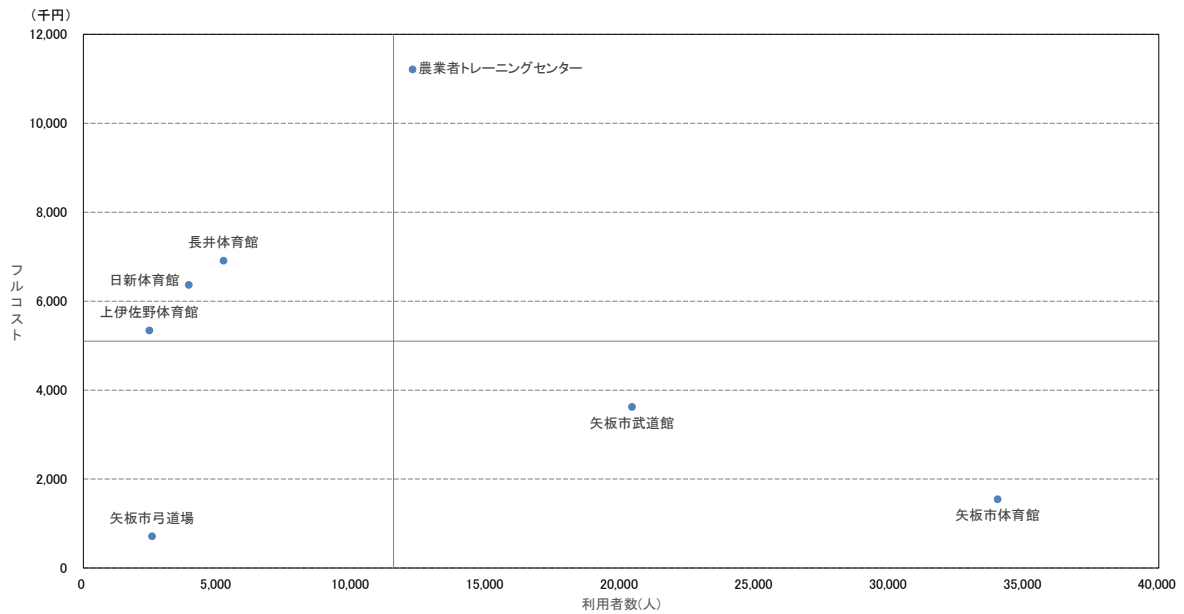
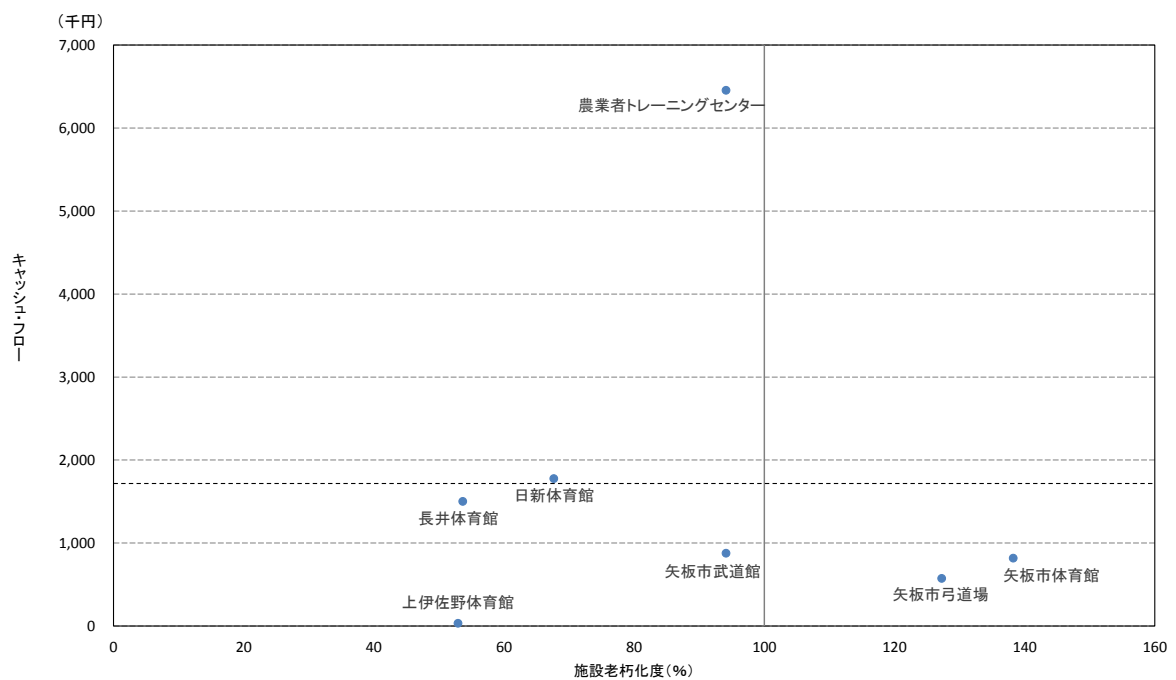


図 4-5-5 屋内スポーツ施設のキャッシュ・フローと老朽化度



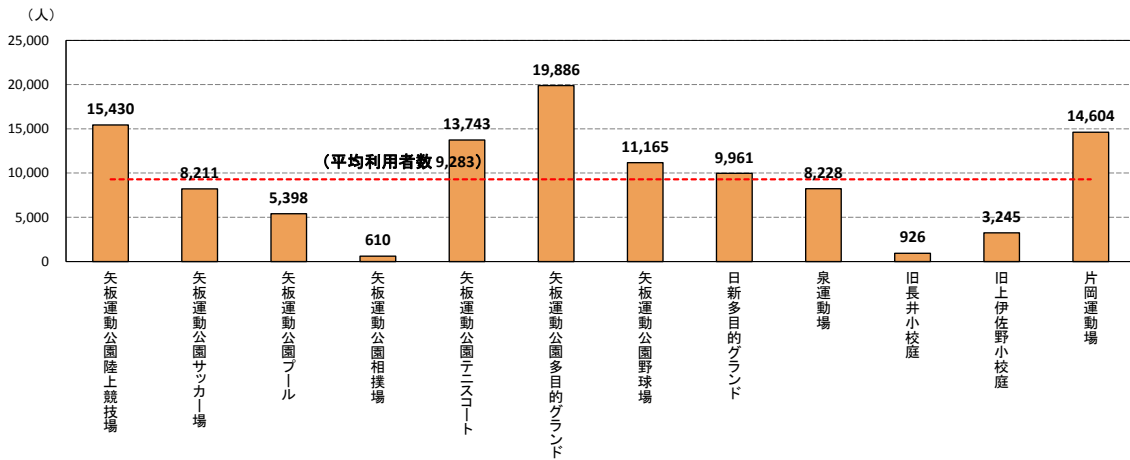
矢板市体育館、矢板市弓道場、矢板市武道館及び農業者トレーニングセンターは昭和40年～60年代に建築されており、老朽化が進行しています。矢板市体育館と矢板市武道館は、市民の屋内スポーツの拠点と位置づけられており、利用者も多いことから、早急な対応が必要です。

農業者トレーニングセンターは他の屋内スポーツ施設に比べてコストがかかっています。今後の更新等においては、規模や利用状況等を勘案することが必要です。

また、長井体育館、日新体育館、上伊佐野体育館は、利用者が少なく、コストがかかっているため、今後の施設のあり方についての検討も必要です。

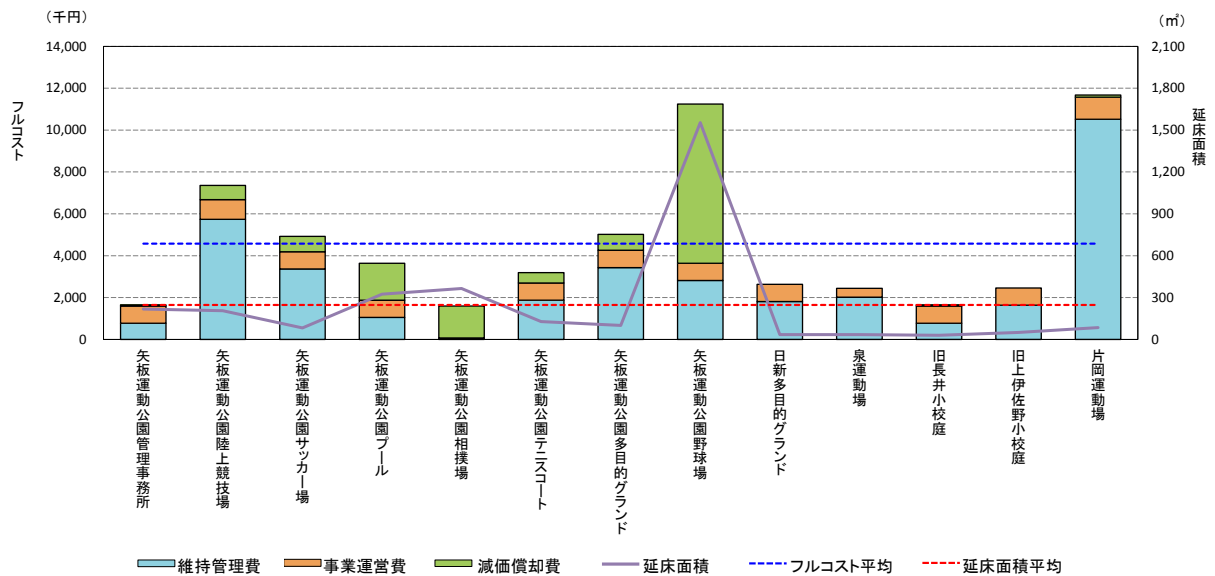
② 【スポーツ施設】屋外スポーツ施設の状況

図 4-5-6 屋外スポーツ施設の利用者数(平成 26 年度)



屋外スポーツ施設のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、矢板運動公園多目的グラウンドの19,886人であり、2番目は矢板市運動公園陸上競技場の15,430人です。最も利用者数が少ない施設は、矢板運動公園相撲場の610人であり、2番目は旧長井小校庭の926人です。

図 4-5-7 屋外スポーツ施設のフルコストと延床面積



屋外スポーツ施設のうち、延床面積が最も広いのは、矢板運動公園野球場の1,554㎡であり、2番目は矢板運動公園相撲場の365㎡です。また、フルコストが最も高いのは、片岡運動場の11,674千円であり、2番目は矢板運動公園野球場の11,244千円です。

図 4-5-8 屋外スポーツ施設の利用者数とフルコスト

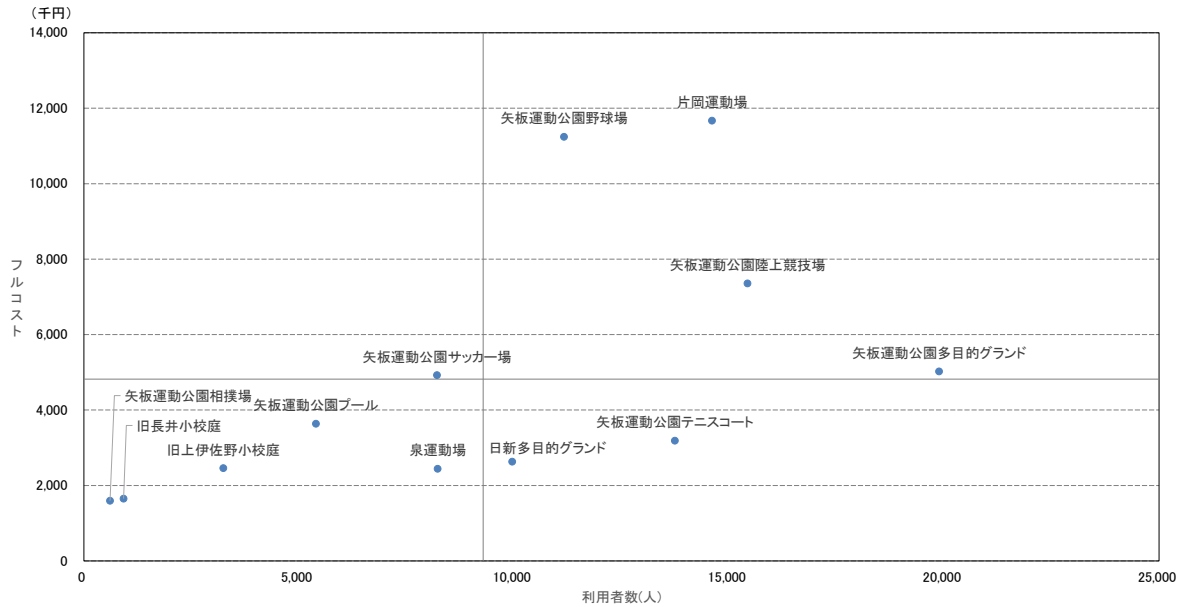
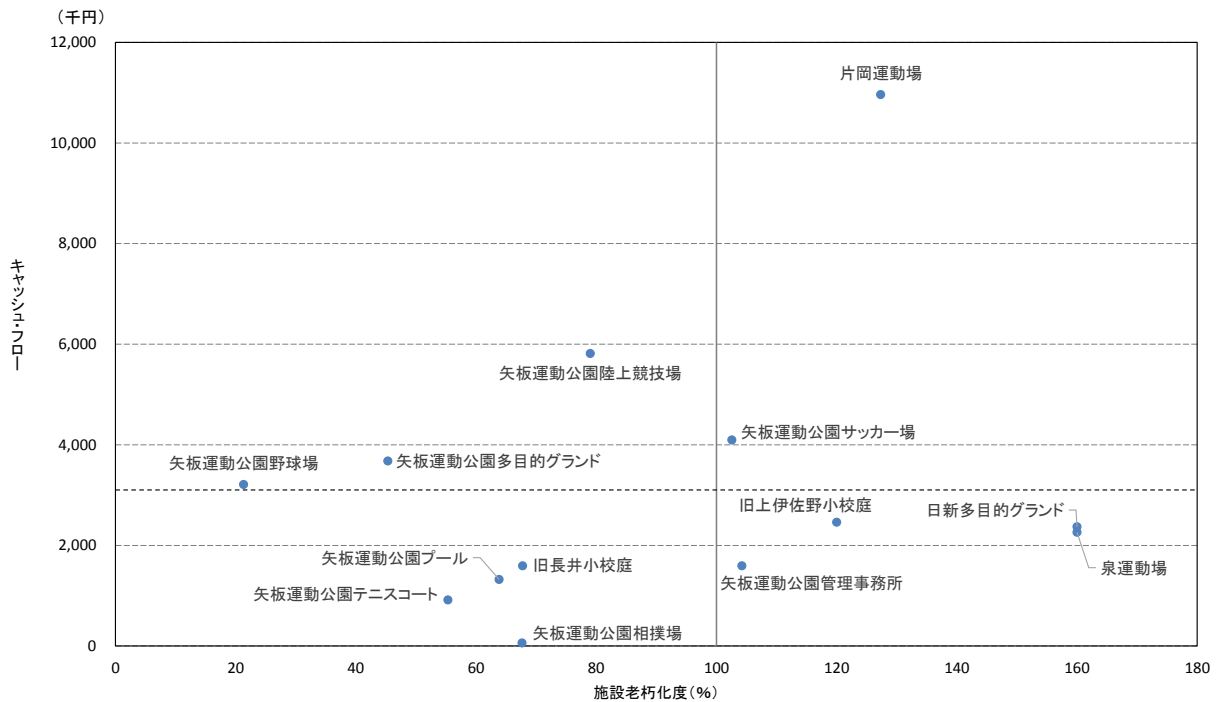


図 4-5-9 屋外スポーツ施設のキャッシュ・フローと老朽化度



片岡運動場、泉運動場以外の運営は本市の直営で行われています。昭和 50 年代に建築された施設が全施設の 3 分の 1 を占めるなど、老朽化が進行しています。

片岡運動場は、他の施設と比較してコストがかかっているため、維持管理費用、運営方法などの見直しの検討が必要です。

利用者数にバラつきがあり、あまり利用されていない施設もあります。老朽化対応にあたっては、これらの施設の今後の利用状況等を踏まえて検討することが必要です。

6 レクリエーション施設・観光施設の状況

表 4-6-1 レクリエーション施設・観光施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
観光施設	泉	1	八方ヶ原交流促進センター	指定管理者		467	50.00	平成 14年度	木造
	泉	2	八方休憩所	直営		191	114.84	昭和 43年度	コンクリートブロック
小計						658			
合計						658			

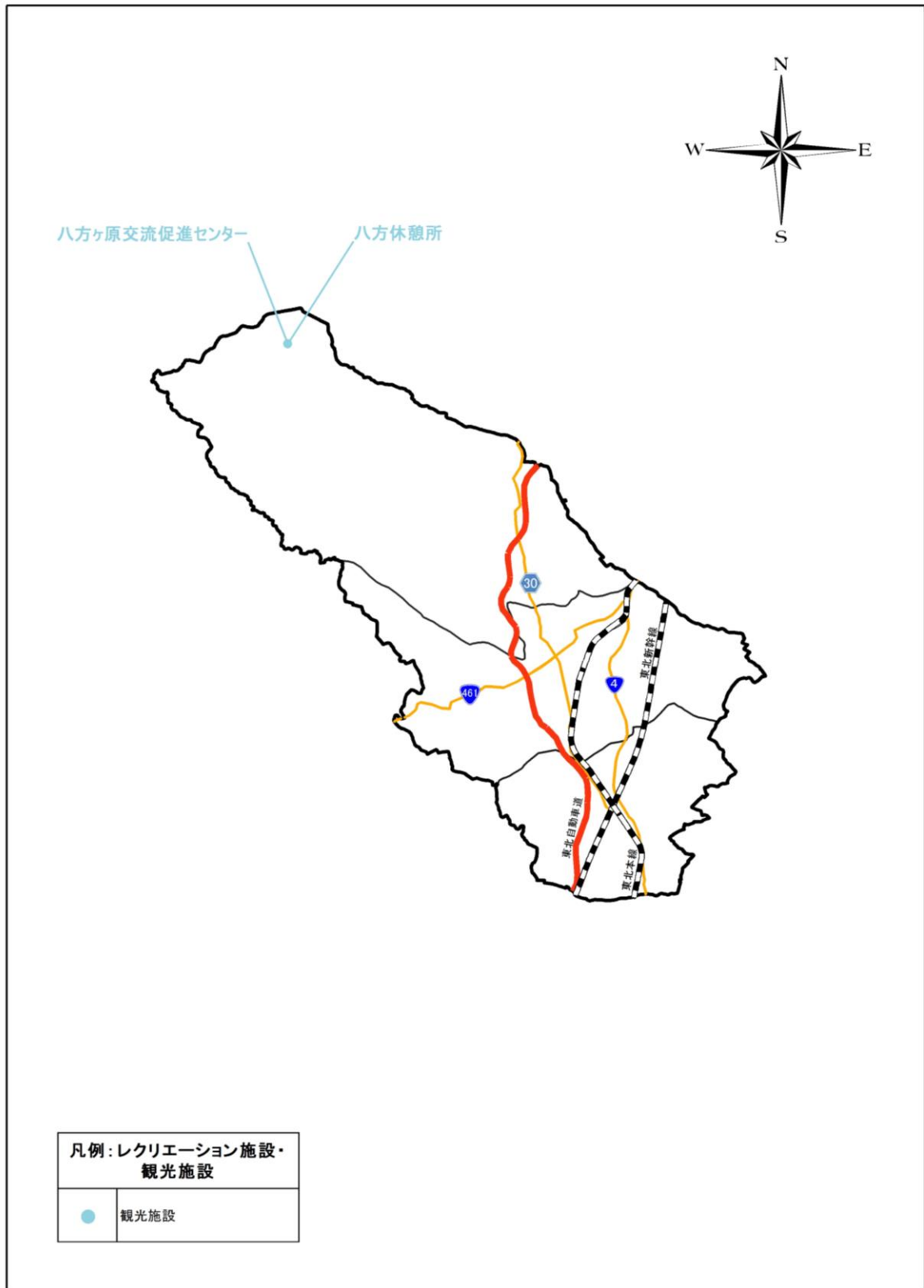
観光施設は、市内に 2 施設あり、延床面積は合計 658 ㎡です。

表 4-6-2 レクリエーション施設・観光施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
観光施設											
八方ヶ原交流促進センター	5,069	20,403	25,472	51,581	493	4,396	29,869	579	12,488	17,380	12,484
八方休憩所	1	0	1	—	—	0	1	—	0	1	—
小計	5,070	20,403	25,474	51,581	493	4,396	29,871	579	12,488	17,382	12,484
合計	5,070	20,403	25,474	51,581	493	4,396	29,871	579	12,488	17,382	12,484

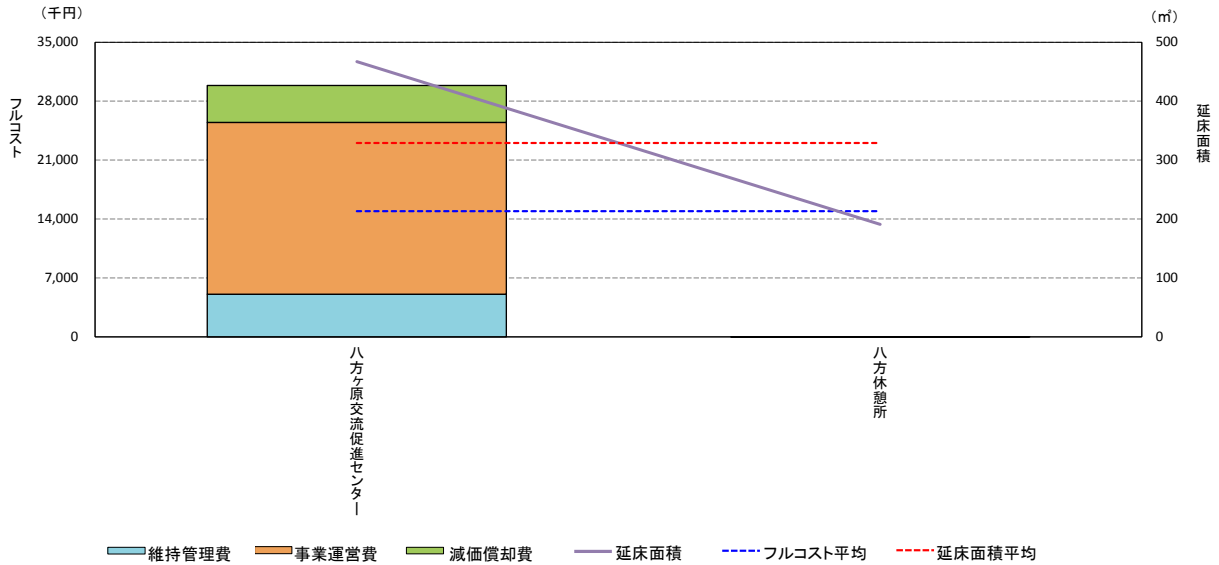
観光施設の利用者数の合計は 51,581 人です。これらの施設にかかるフルコストは 29,871 千円です。

図 4-6-1 レクリエーション施設・観光施設の配置状況



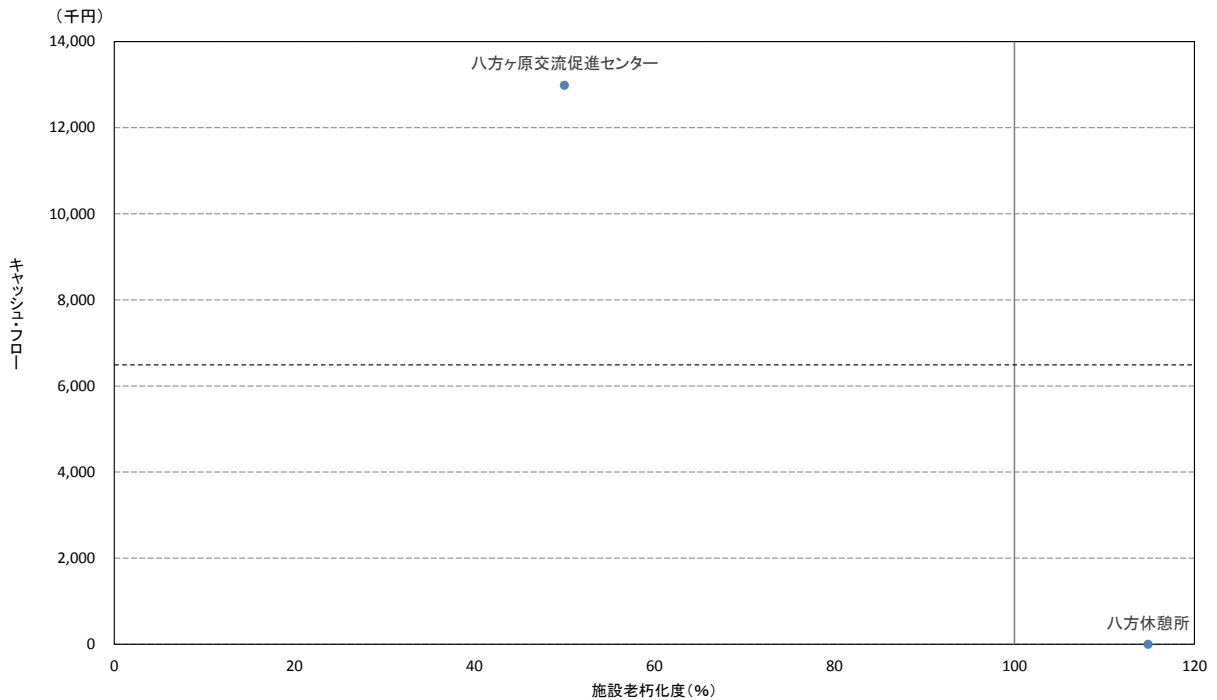
① 〔レクリエーション施設・観光施設〕 観光施設の状況

図 4-6-2 観光施設のフルコストと延床面積



観光施設の延床面積は、八方ヶ原交流促進センターが467 m²で、八方休憩所が191 m²です。また、フルコストは、八方ヶ原交流促進センターが26,869千円であり、八方休憩所が1千円です。

図 4-6-3 観光施設のキャッシュ・フローと老朽化度



八方ヶ原交流促進センターは、指定管理者の管理で行われています。平成14年度に建築されており老朽化への対応が逼迫しているという状況ではありませんが、今後の本市の行政サービスのあり方を踏まえて、今後のあり方について検討しておくことが重要です。

7 産業系施設の状況

表 4-7-1 産業系施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
農業振興施設	矢板	1	矢板市農村環境改善センター	直営		825	44.00	平成 4年度	鉄筋コンクリート
	矢板	2	道の駅やいた	指定管理者		820	10.53	平成 22年度	鉄骨造
	矢板	3	塩田ダム管理事務所	直営		223	50.90	平成 8年度	鉄筋コンクリート
	矢板	4	塩田・片俣放流警報局	直営		9	44.74	平成 9年度	鉄骨造
	矢板	5	農産物即売所	直営		68	83.33	平成 6年度	木造
	泉	6	第一農場活性化施設	直営		170	40.91	平成 17年度	木造
	泉	7	八方ヶ原牧場管理事務所	直営		79	50.00	平成 14年度	木造
	片岡	8	陶芸工房	直営		61	77.42	平成 2年度	鉄骨造
小計						2,256			
商業振興施設	矢板	1	勤労青少年ホーム	指定管理者		724	66.00	昭和 56年度	鉄筋コンクリート
	矢板	2	魚菜市场	直営		912	104.28	昭和 40年度	鉄骨造
	片岡	3	矢板南産業団地現地案内所	直営		50	66.67	平成 6年度	軽量鉄骨造
小計						1,686			
合計						3,942			

農業振興施設は、市内に 8 施設あり、延床面積は合計 2,256 ㎡です。

商業振興施設は、市内に 3 施設あり、延床面積は合計 1,686 ㎡です。

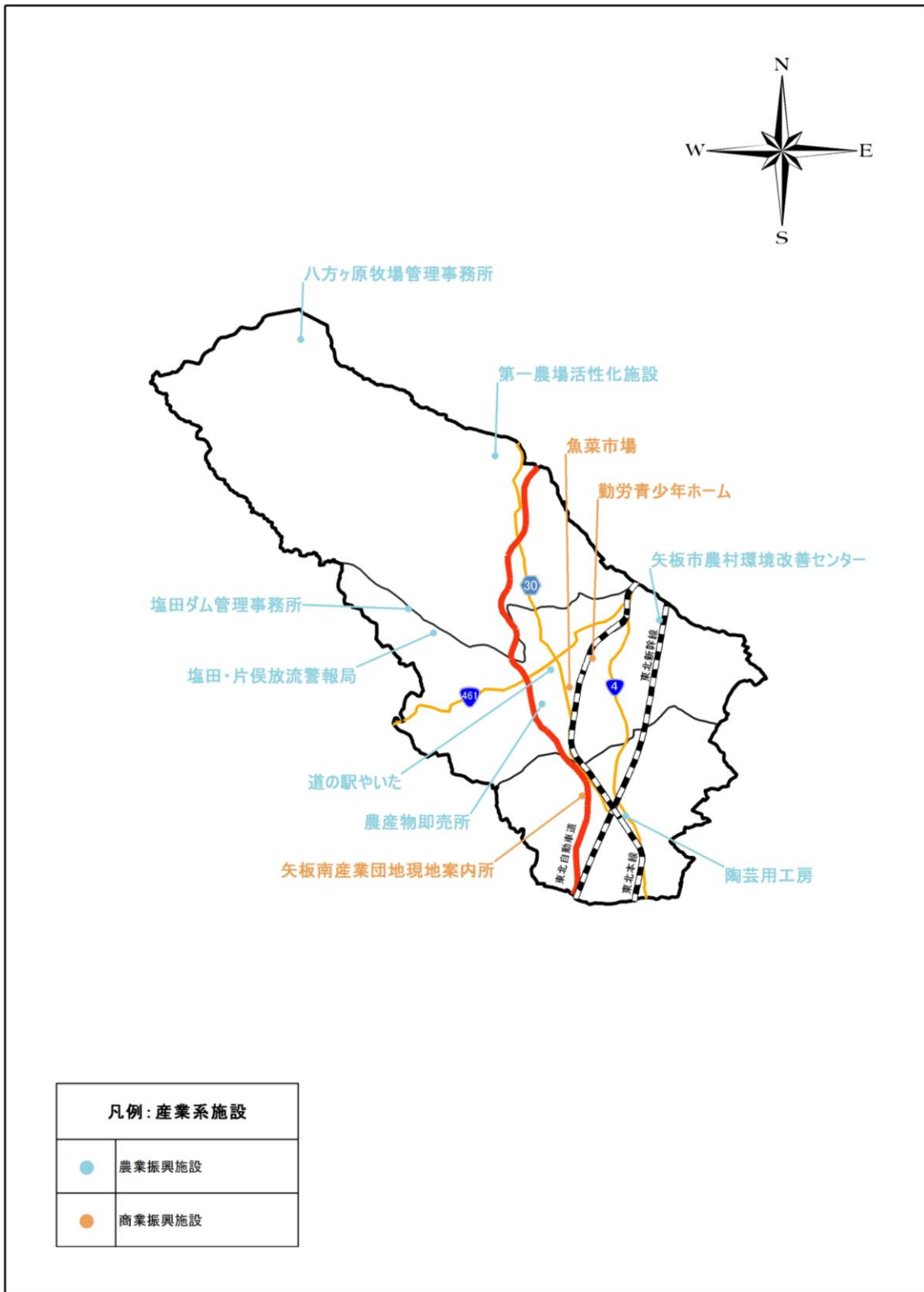
表 4-7-2 産業系施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者 1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者 1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
農業振興施設											
矢板市農村環境改善センター	2,275	8,281	10,557	11,771	896	4,694	15,251	1,295	561	14,690	—
道の駅やいた	4,901	23,537	28,438	974,260	29	4,730	33,168	34	15,552	17,615	5,637
塩田ダム管理事務所	5,857	3,218	9,075	—	—	5,287	14,363	—	0	14,363	—
塩田・片俣放流警報局	1	769	771	—	—	413	1,184	—	0	1,184	—
農産物即売所	3	0	3	—	—	572	576	—	145	431	—
第一農場活性化施設	882	0	882	—	—	2,777	3,660	—	0	3,660	—
八方ヶ原牧場管理事務所	3,809	782	4,591	—	—	632	5,224	—	557	4,666	—
陶芸工房	0	0	0	306	0	80	81	265	0	81	—
小計	17,731	36,589	54,321	986,337	55	19,189	73,510	74	16,817	56,693	5,637
商業振興施設											
勤労青少年ホーム	2,821	7,958	10,780	17,714	608	2,308	13,088	738	1,048	12,040	10,596
魚菜市场	8	7	16	—	—	1,350	1,366	—	0	1,366	—
矢板南産業団地現地案内所	0	38	39	—	—	204	243	—	0	243	—
小計	2,831	8,004	10,836	17,714	611	3,862	14,698	829	1,048	13,650	10,596
合計	20,562	44,594	65,157	1,004,051	64	23,052	88,209	87	17,865	70,343	16,233

農業振興施設の利用者数の合計は 986,337 人です。これらの施設にかかるフルコストは 73,510 千円です。

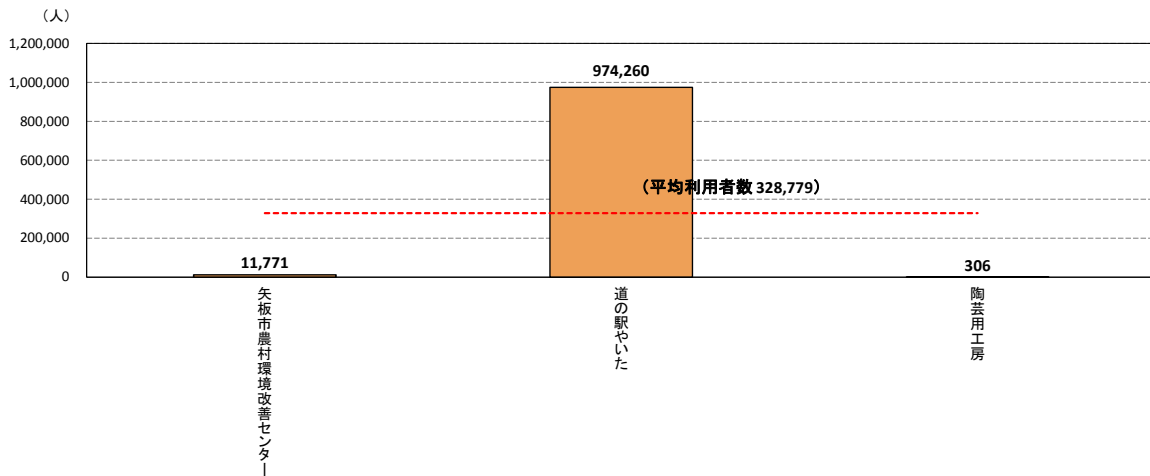
商業振興施設の利用者数の合計は 17,714 人です。これらの施設にかかるフルコストは 14,698 千円です。

図 4-7-1 産業系施設の配置状況



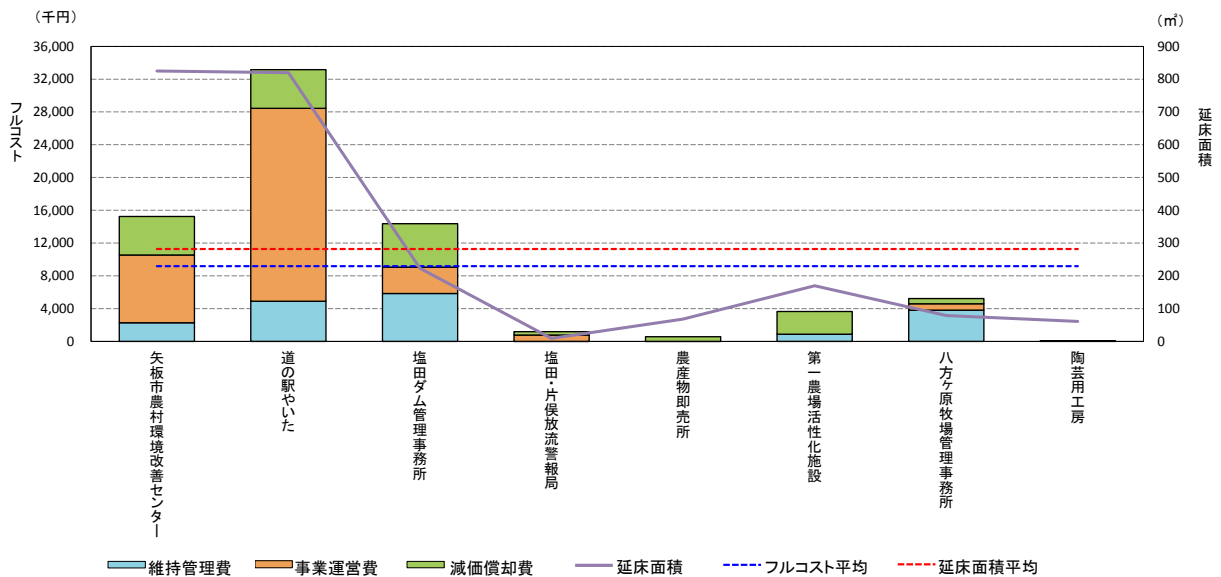
① 【産業系施設】 農業振興施設の状況

図 4-7-2 農業振興施設の利用者数(平成 26 年度)



農業振興施設のうち、年間の利用者数が最も多い施設は、道の駅やいたの 974,260 人であり、2 番目は矢板市農村環境改善センターの 11,771 人です。最も利用者数が少ない施設は、陶芸工房の 306 人です。

図 4-7-3 農業振興施設のフルコストと延床面積



農業振興施設のうち、延床面積が最も広いのは、矢板市農村環境改善センターの 825 ㎡であり、2 番目は道の駅やいたの 820 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、道の駅やいたの 33,168 千円であり、2 番目は矢板市農村環境改善センターの 15,251 千円です。

図 4-7-4 農業振興施設の利用者数とフルコスト

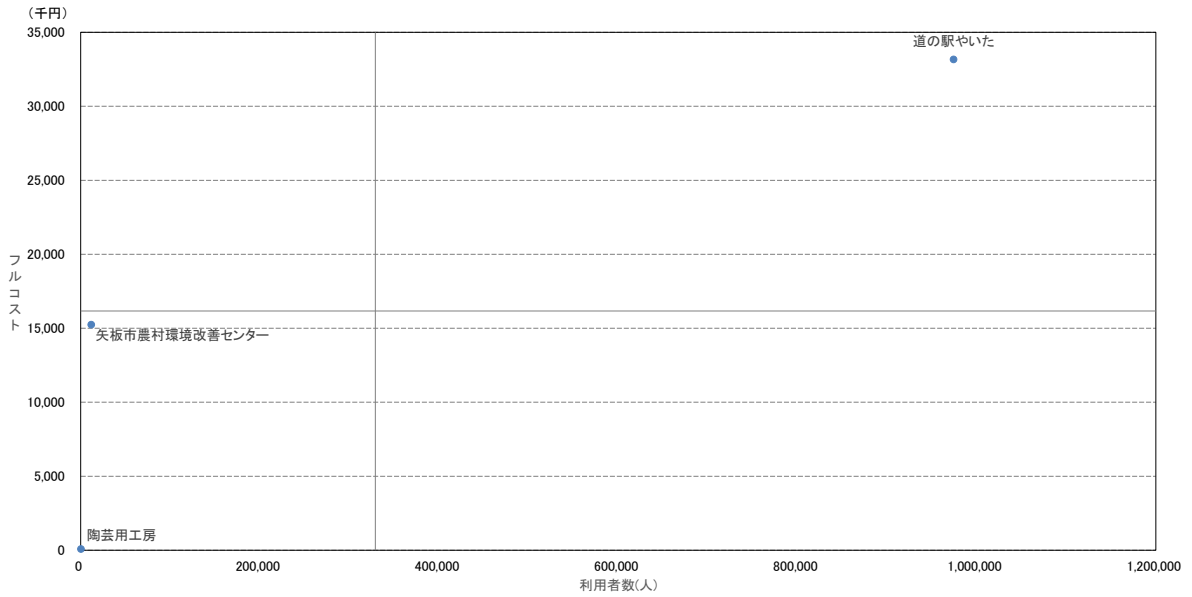
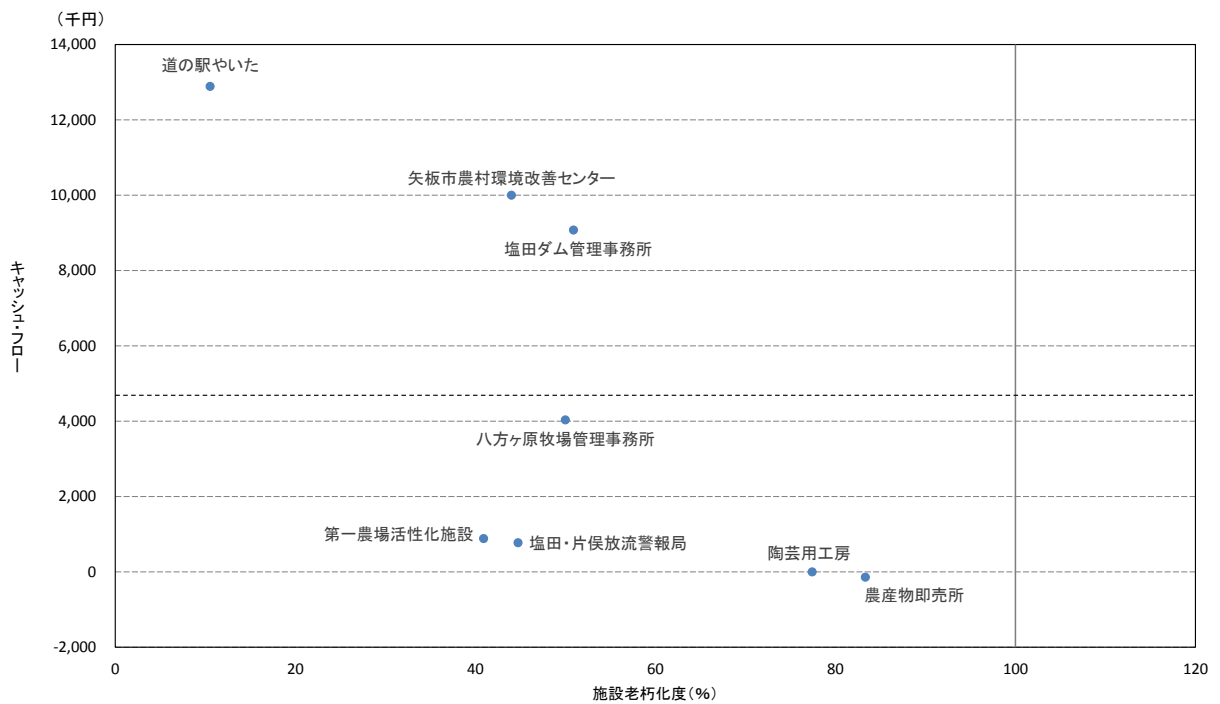


図 4-7-5 農業振興施設のキャッシュ・フローと老朽化度

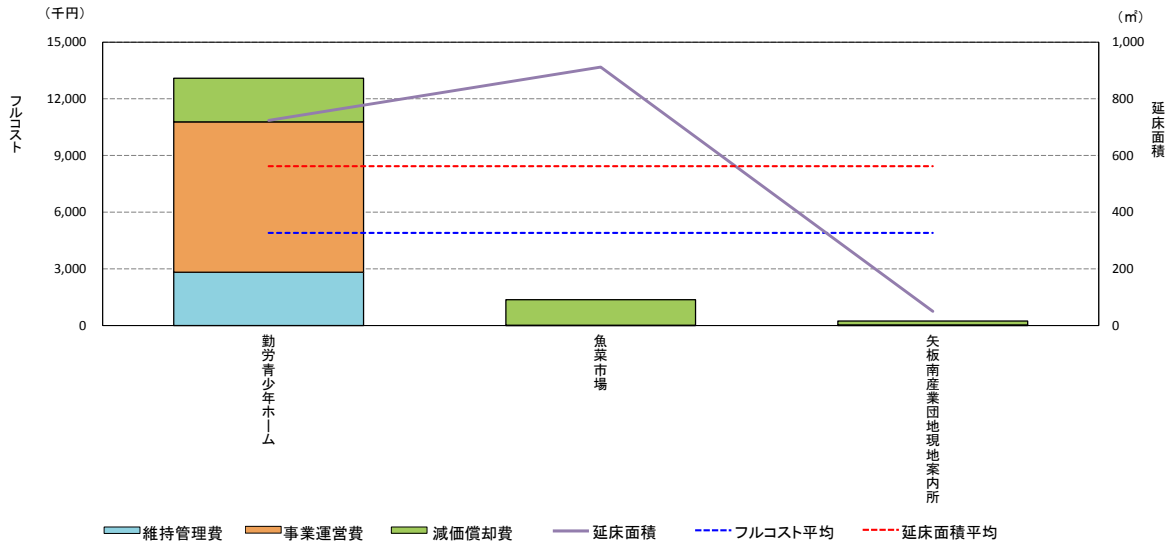


農産物即売所、陶芸用工房は、老朽化が進行しています。道の駅やいたは、利用者は多いですが事業運営費が大きくなっており、事業運営の効率化が必要です。矢板市農村環境改善センター、塩田ダム管理事務所は、他の施設と比較して、キャッシュ・フローが大きく、更新にあたっては早めの検討が必要です。

また、利用者が少ない施設も多く見られることから、これら施設の必要性についても改めて検討する必要があります。

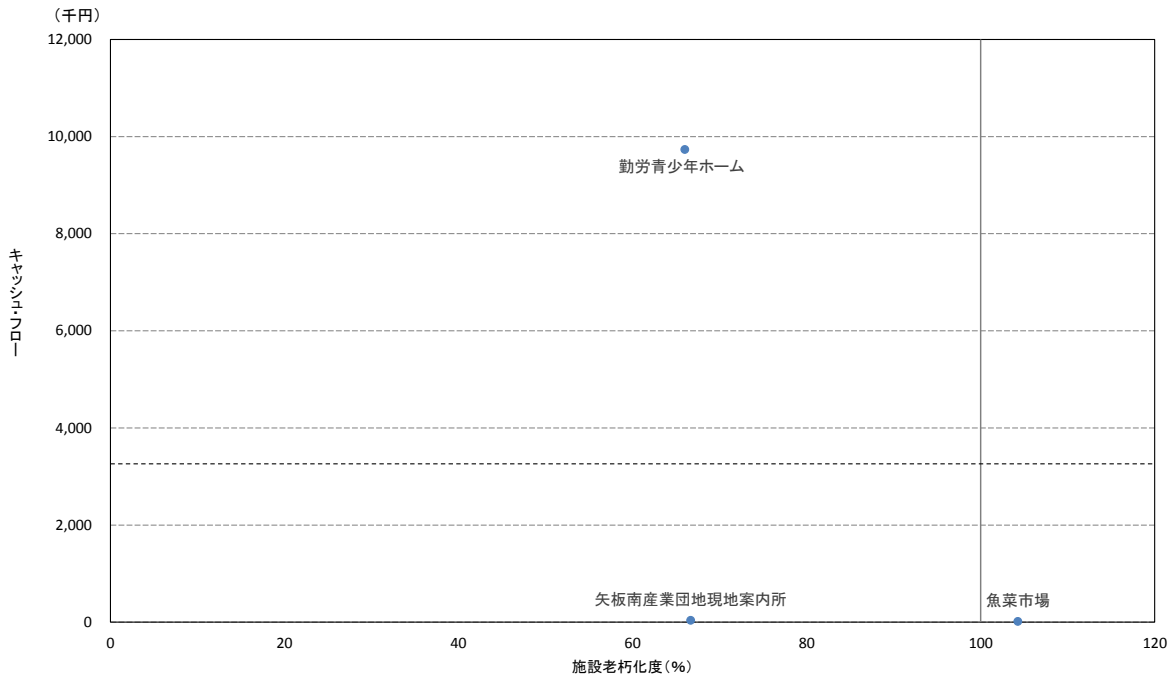
② 〔産業系施設〕商業振興施設の状況

図 4-7-6 商業振興施設のフルコストと延床面積



商業振興施設のうち、延床面積が最も広いのは、魚菜市场の912㎡であり、2番目は勤労青少年ホームの724㎡です。また、フルコストが最も高いのは、勤労青少年ホームの13,088千円であり、2番目は魚菜市场の1,366千円です。

図 4-7-7 商業振興施設のキャッシュ・フローと老朽化度



魚菜市场は、昭和40年代に建築されており、老朽化が進行しています。早急に今後の対応についての検討が必要です。勤労青少年ホームは老朽化の進行に加え、キャッシュ・フローも大きくなっていることからコスト削減の方策の検討が必要です。

今後の利用者数の見込みも考慮し、施設のあり方、施設の必要性についても改めて検討する必要があります。

8 学校の状況

表 4-8-1 学校の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
小学校	矢板	1	矢板小学校	直営		8,670	76.13	昭和 51年度	鉄筋コンクリート
	矢板	2	東小学校	直営		5,593	89.67	昭和 50年度	鉄筋コンクリート
	矢板	3	川崎小学校	直営		3,347	70.06	昭和 61年度	鉄筋コンクリート
	矢板	4	西小学校	直営		2,570	97.45	昭和 46年度	鉄筋コンクリート
	矢板	5	豊田小学校	直営		3,433	65.60	平成 2年度	鉄筋コンクリート
	泉	6	泉小学校	直営		3,363	102.80	昭和 44年度	鉄筋コンクリート
	片岡	7	片岡小学校	直営		4,806	78.39	昭和 62年度	鉄筋コンクリート
	片岡	8	乙畑小学校	直営		2,764	67.27	平成 2年度	鉄筋コンクリート
	片岡	9	安沢小学校	直営		4,066	17.05	平成 18年度	鉄筋コンクリート
小計						38,612			
中学校	矢板	1	矢板中学校	直営		10,137	67.38	昭和 60年度	鉄筋コンクリート
	泉	2	泉中学校	直営		5,100	65.79	昭和 56年度	鉄筋コンクリート
	片岡	3	片岡中学校	直営		7,457	54.87	昭和 56年度	鉄筋コンクリート
小計						22,694			
合計						61,306			

小学校は、市内に 9 施設あり、延床面積は合計 38,612 ㎡です。

中学校は、市内に 3 施設あり、延床面積は合計 22,694 ㎡です。

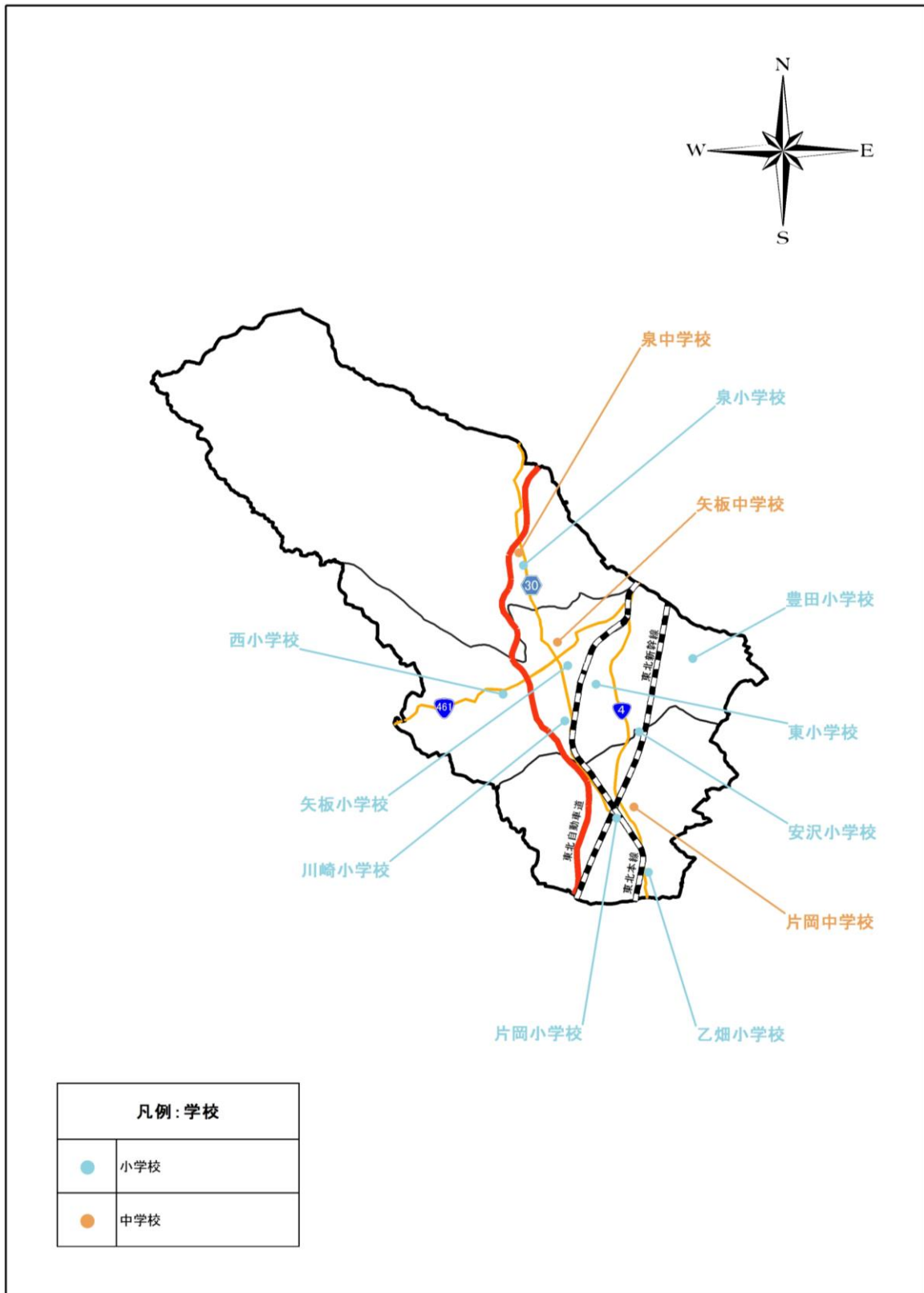
表 4-8-2 学校の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	児童数/生徒数 (人)	児童/生徒 1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	児童/生徒 1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
小学校											
矢板小学校	12,289	43,769	56,058	428	130,977	19,870	75,929	177,405	0	75,929	—
東小学校	11,509	40,676	52,185	528	98,837	8,985	61,171	115,854	0	61,171	—
川崎小学校	9,711	23,977	33,688	126	267,372	8,440	42,129	334,362	0	42,129	—
西小学校	4,661	18,437	23,099	48	481,232	1,662	24,761	515,859	0	24,761	—
豊田小学校	6,163	27,712	33,875	22	1,539,813	10,026	43,901	1,995,544	0	43,901	—
泉小学校	8,213	45,958	54,171	136	398,319	2,064	56,236	413,501	0	56,236	—
片岡小学校	10,551	36,257	46,809	317	147,662	9,517	56,326	177,686	0	56,326	—
乙畑小学校	6,094	24,472	30,566	57	536,261	8,615	39,182	687,415	0	39,182	—
安沢小学校	7,630	23,675	31,306	139	225,227	21,204	52,511	377,777	240	52,270	—
小計	76,825	284,937	361,762	1,801	200,867	90,387	452,150	251,055	240	451,909	0
中学校											
矢板中学校	14,611	53,259	67,871	561	120,982	33,961	101,832	181,519	0	101,832	—
泉中学校	7,402	31,903	39,305	94	418,147	19,973	59,279	630,628	0	59,279	—
片岡中学校	11,858	38,401	50,259	228	220,438	34,219	84,478	370,521	42	84,436	—
小計	33,871	123,565	157,437	883	178,297	88,153	245,590	278,131	42	245,548	0
合計	110,697	408,502	519,199	2,684	193,442	178,541	697,740	259,963	282	697,458	0

小学校の児童数の合計は 1,801 人です。これらの施設にかかるフルコストは 452,150 千円です。

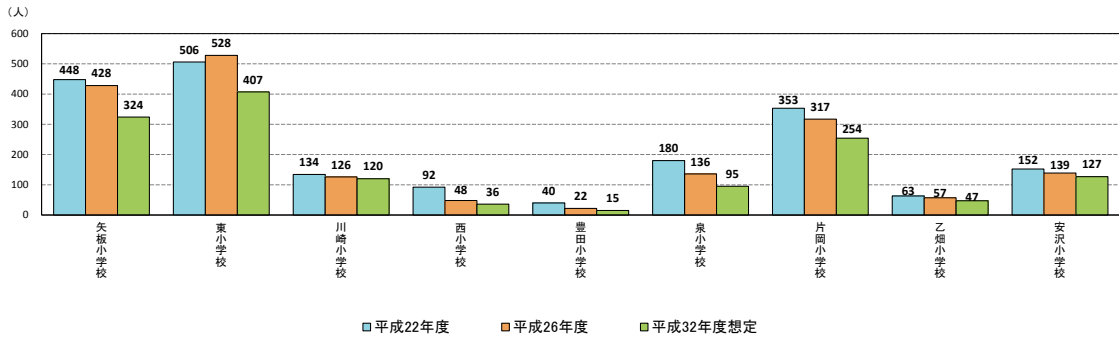
中学校の生徒数の合計は 883 人です。これらの施設にかかるフルコストは 245,590 千円です。

図 4-8-1 学校の配置状況



① 【学校】小学校の状況

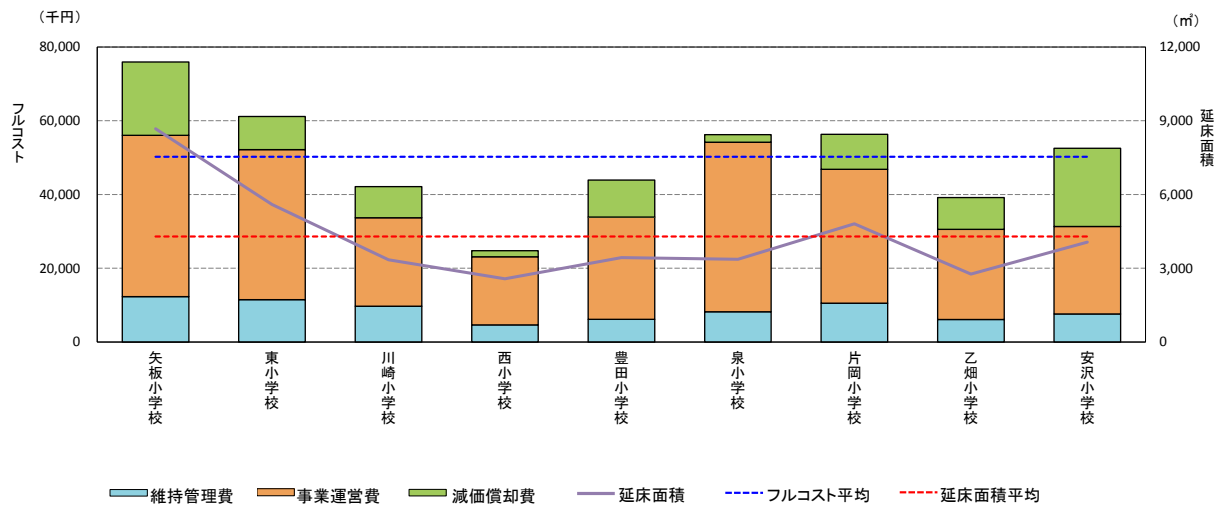
図 4-8-2 小学校の児童数の推移



小学校のうち、平成 26 年度の児童数が最も多い施設は、東小学校の 528 人であり、2 番目は矢板小学校の 428 人です。

最も児童数が少ない施設は、豊田小学校の 22 人であり、2 番目は西小学校の 48 人です。

図 4-8-3 小学校のフルコストと延床面積



小学校のうち、延床面積が最も広いのは、矢板小学校の 8,670 ㎡であり、2 番目は東小学校の 5,930 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、矢板小学校の 75,929 千円であり、2 番目は東小学校の 61,171 千円です。

図 4-8-4 小学校の児童数とフルコスト

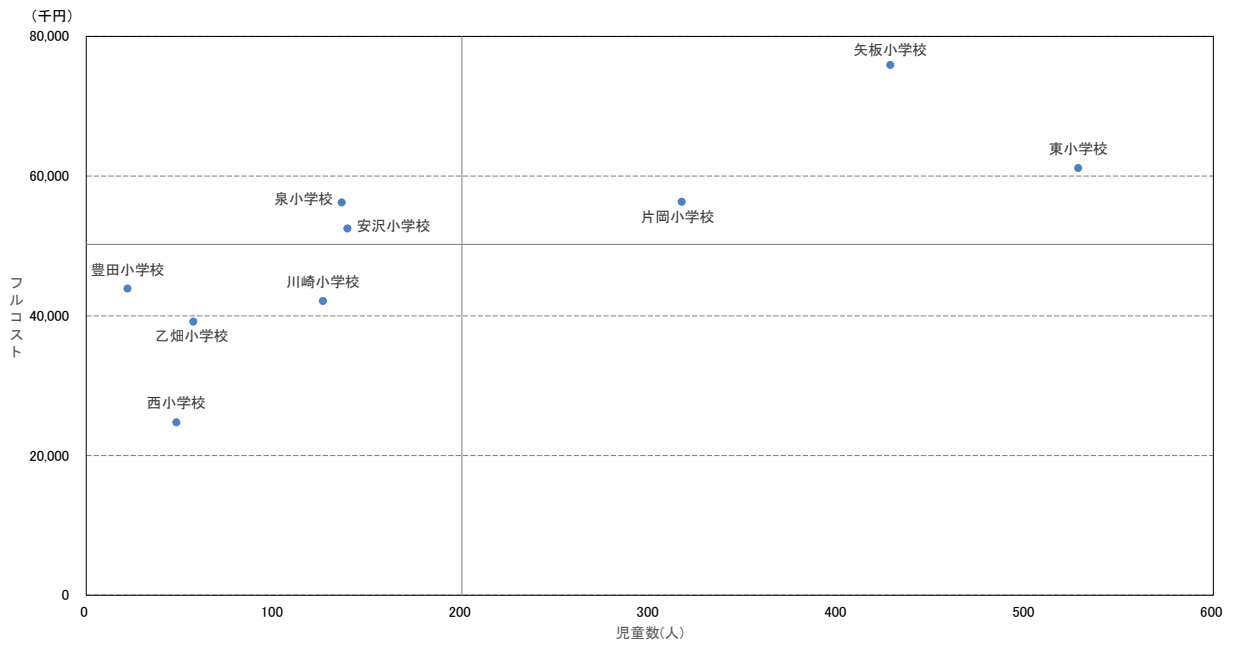


図 4-8-5 小学校の延床面積と耐用年数到来年度

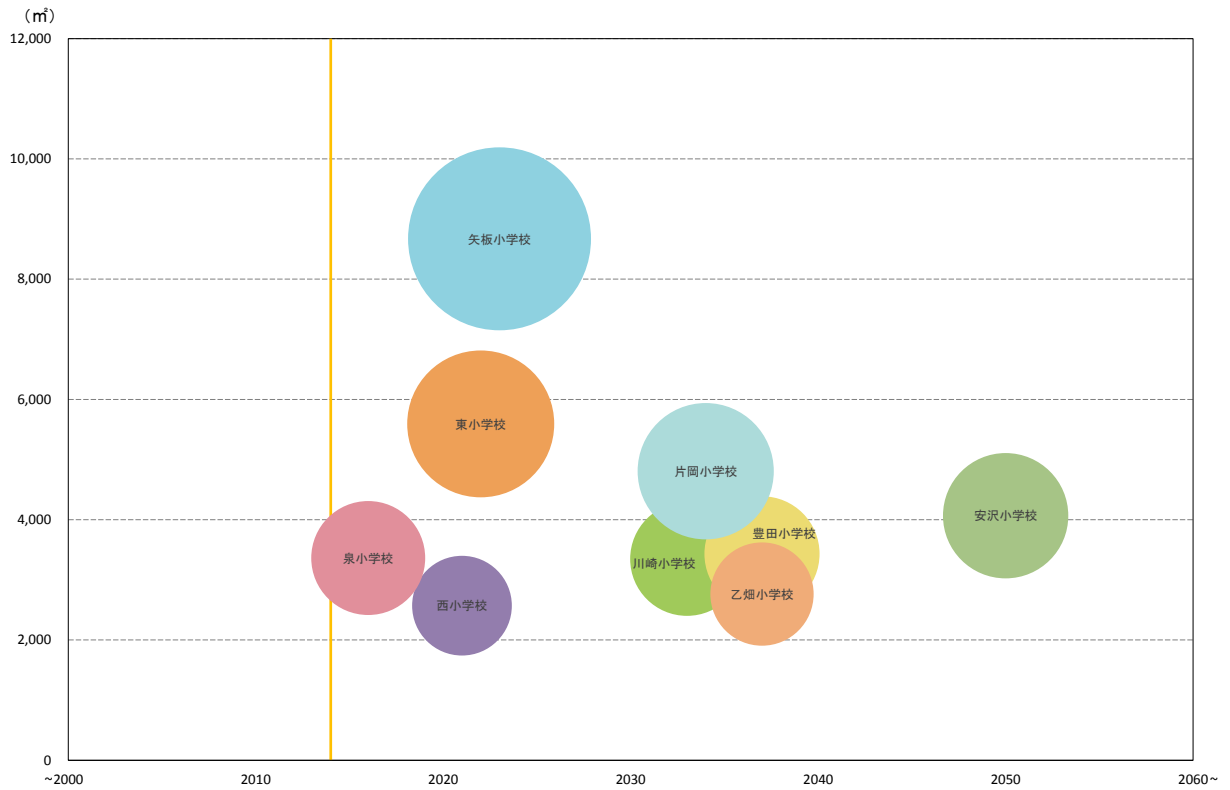


図 4-8-6 小学校のキャッシュ・フローと老朽化度

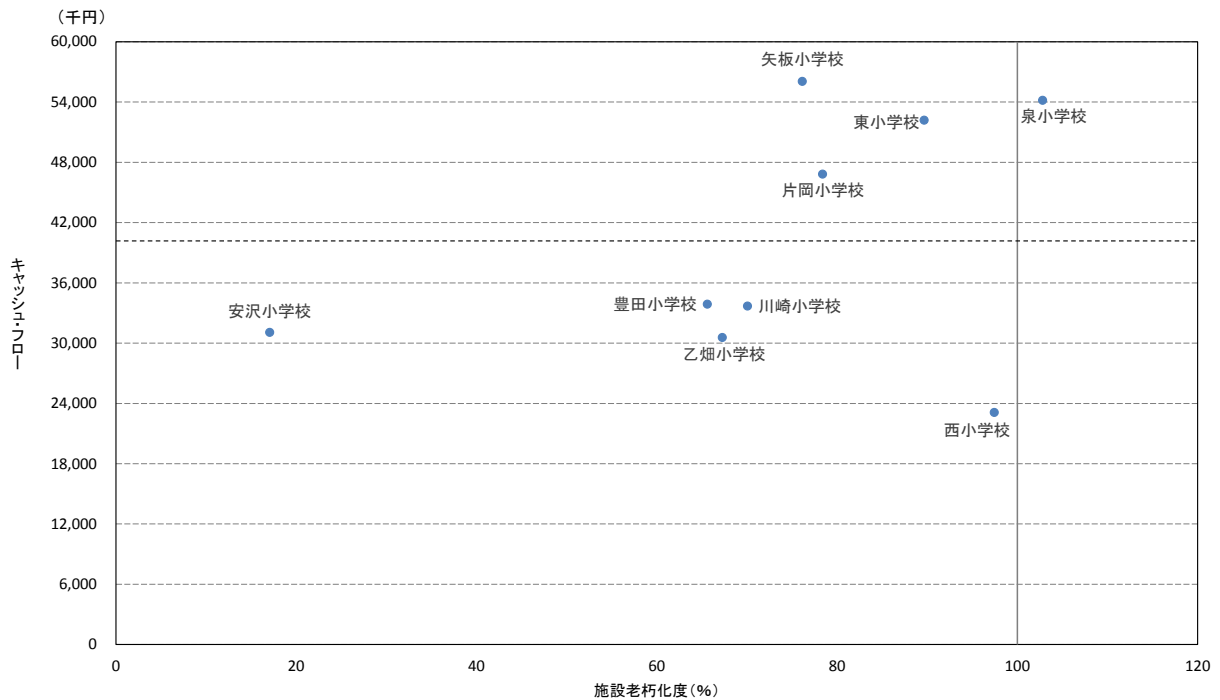


図 4-8-2 のとおり、大半の小学校では平成 32 年度には児童数が減少すると見込まれており、また、今後、子どもの人口減少が継続することが見込まれます。

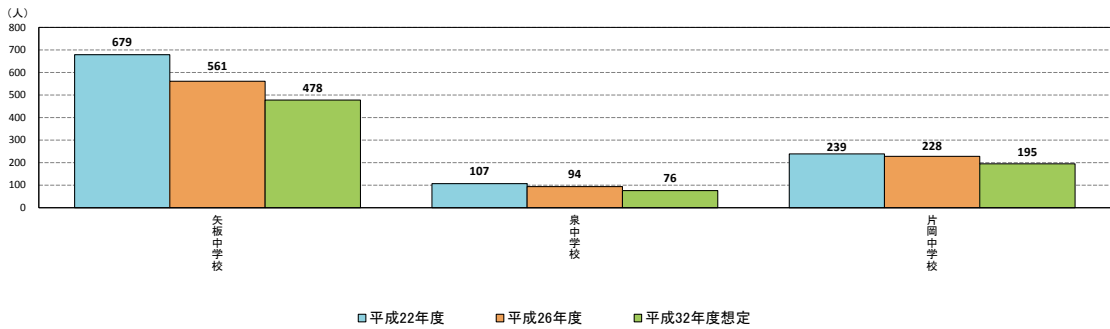
文部科学省が平成 27 年 1 月 27 日に公表した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」によれば、学級数が少ないことによる学校運営上の課題として、クラス替えができないことや遠足などの集団活動・行事の教育効果が下がること、人間関係や相互の評価が固定化しやすいなどの多くのデメリットが挙げられています。さらに、複式学級となる場合には、教員に特別な指導技術が求められるなどの課題も挙げられています。

そのため、今後適正規模を下回る小学校については、例えば、スクールバス等による通学手段の確保と統廃合をセットにして進めるなどの対応も検討が必要となります。平成 26 年時点で、全 9 小学校のうち、3 つの小学校は児童数が 100 人に満たない状況にあります。

また、昭和 44 年度建築の泉小学校、昭和 46 年度建築の西小学校、昭和 50 年度建築の東小学校については、老朽化が進行している可能性があり、今後の建替えや修繕の方針を早めに検討する必要があります。

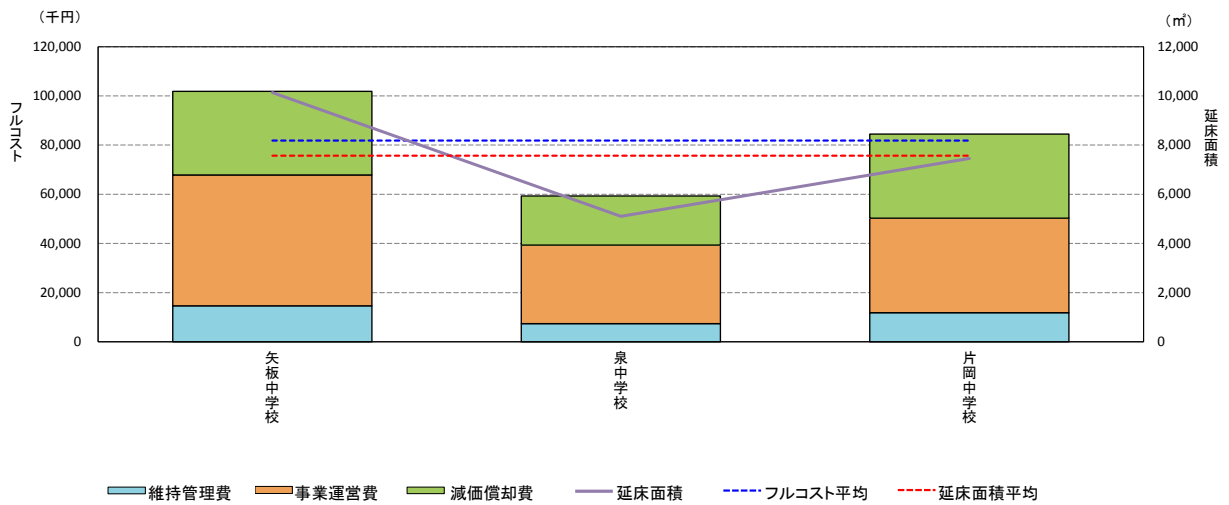
② [学校] 中学校の状況

図 4-8-7 中学校の生徒数の推移



学校のうち、平成 26 年度の生徒数が最も多い施設は、矢板中学校の 561 人であり、2 番目は片岡中学校の 228 人です。最も生徒数が少ない施設は、泉中学校の 94 人です。

図 4-8-8 中学校のフルコストと延床面積



中学校のうち、延床面積が最も広いのは、矢板中学校の 10,137 ㎡であり、2 番目は片岡中学校の 7,457 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、矢板中学校の 101,832 千円であり、2 番目は片岡中学校の 84,478 千円です。

図 4-8-9 中学校の生徒数とフルコスト

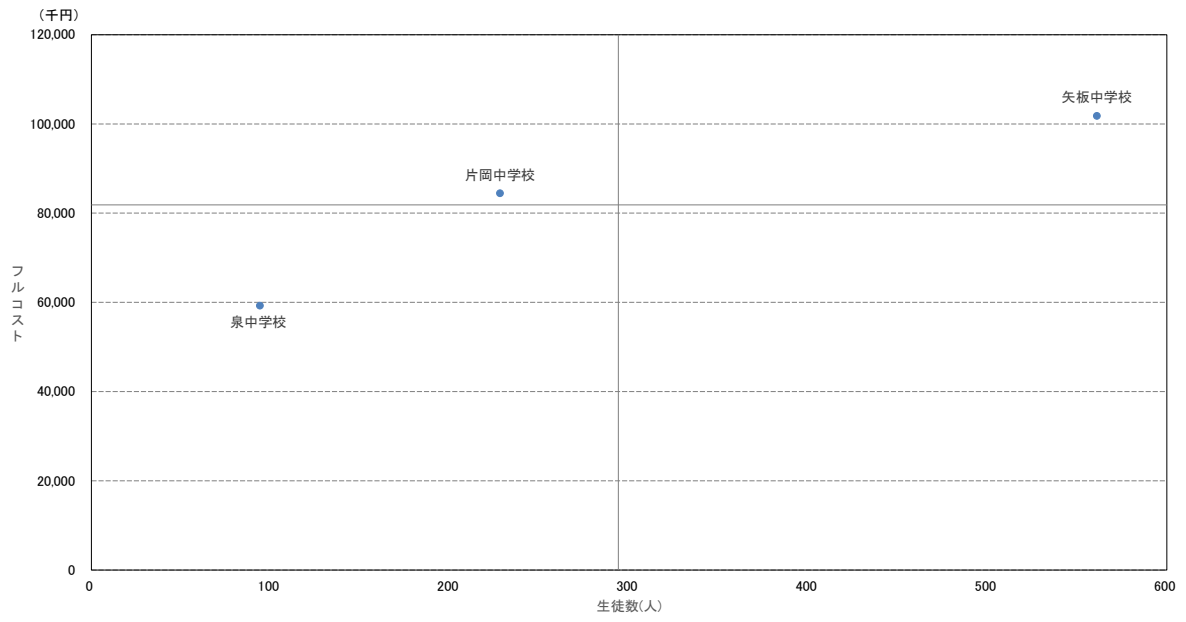


図 4-8-10 中学校の延床面積と耐用年数到来年度

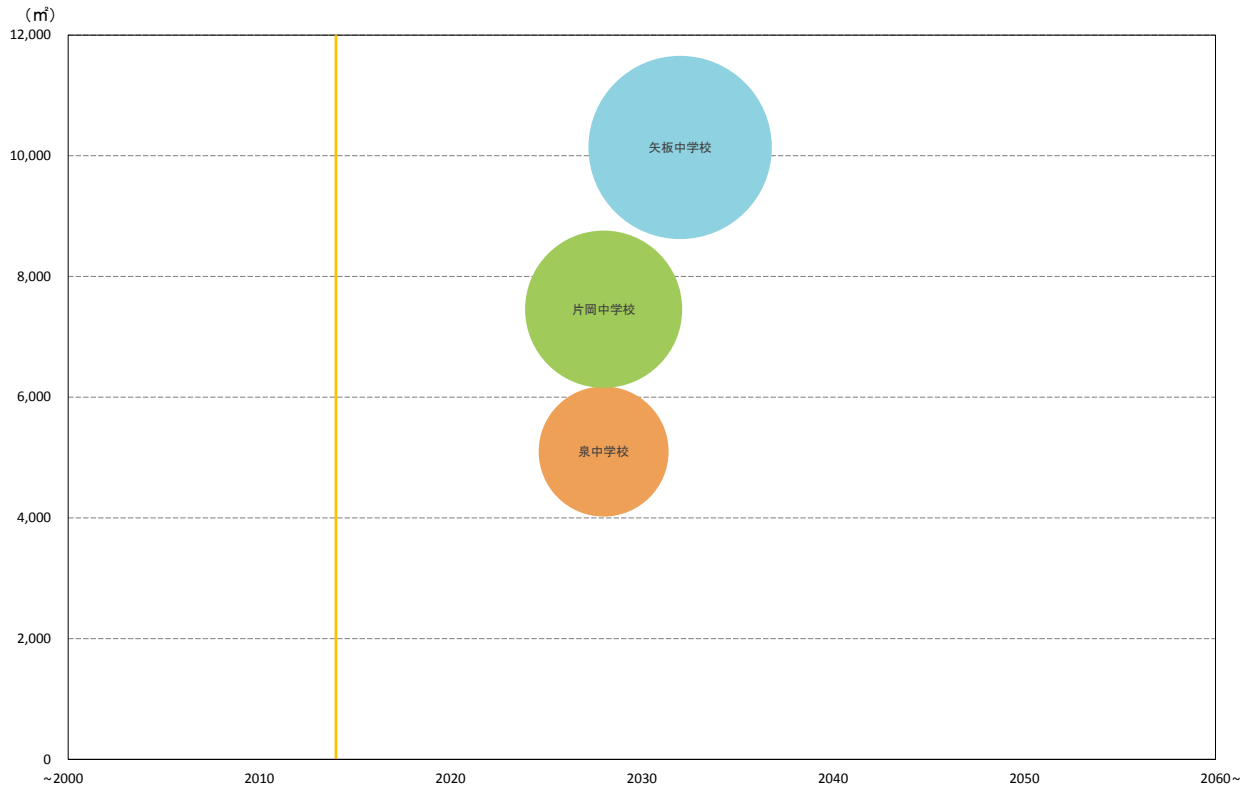


図 4-8-11 中学校のキャッシュ・フローと老朽化度

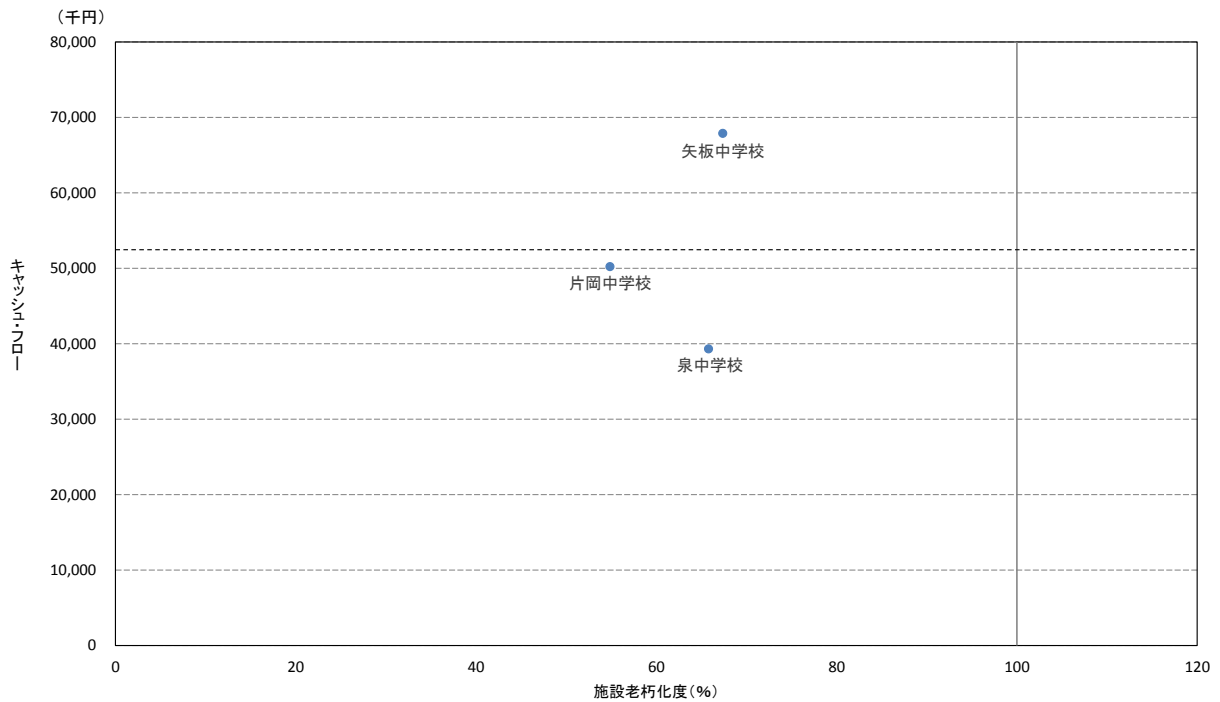


図4-8-7のとおり、すべての中学校では平成32年度には児童数が減少すると見込まれており、また、今後も子どもの人口減少は継続することが見込まれます。

文部科学省が平成27年1月27日に公表した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」によれば、学級数が少ないことによる学校運営上の課題として、クラス替えができないことや部活動の種類が限定されること、遠足などの集団活動・行事の教育効果が下がること、人間関係や相互の評価が固定化しやすいなどの多くのデメリットが挙げられています。さらに、複式学級となる場合には、教員に特別な指導技術が求められること、免許外指導の教科が生まれる可能性があることなどの課題も挙げられています。

そのため、今後適正規模を下回る中学校については、例えば、スクールバス等による通学手段の確保と統廃合をセットにして進めるなどの検討が必要となります。平成26年時点で、全3中学校のうち、泉中学校は生徒数が100人に満たない状況にあります。

また、すべての中学校は昭和50年～60年に建築されており、老朽化が進行している可能性があります。今後の耐用年数の到来に備え、建替えや修繕の方針を早めに検討する必要があります。

9 その他教育施設の状況

表 4-9-1 その他教育施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積(m ²)	老朽化度(%)	主要建物建築年度	主要建物構造
給食共同調理場	矢板	1	矢板中央学校給食共同調理場	直営		249	106.45	昭和56年度	鉄骨造
	矢板	2	矢板東学校給食共同調理場	直営		157	129.03	昭和49年度	鉄骨造
	矢板	3	矢板北学校給食共同調理場	直営		283	77.42	平成2年度	鉄骨造
	泉	4	泉学校給食共同調理場	直営		273	80.65	平成1年度	鉄骨造
	片岡	5	片岡学校給食共同調理場	直営		284	83.87	昭和63年度	鉄骨造
小計						1,246			
その他教育施設	片岡	1	チャレンジハウス	直営		278	72.73	平成10年度	木造
小計						278			
合計						1,524			

給食共同調理場は、市内に5施設あり、延床面積は合計1,246㎡です。

その他教育施設は、市内に1施設あり、延床面積は合計278㎡です。

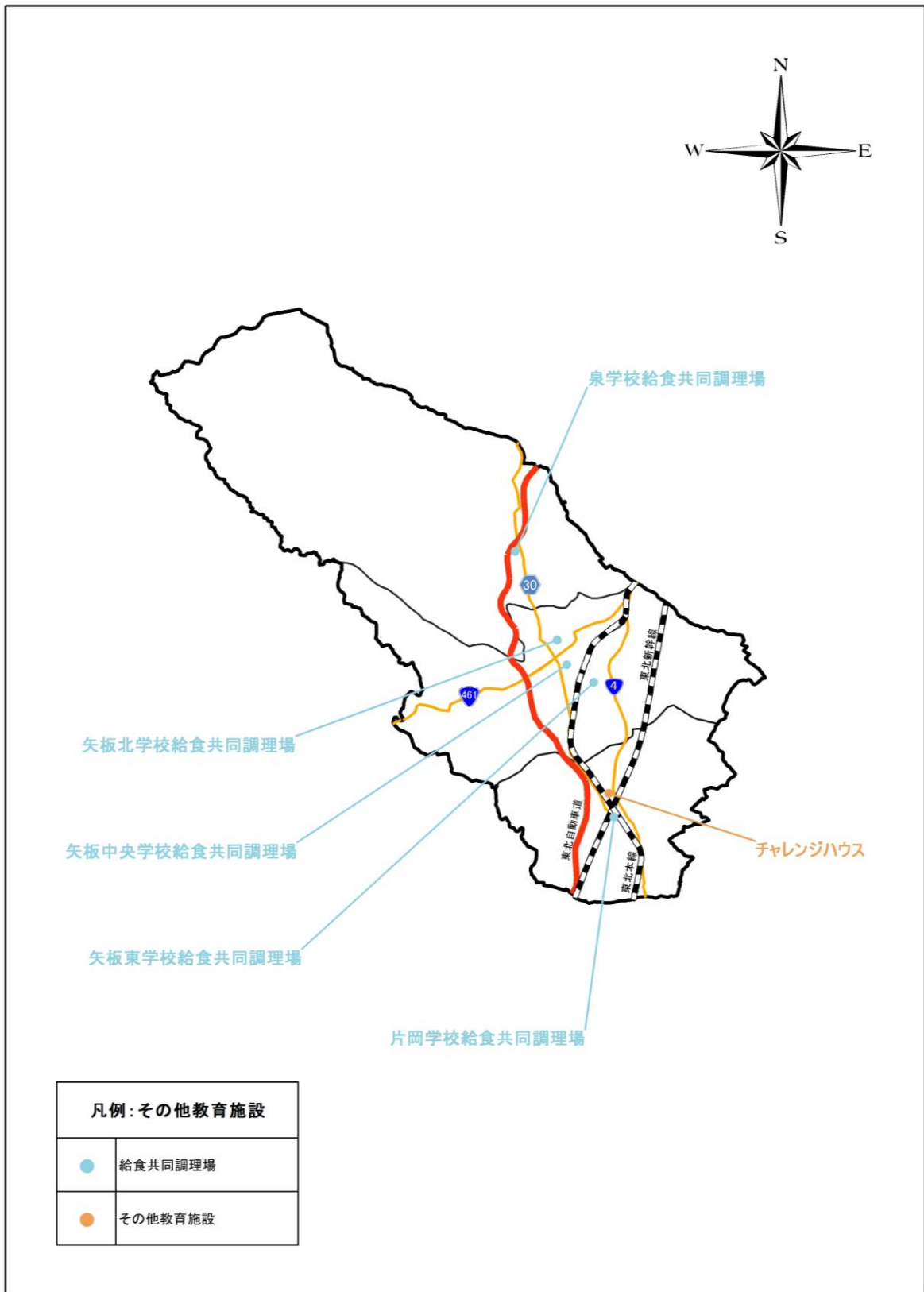
表 4-9-2 その他教育施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費(千円)	事業運営費(千円)	コスト(千円)	利用者数(人)	利用者1人当たりのコスト(円/人)	減価償却費(千円)	フルコスト(千円)	利用者1人当たりのフルコスト(円/人)	収入(千円)	ネットコスト収支差額(千円)	指定管理料(千円)
給食共同調理場											
矢板中央学校給食共同調理場	2,426	14,143	16,570	—	—	0	16,570	—	0	16,570	—
矢板東学校給食共同調理場	4,921	34,400	39,321	—	—	0	39,321	—	0	39,321	—
矢板北学校給食共同調理場	3,093	37,061	40,154	—	—	1,648	41,803	—	0	41,803	—
泉学校給食共同調理場	1,721	12,657	14,378	—	—	125	14,503	—	0	14,503	—
片岡学校給食共同調理場	4,382	36,551	40,934	—	—	1,617	42,551	—	0	42,551	—
小計	16,546	134,813	151,360	0	0	3,390	154,750	0	0	154,750	0
その他教育施設											
チャレンジハウス	522	6,891	7,413	15	494,260	2,873	10,287	685,834	0	10,287	—
小計	522	6,891	7,413	15	494,260	2,873	10,287	685,834	0	10,287	0
合計	17,068	141,705	158,774	15	10,584,954	6,264	165,038	11,002,557	0	165,038	0

給食共同調理場にかかるフルコストは154,750千円です。

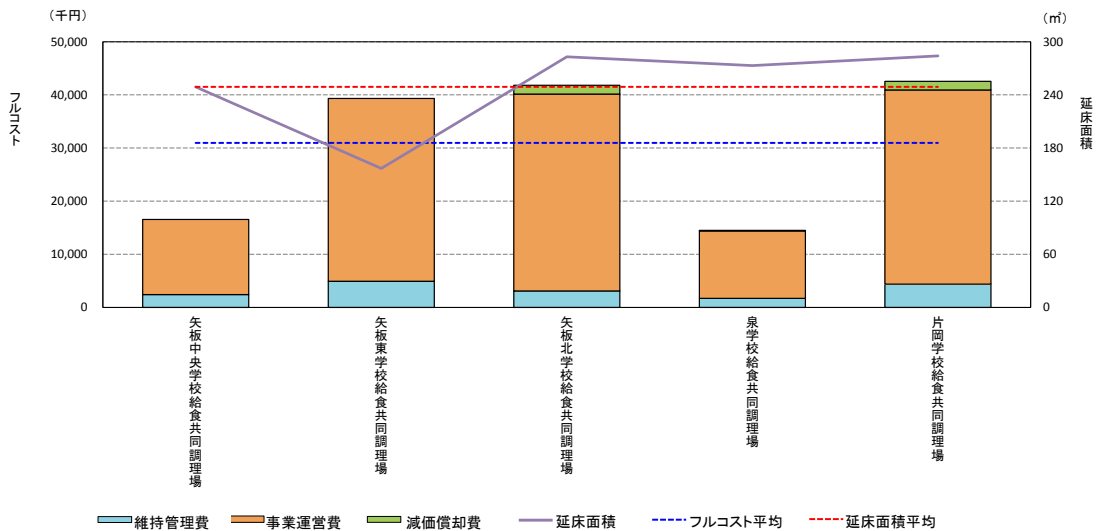
その他教育施設の利用者数の合計は15人です。これらの施設にかかるフルコストは10,287千円です。

図 4-9-1 その他教育施設の配置状況



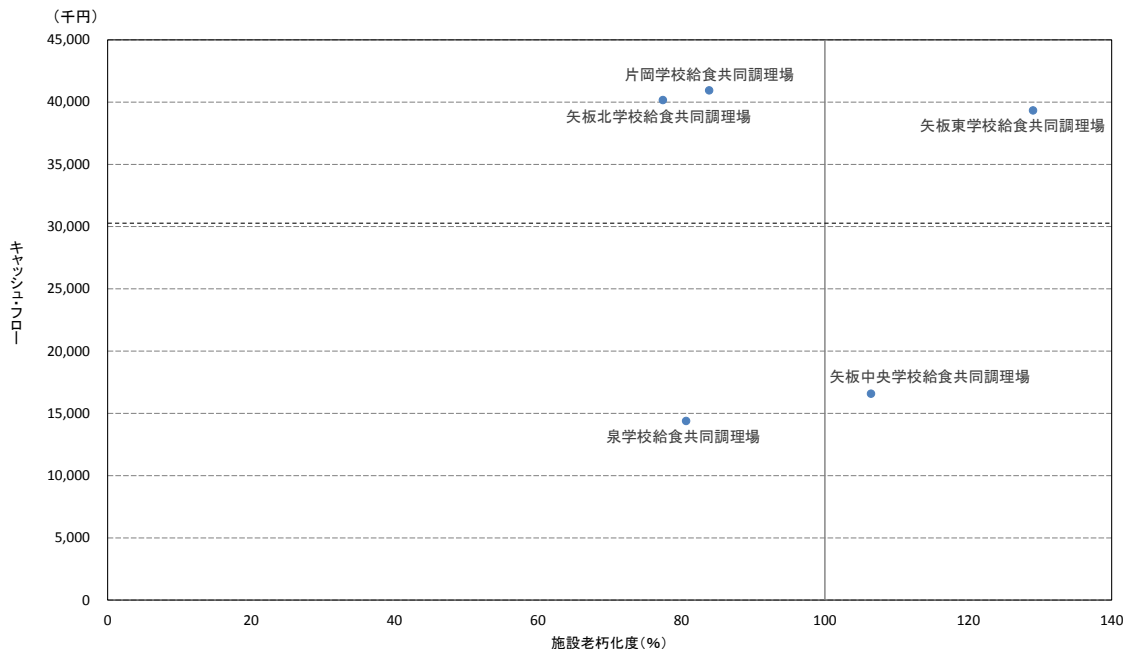
① 〔その他教育施設〕給食共同調理場の状況

図 4-9-2 給食共同調理場のフルコストと延床面積



給食共同調理場のうち、延床面積が最も広いのは、片岡学校給食共同調理場の284㎡であり、2番目は矢板北学校給食共同調理場の283㎡です。また、フルコストが最も高いのは、片岡学校給食共同調理場の42,551千円であり、2番目は矢板北学校給食共同調理場の41,803千円です。

図 4-9-3 給食共同調理場のキャッシュ・フローと老朽化度

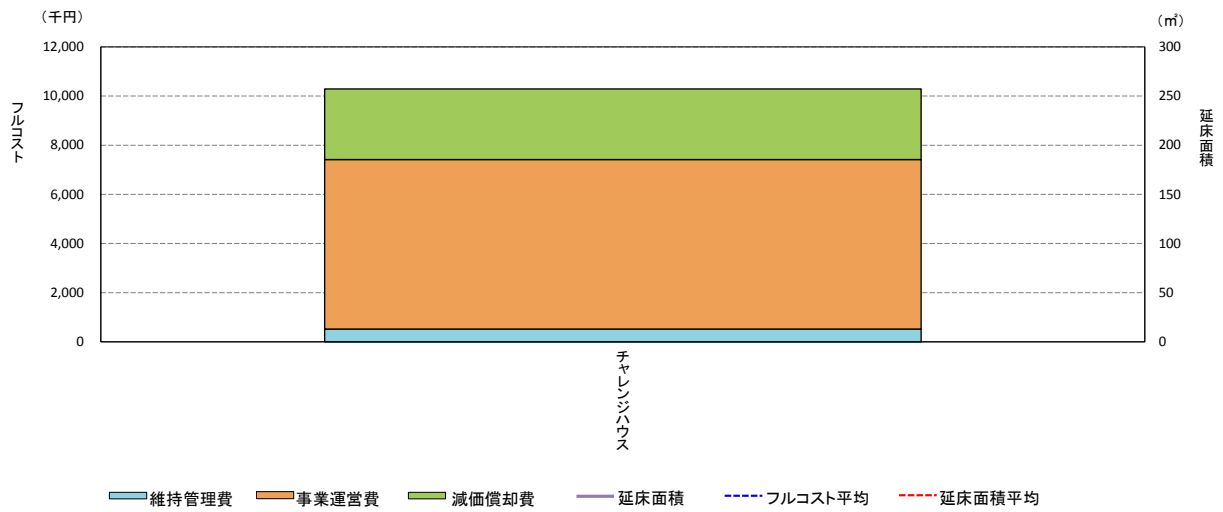


昭和49年建築の矢板東学校給食調理場、昭和56年建築の矢板中央学校給食共同調理場、昭和63年建築の片岡学校給食共同調理場については、老朽化が進行している可能性があります。

今後も子どもの人口減少は見込まれており、今後の耐用年数の到来に備え、建替えや修繕の方針を早めに検討する必要があります。

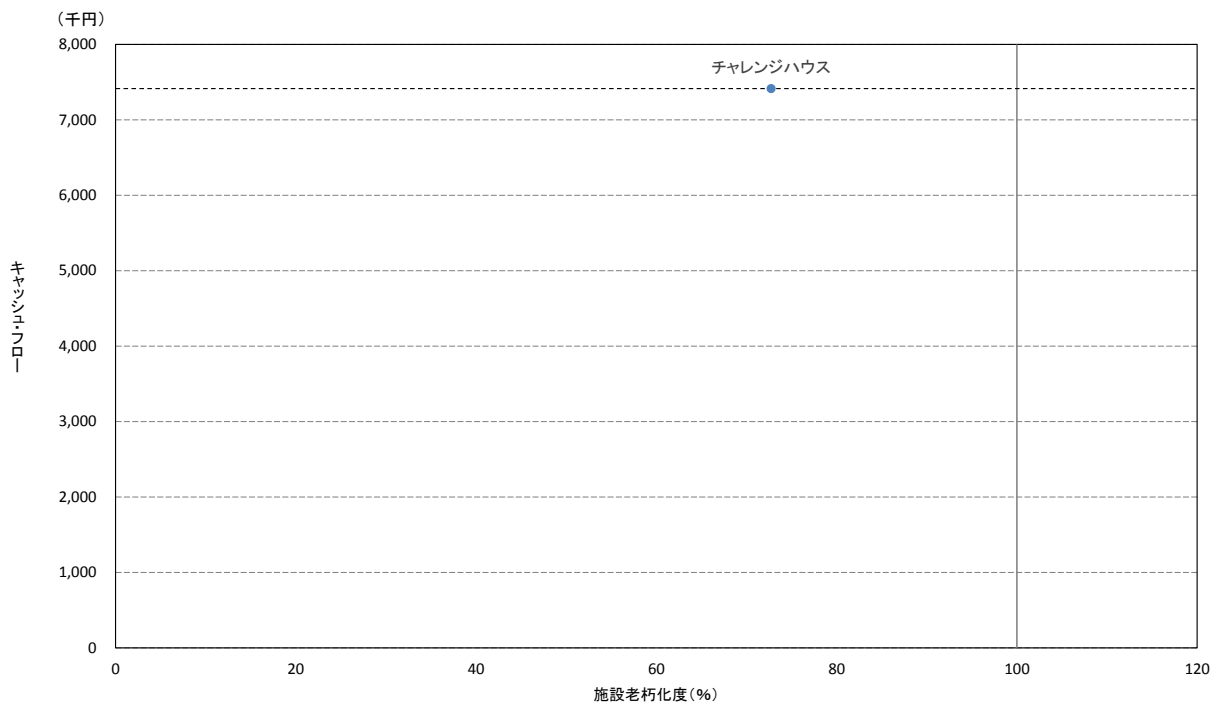
② 〔その他教育施設〕 その他教育施設の状況

図 4-9-4 その他教育施設のフルコストと延床面積



チャレンジハウスの延床面積は 278 ㎡です。また、フルコストは 10,287 千円です。

図 4-9-5 その他教育施設のキャッシュ・フローと老朽化度



チャレンジハウスは、平成 10 年に建築されていますが、老朽化が進行している可能性があります。利用者数が少ないことから利用者 1 人当たりのフルコストが高くなっています。今後の利用者数の見込みも考慮し、施設のあり方などの検討が必要になる可能性もあります。

10 幼保・こども園の状況

表 4-10-1 幼保・こども園の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
保育所	泉	1	泉保育所	直営		530	108.82	昭和 52年度	鉄骨造
	片岡	2	片岡保育所	直営		464	77.08	平成 9年度	木造
小計						994			
合計						994			

保育所は、市内に 2 施設³あり、延床面積は合計 994 ㎡です。

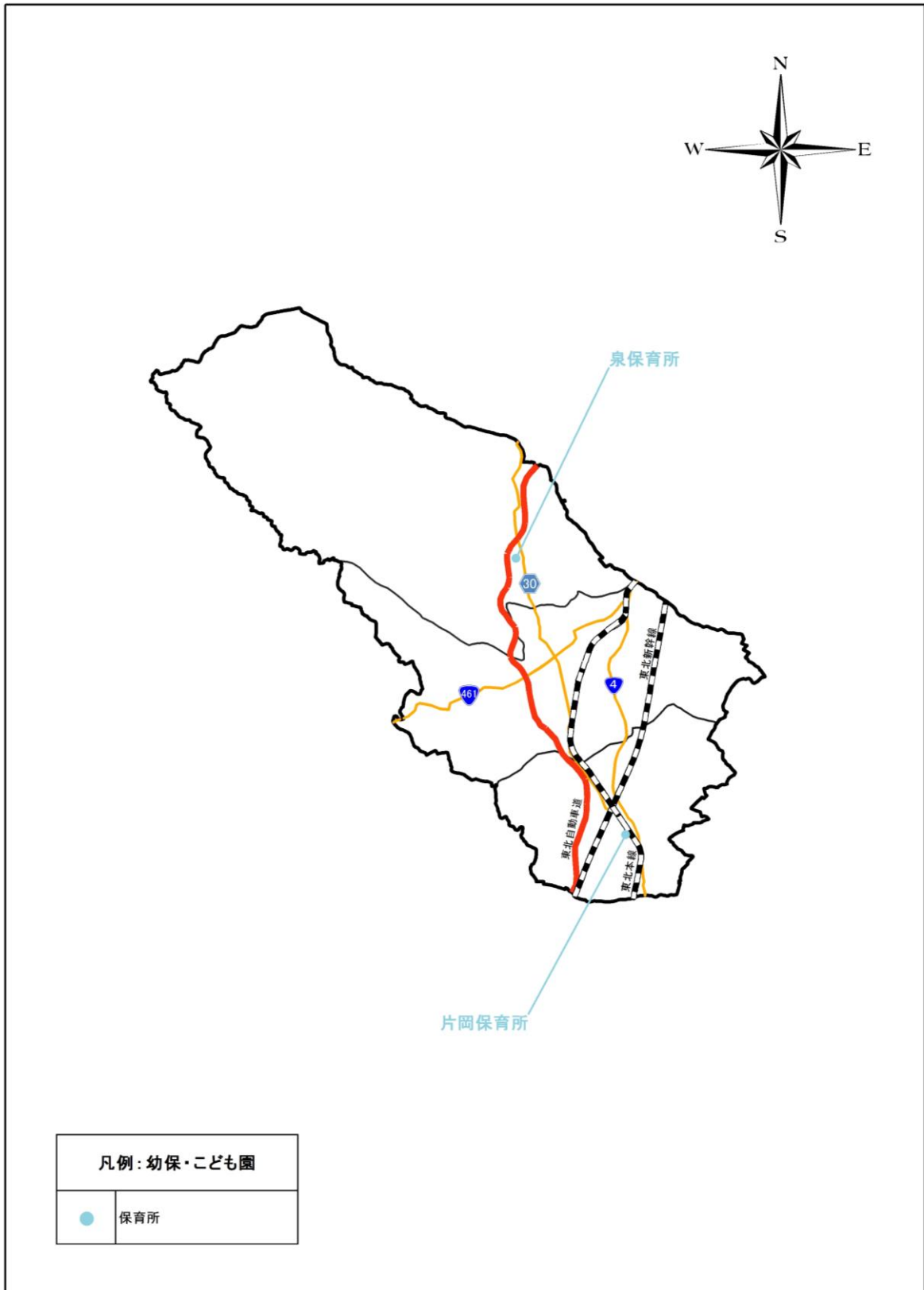
表 4-10-2 幼保・こども園の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	園児数 (人)	園児 1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	園児 1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
保育所											
泉保育所	6,592	66,755	73,348	40	1,833,700	1,212	74,560	1,864,007	1,241	73,319	—
片岡保育所	10,006	88,557	98,564	55	1,792,074	4,187	102,751	1,868,209	1,326	101,425	—
小計	16,598	155,313	171,912	95	1,809,601	5,399	177,311	1,866,440	2,567	174,744	0
合計	16,598	155,313	171,912	95	1,809,601	5,399	177,311	1,866,440	2,567	174,744	0

保育所の園児数の合計は 95 人です。これらの施設にかかるフルコストは 177,311 千円です。

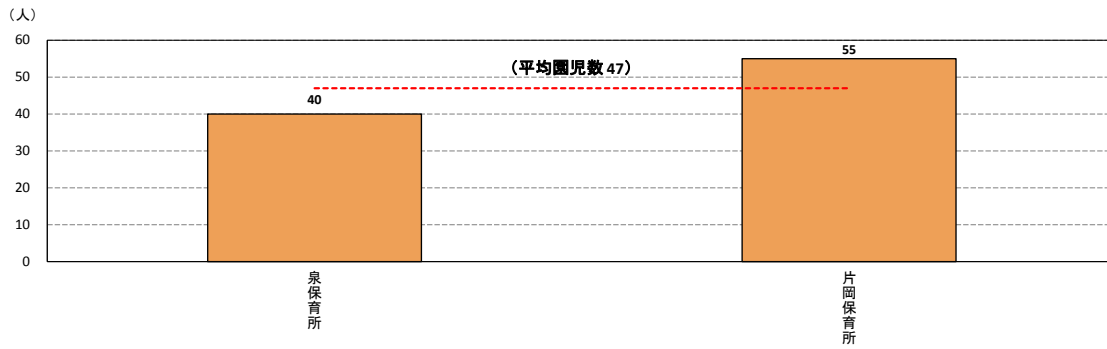
³ 片岡保育所については、平成 28 年度に民間に移行する予定です。

図 4-10-1 幼保・こども園の配置状況



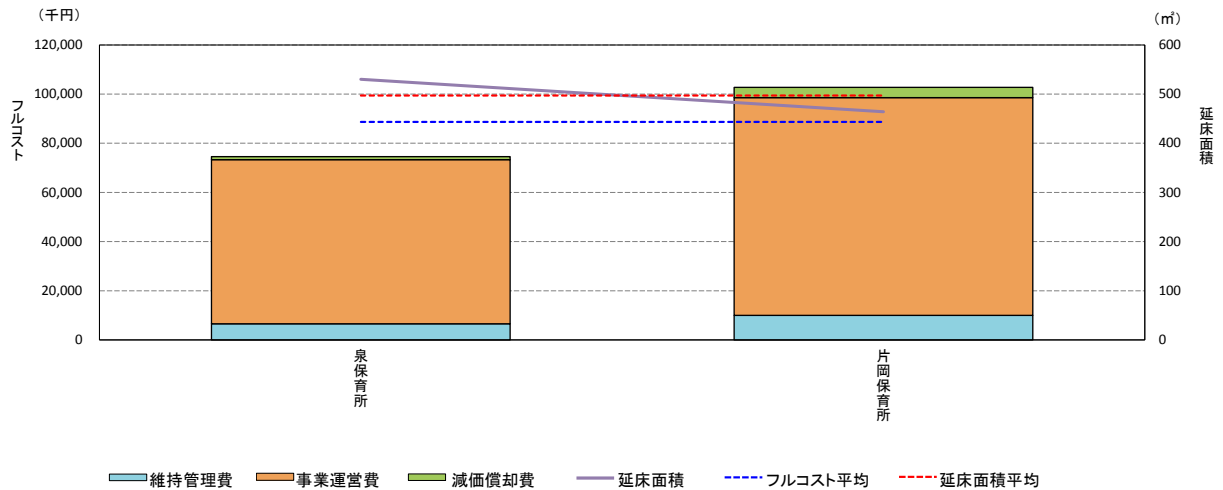
① 〔幼保・こども園〕 保育所の状況

図 4-10-2 保育所の園児数



平成 26 年度の園児数は、泉保育所が 40 人であり、片岡保育所が 55 人です。

図 4-10-3 保育所のフルコストと延床面積



保育所の延床面積は、泉保育所が 530 ㎡で、片岡保育所が 464 ㎡です。また、フルコストは、泉保育所が 74,560 千円であり、片岡保育所が 102,751 千円です。

図 4-10-4 保育所の園児数とフルコスト

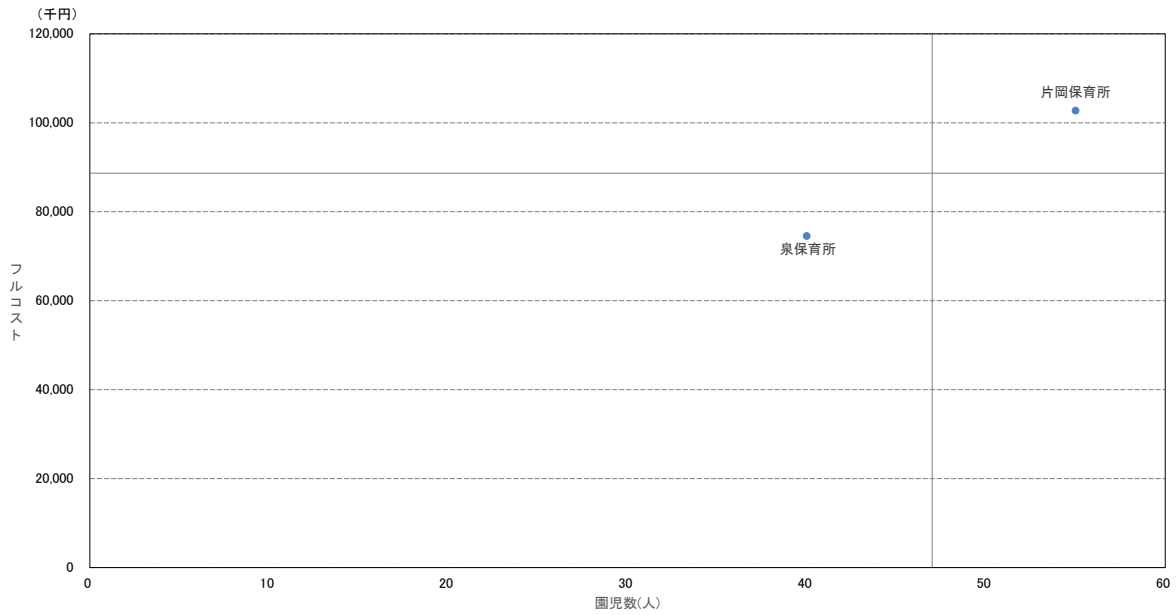
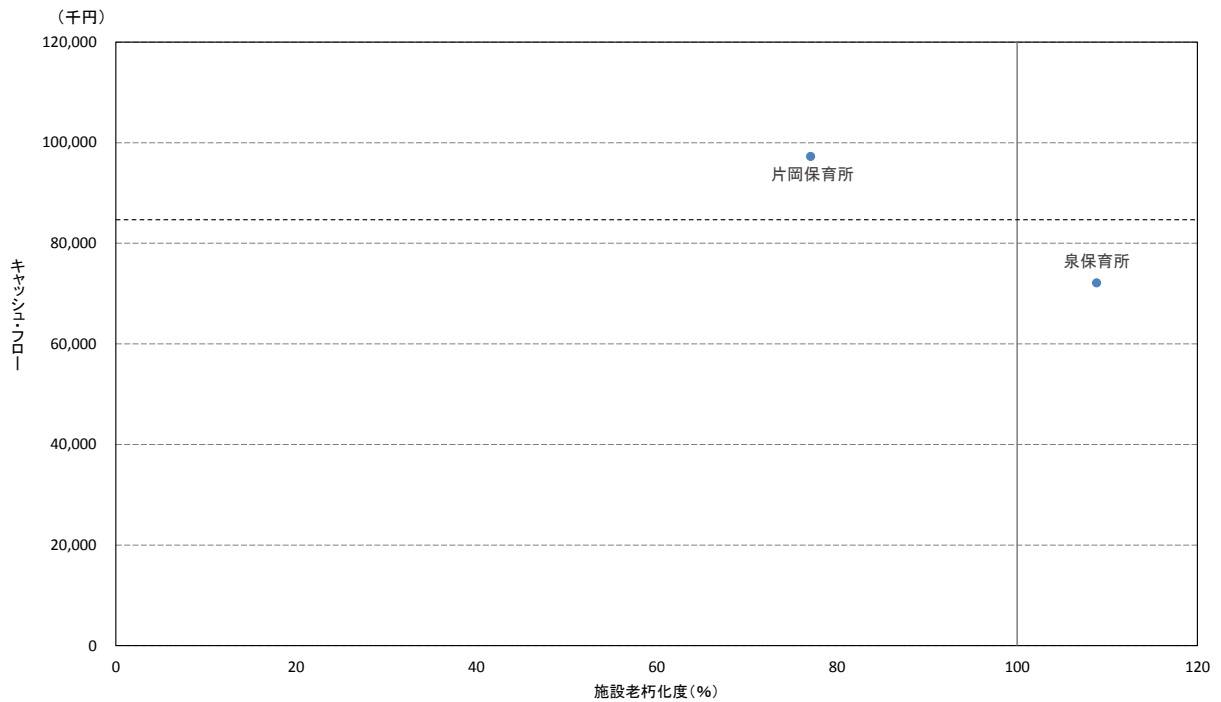


図 4-10-5 保育所のキャッシュ・フローと老朽化度



泉保育所は昭和 50 年代に建築され、老朽化が進行しています。今後の対応について、早急に検討を行う必要があります。

今後の地域ごとの人口動態を見据え、保育所総数、設置地域を検討することが必要になってくることが想定されます。

11 幼児・児童施設の状況

表 4-11-1 幼児・児童施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
児童館、 学童保育館	矢板	1	矢板児童館	指定管理者	●	360	45.45	平成 16年度	木造
	矢板	2	矢板東児童館	指定管理者	●	174	95.45	平成 5年度	木造
	矢板	3	矢板小学童保育館	指定管理者	●	66	45.45	平成 16年度	木造
	矢板	4	東小学童保育館	指定管理者	●	82	95.45	平成 5年度	木造
	矢板	5	川崎小学童保育館	指定管理者		88	54.55	平成 14年度	木造
	泉	6	泉げんきセンター(泉小学童保育館)	指定管理者	●	194	93.62	昭和 45年度	鉄筋コンクリート
	片岡	7	片岡児童館	指定管理者	●	303	81.82	平成 8年度	木造
	片岡	8	片岡小学童保育館	指定管理者	●	74	81.82	平成 8年度	木造
	片岡	9	安沢小学童保育館	指定管理者		158	22.73	平成 21年度	木造
小計						1,499			
合計						1,499			

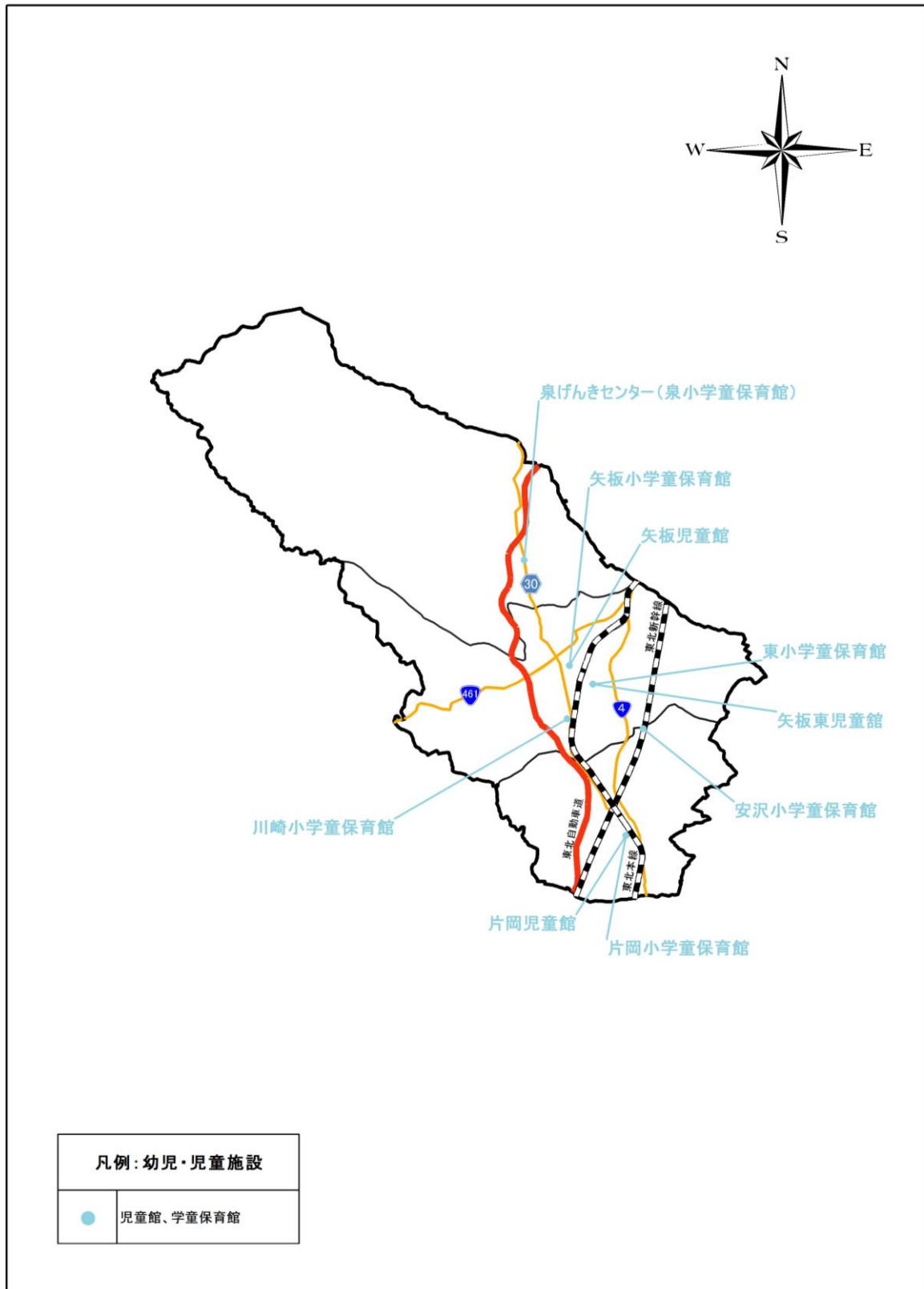
児童館、学童保育館は、市内に9施設あり、延床面積は合計 1,499 ㎡です。

表 4-11-2 幼児・児童施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	児童数 (人)	児童1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	児童1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
児童館、学童保育館											
矢板児童館	1,903	6,781	8,684	4,074	2,131	3,381	12,065	2,961	56	12,009	8,614
矢板東児童館	1,343	6,373	7,716	2,647	2,915	1,432	9,148	3,456	33	9,115	7,940
矢板小学童保育館	100	9,306	9,407	17,241	545	622	10,030	581	7,610	2,419	2,218
東小学童保育館	36	5,407	5,444	11,844	459	671	6,116	516	5,233	883	739
川崎小学童保育館	282	5,265	5,547	6,193	895	778	6,326	1,021	2,681	3,645	2,532
泉げんきセンター (泉小学童保育館)	1,044	5,825	6,869	8,146	843	1,397	8,267	1,014	3,739	4,527	2,593
片岡児童館	1,605	6,684	8,290	3,558	2,330	2,202	10,492	2,949	25	10,467	8,233
片岡小学童保育館	898	4,785	5,684	9,775	581	537	6,222	636	4,358	1,864	556
安沢小学童保育館	575	6,241	6,817	6,878	991	1,284	8,102	1,177	3,022	5,079	2,658
小計	7,790	56,672	64,463	70,356	916	12,308	76,771	1,091	26,761	50,010	36,083
合計	7,790	56,672	64,463	70,356	916	12,308	76,771	1,091	26,761	50,010	36,083

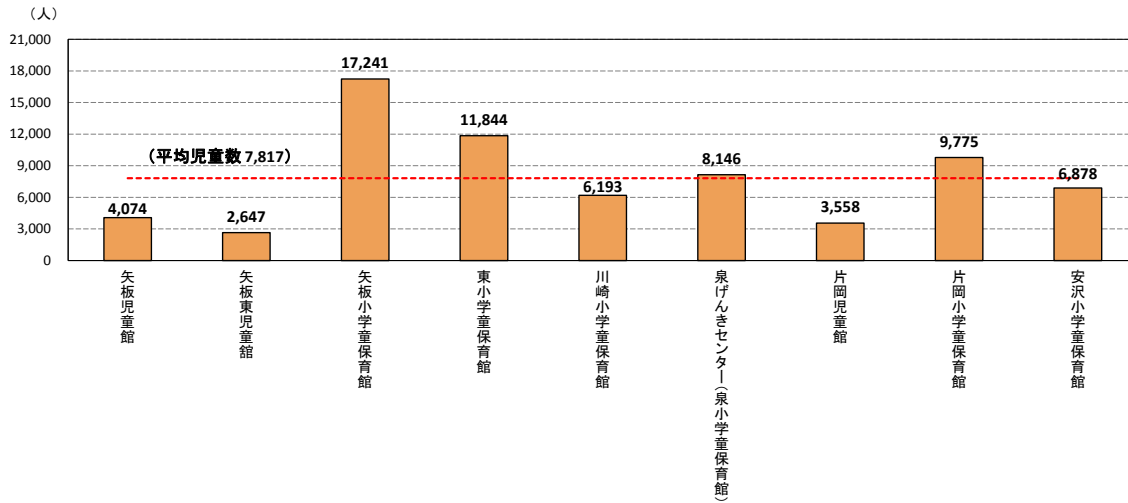
児童館、学童保育館の児童数の合計は 70,356 人です。これらの施設にかかるフルコストは 76,771 千円です。

図 4-11-1 幼児・児童施設の配置状況



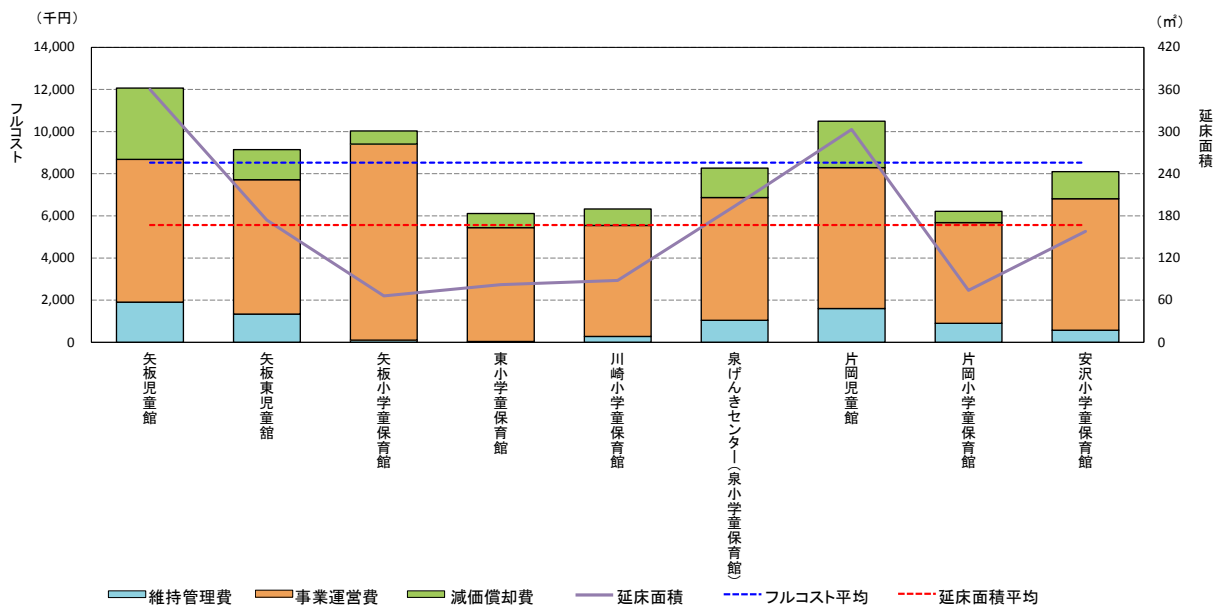
① [幼児・児童施設] 児童館、学童保育館の状況

図 4-11-2 児童館、学童保育館の児童数(平成 26 年度)



児童館、学童保育館のうち、年間の児童数が最も多い施設は、矢板小学童保育館の 17,241 人であり、2 番目は東小学童保育館の 11,844 人です。最も児童数が少ない施設は、矢板東児童館の 2,647 人であり、2 番目は片岡児童館の 3,558 人です。

図 4-11-3 児童館、学童保育館のフルコストと延床面積



児童館、学童保育館のうち、延床面積が最も広いのは、矢板児童館の 360 ㎡であり、2 番目は片岡児童館の 303 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、矢板児童館の 12,065 千円であり、2 番目は片岡児童館の 10,492 千円です。

図 4-11-4 児童館、学童保育館の児童数とフルコスト

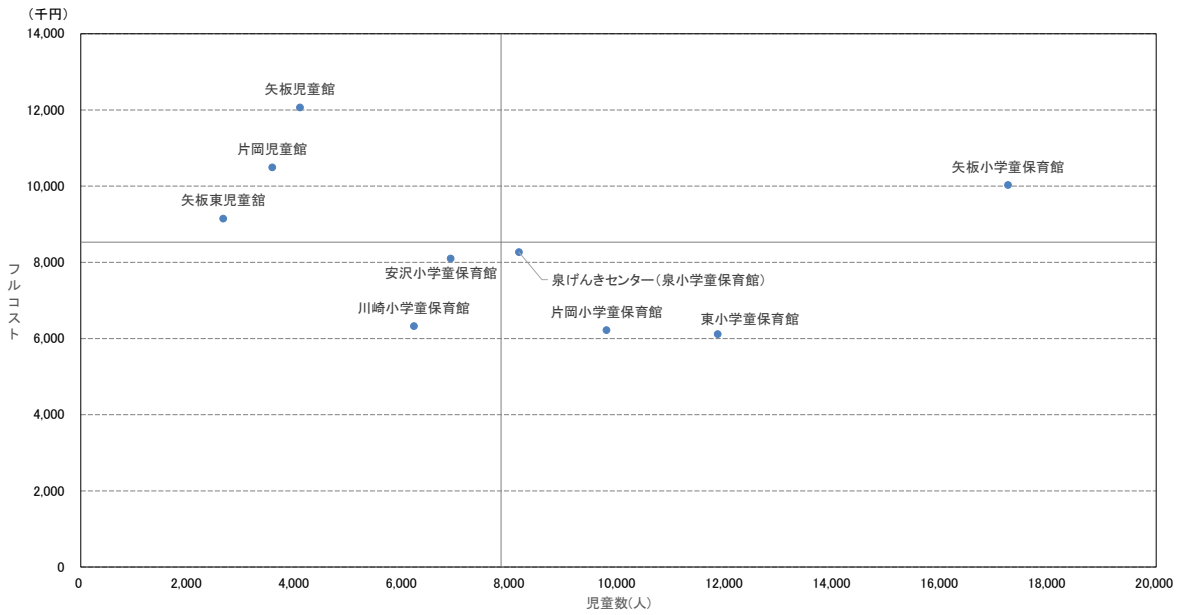
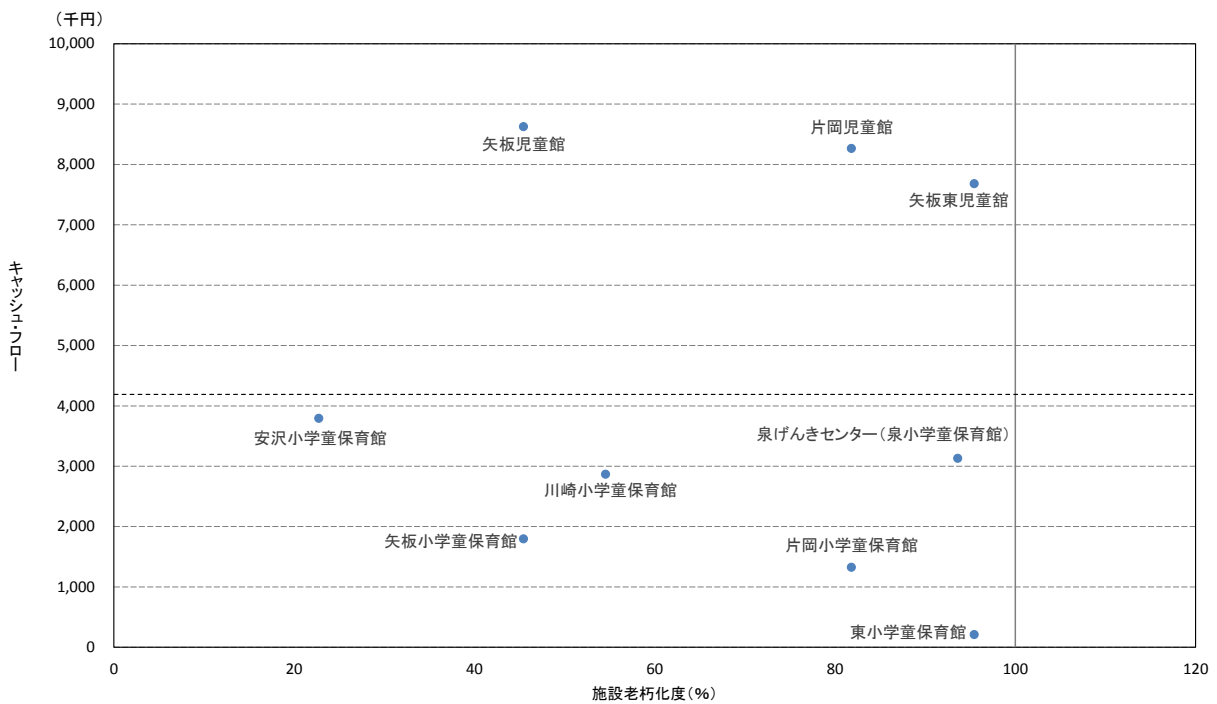


図 4-11-5 児童館、学童保育館のキャッシュ・フローと老朽化度



児童館、学童保育館は9施設あり、全て指定管理者の管理となっています。また、泉げんきセンターは、昭和40年代に建築されており、老朽化が進行しています。

矢板児童館、片岡児童館、矢板東児童館は、利用者が少ないうえに、キャッシュ・フローが他の施設に比べて大きく、コスト面で運営方法などの検討が必要です。今後の利用者数の動向も踏まえ、適正配置を検討していくことが必要です。

12 社会福祉施設の状況

表 4-12-1 社会福祉施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
高齢福祉施設	泉	1	泉げんきセンター(泉はつらつ館)	指定管理者	●	342	95.00	昭和 45年度	鉄筋コンクリート
	片岡	2	片岡デイサービスセンター	指定管理者		402	39.47	平成 11年度	鉄骨造
小計						744			
その他社会福祉施設	矢板	1	矢板市城の湯温泉センター	指定管理者		2,855	62.78	平成 3年度	鉄骨造
	矢板	2	きずな館	直営		583	69.14	昭和 55年度	鉄筋コンクリート
小計						3,438			
合計						4,182			

高齢福祉施設は、市内に 2 施設あり、延床面積は合計 744 ㎡です。

その他社会福祉施設は、市内に 2 施設あり、延床面積は合計 3,438 ㎡です。

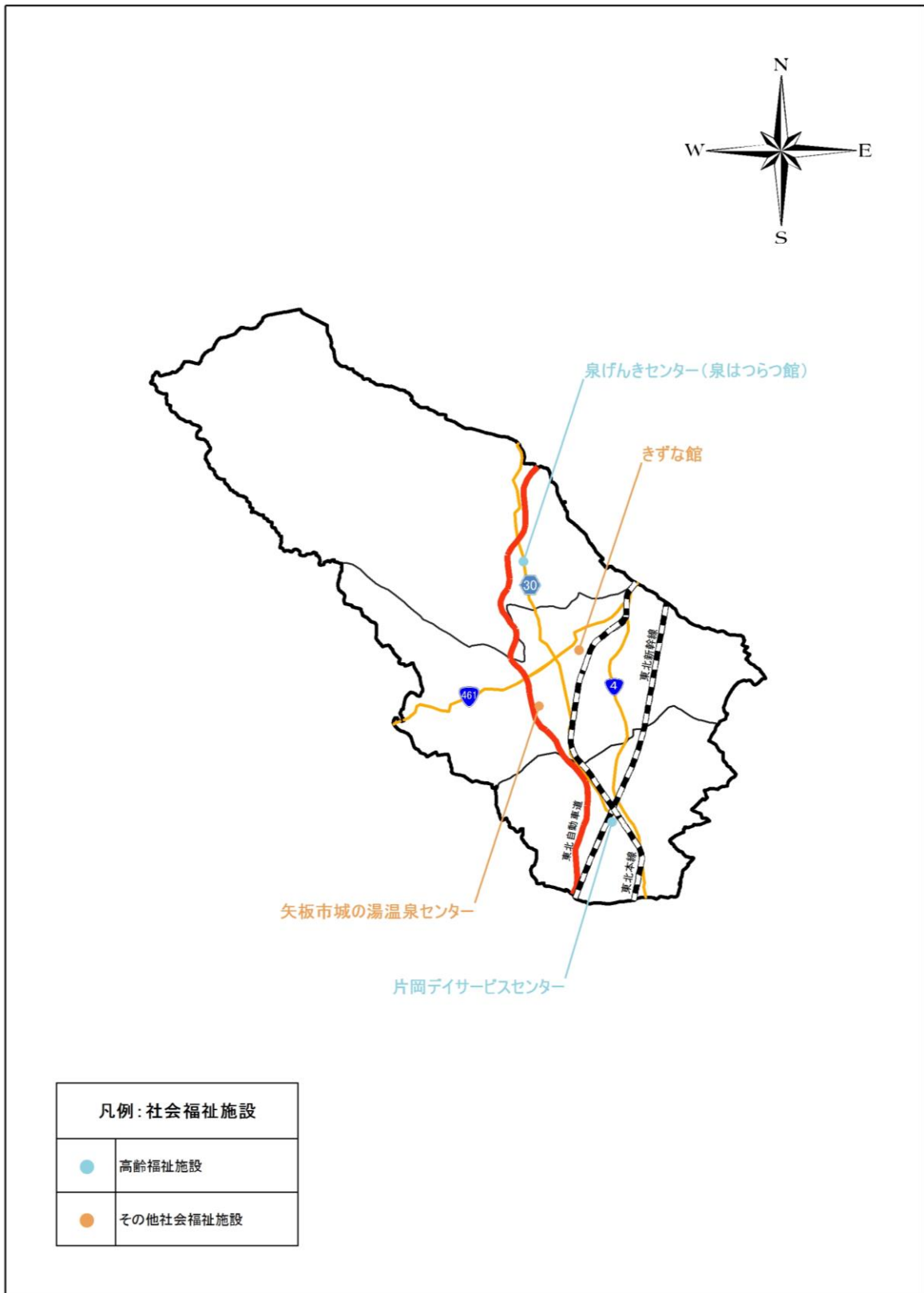
表 4-12-2 社会福祉施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
高齢福祉施設											
泉げんきセンター(泉はつらつ館)	18	4,036	4,055	2,040	1,987	2,353	6,408	3,141	247	6,161	4,041
片岡デイサービスセンター	4,735	31,665	36,401	4,485	8,116	2,083	38,484	8,580	42,691	-4,207	0
小計	4,754	35,702	40,456	6,525	6,200	4,436	44,893	6,880	42,939	1,953	4,041
その他社会福祉施設											
矢板市城の湯温泉センター	50,682	58,340	109,023	161,398	675	29,196	138,219	856	63,305	74,913	16,990
きずな館	1,095	76	1,172	3,037	385	2,041	3,213	1,058	0	3,213	—
小計	51,777	58,417	110,195	164,435	670	31,237	141,432	860	63,305	78,127	16,990
合計	56,532	94,119	150,652	170,960	881	35,673	186,326	1,089	106,245	80,081	21,031

高齢福祉施設の利用者数の合計は 6,525 人です。これらの施設にかかるフルコストは 44,893 千円です。

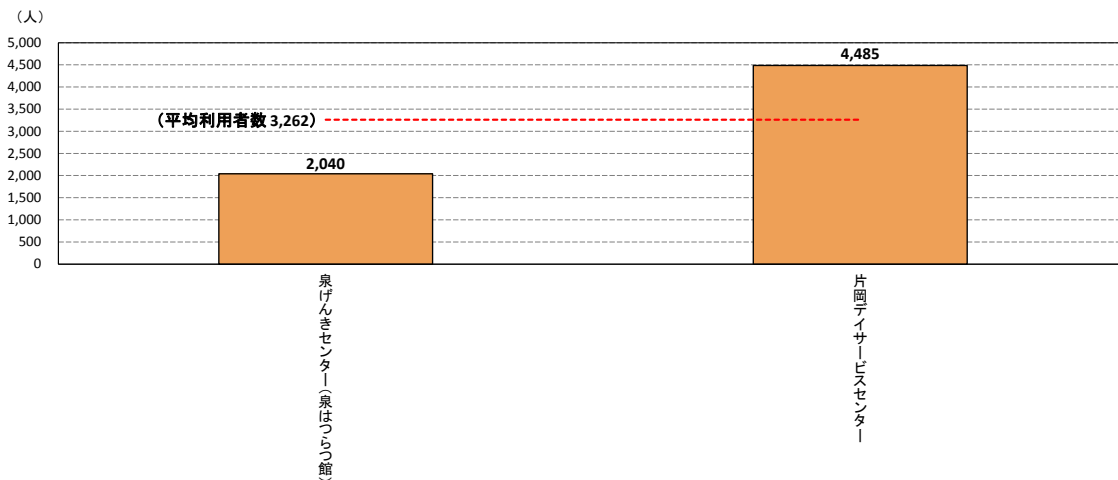
その他社会福祉施設の利用者数の合計は 164,435 人です。これらの施設にかかるフルコストは 141,432 千円です。

図 4-12-1 社会福祉施設の配置状況



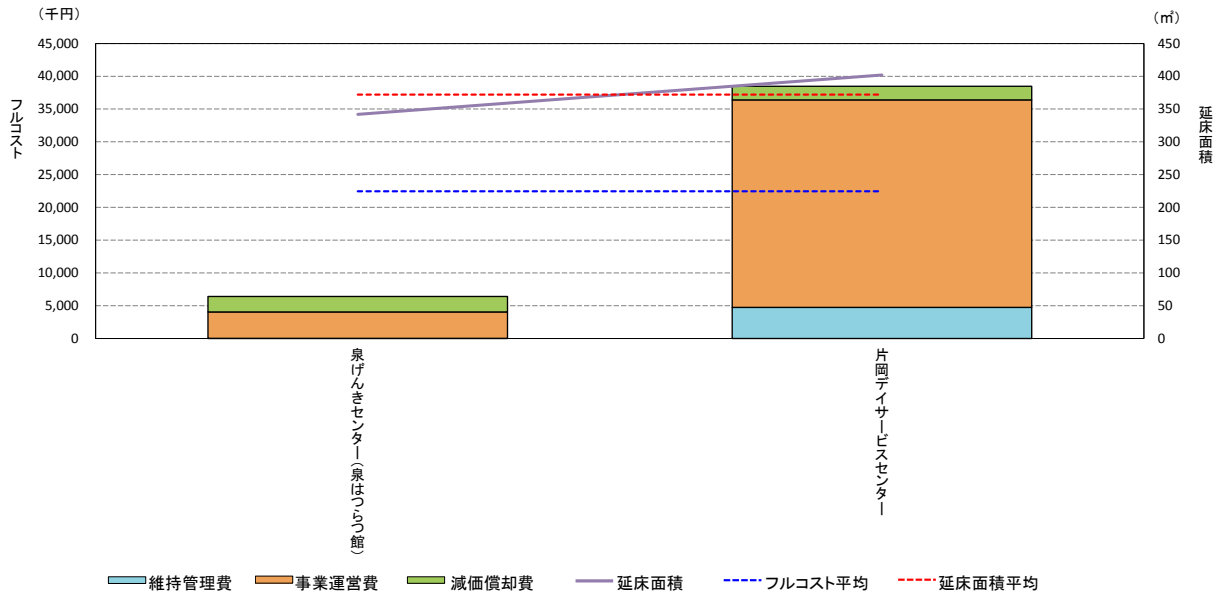
① 〔社会福祉施設〕 高齢福祉施設の状況

図 4-12-2 高齢福祉施設の利用者数(平成 26 年度)



高齢福祉施設の年間の利用者数は、泉げんきセンター（泉はつらつ館）が2,040人であり、片岡デイサービスセンターが4,485人です。

図 4-12-3 高齢福祉施設のフルコストと延床面積



高齢福祉施設の延床面積は、泉げんきセンター（泉はつらつ館）が342㎡で、片岡デイサービスセンターが402㎡です。また、フルコストは、泉げんきセンター（泉はつらつ館）が6,408千円であり、片岡デイサービスセンターが38,484千円です。

図 4-12-4 高齢福祉施設の利用者数とフルコスト

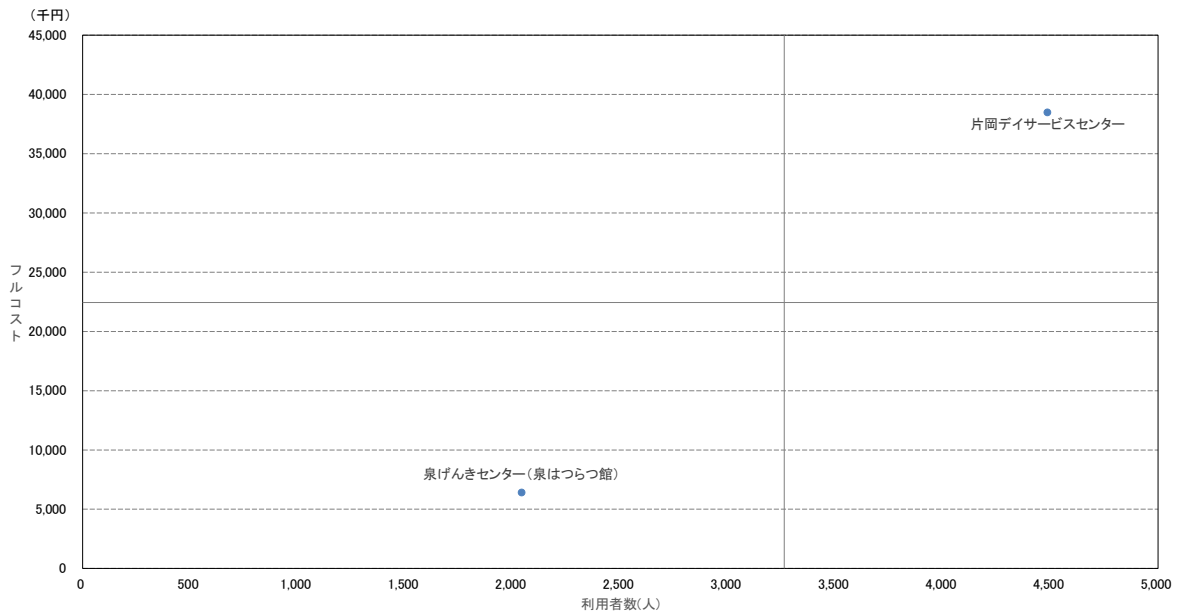
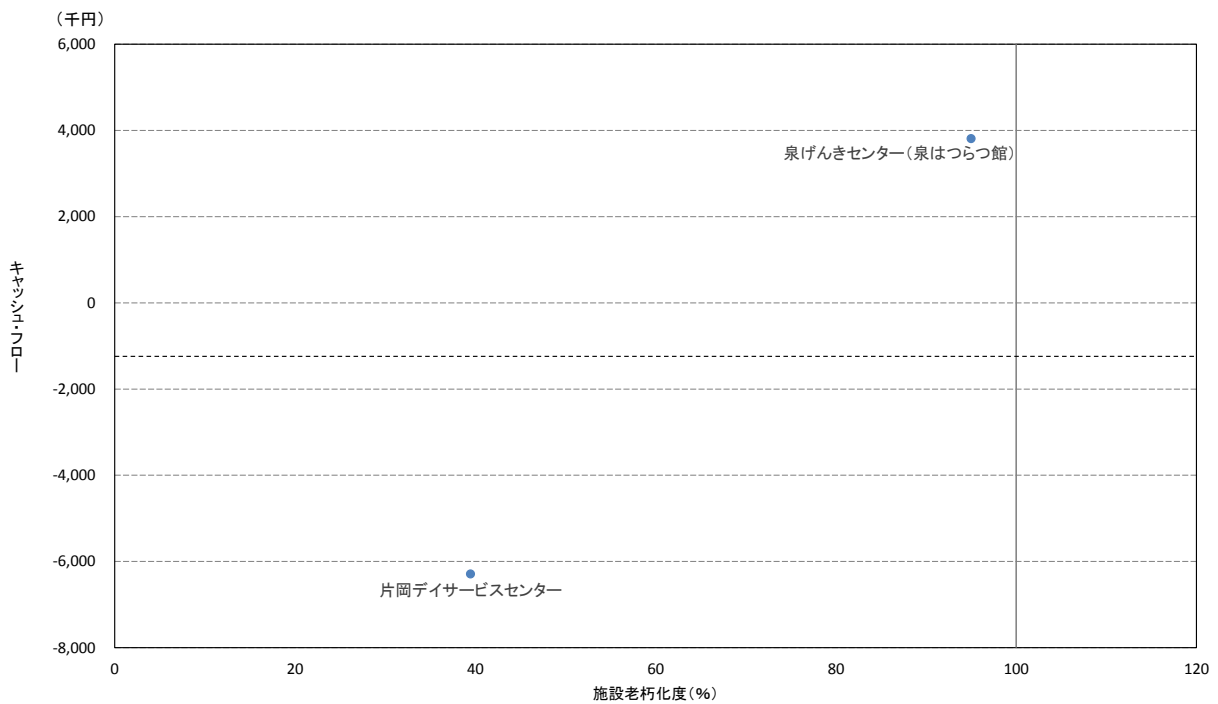


図 4-12-5 高齢者福祉施設のキャッシュ・フローと老朽化度

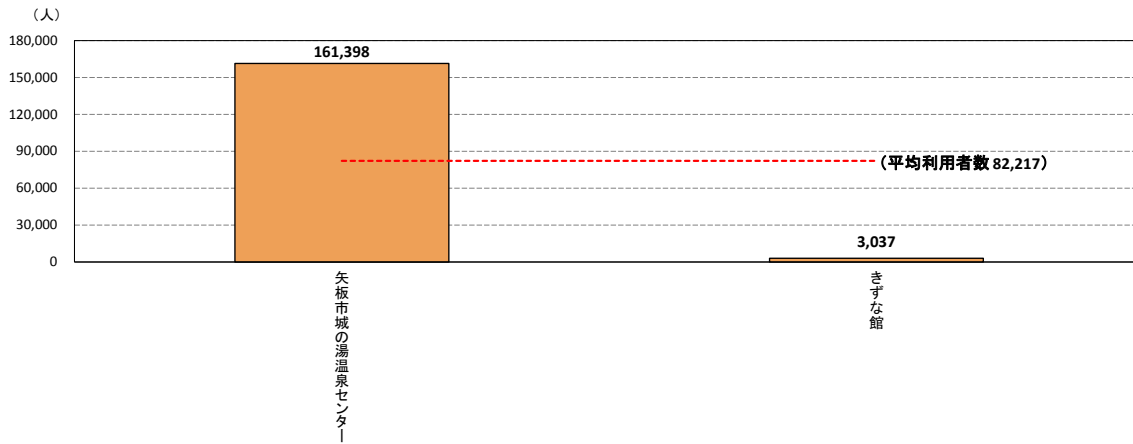


泉げんきセンターは昭和 40 年代に建築されており、老朽化が進行しています。今後の建替え更新にあたって、早急に検討することが必要です。

介護保険制度の成立から期間も経過し、民間事業者も育ってきている社会環境を踏まえ、今後の施設の更新については検討していく必要があります。

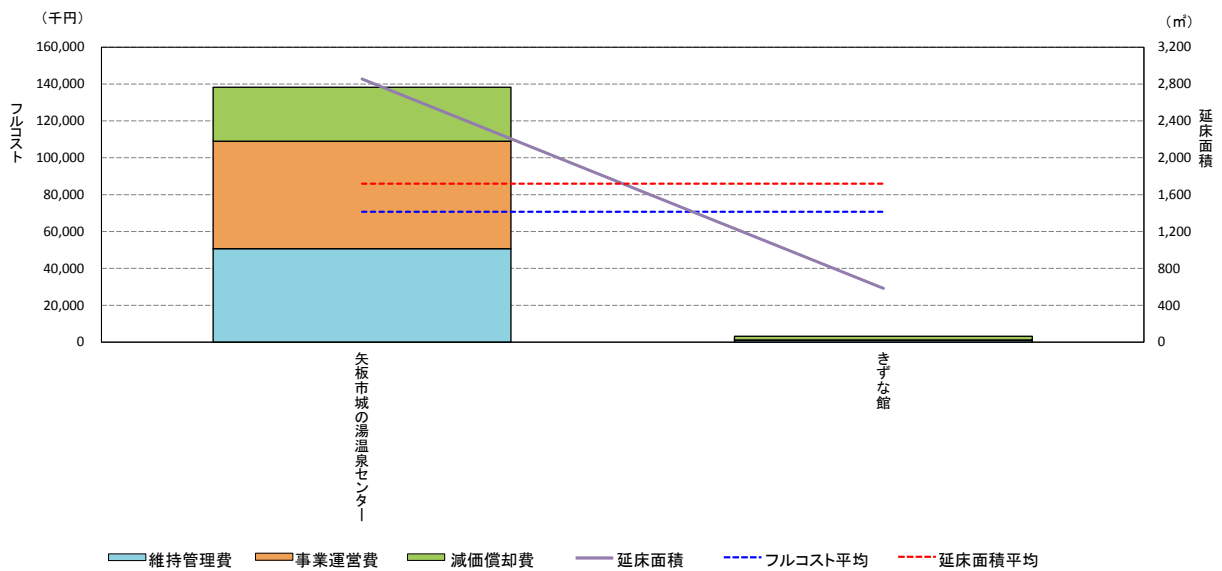
② 【社会福祉施設】 その他社会福祉施設の状況

図 4-12-6 その他社会福祉施設の利用者数(平成 26 年度)



その他社会福祉施設の年間の利用者数は、矢板市城の湯温泉センターが 161,398 人であり、きすな館が 3,037 人です。

図 4-12-7 その他社会福祉施設のフルコストと延床面積



その他社会福祉施設の延床面積は、矢板市城の湯温泉センターが 2,855 ㎡で、きすな館が 583 ㎡です。また、フルコストは、矢板市城の湯温泉センターが 138,219 千円であり、きすな館が 3,213 千円です。

図 4-12-8 その他社会福祉施設の利用者数とフルコスト

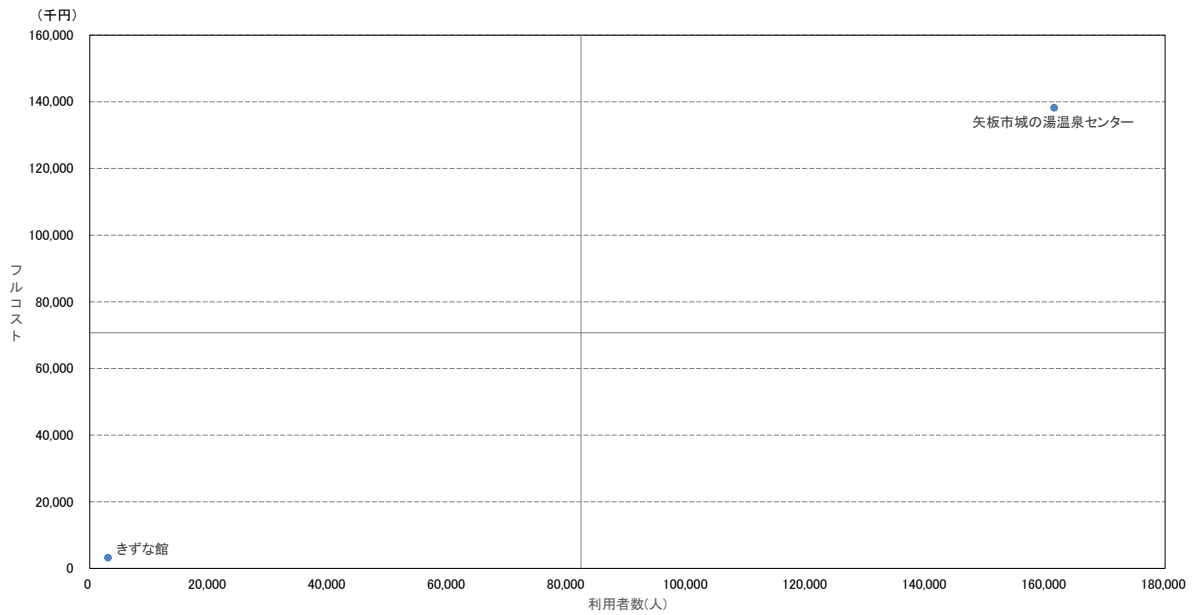
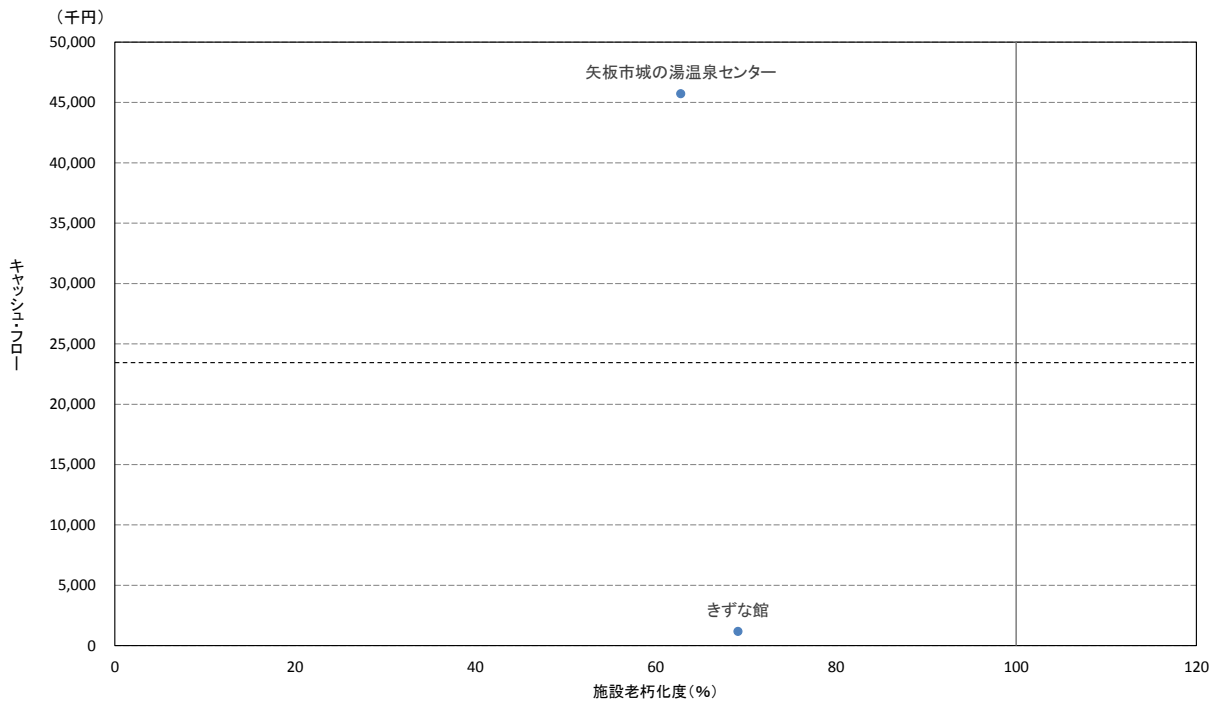


図 4-12-9 その他社会福祉施設のキャッシュ・フローと老朽化度



矢板市城の湯温泉センター、きずな館ともに老朽化が進行している可能性があります。矢板市城の湯温泉センターは減価償却費が数千万円規模で発生していることから将来の建替え時における本市の財政負担が厳しくなることが想定されます。

13 庁舎等の状況

表 4-13-1 庁舎等の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
庁舎	矢板	1	市役所	直営		5,478	89.52	昭和 37年度	鉄筋コンクリート
	矢板	2	矢板市生涯学習館(庁舎)	直営	●	260	46.00	平成 3年度	鉄筋コンクリート
	矢板	3	コミュニティ防災センター	直営		227	64.00	昭和 57年度	鉄筋コンクリート
小計						5,965			
合計						5,965			

※市役所の施設全体の老朽化度は 89.52%となっておりますが、そのうち庁舎本館については 104%を超えており老朽化が進んでいます。

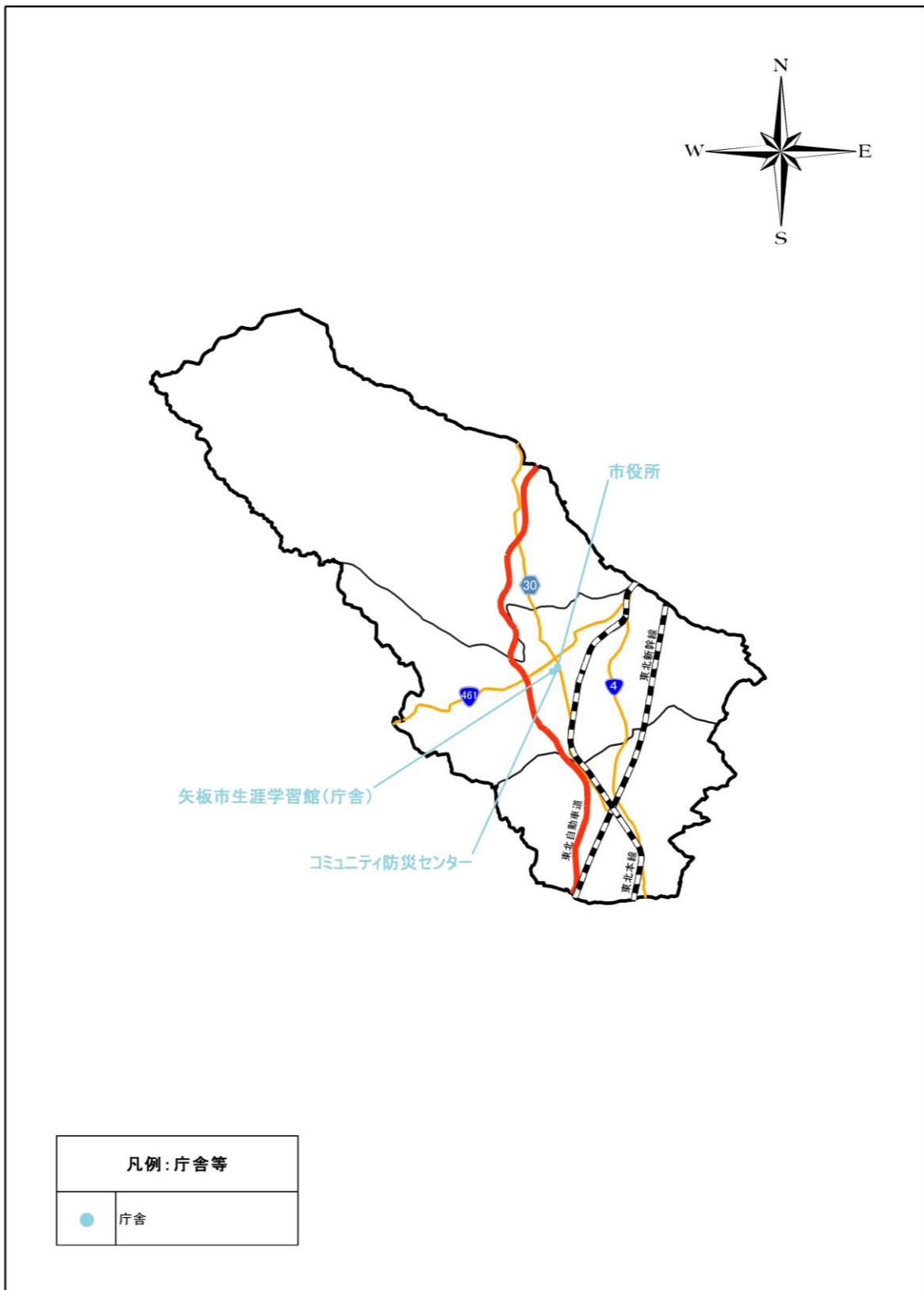
庁舎は、市内に 3 施設あり、延床面積は合計 5,965 ㎡です。

表 4-13-2 庁舎等の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
庁舎											
市役所	31,537	13,947	45,484	—	—	6,632	52,117	—	426	51,691	—
矢板市生涯学習館(庁舎)	907	501	1,408	—	—	1,557	2,966	—	0	2,966	—
コミュニティ防災センター	256	2,398	2,654	—	—	576	3,230	—	0	3,230	—
小計	32,701	16,847	49,548	0	0	8,766	58,314	0	426	57,888	0
合計	32,701	16,847	49,548	0	0	8,766	58,314	0	426	57,888	0

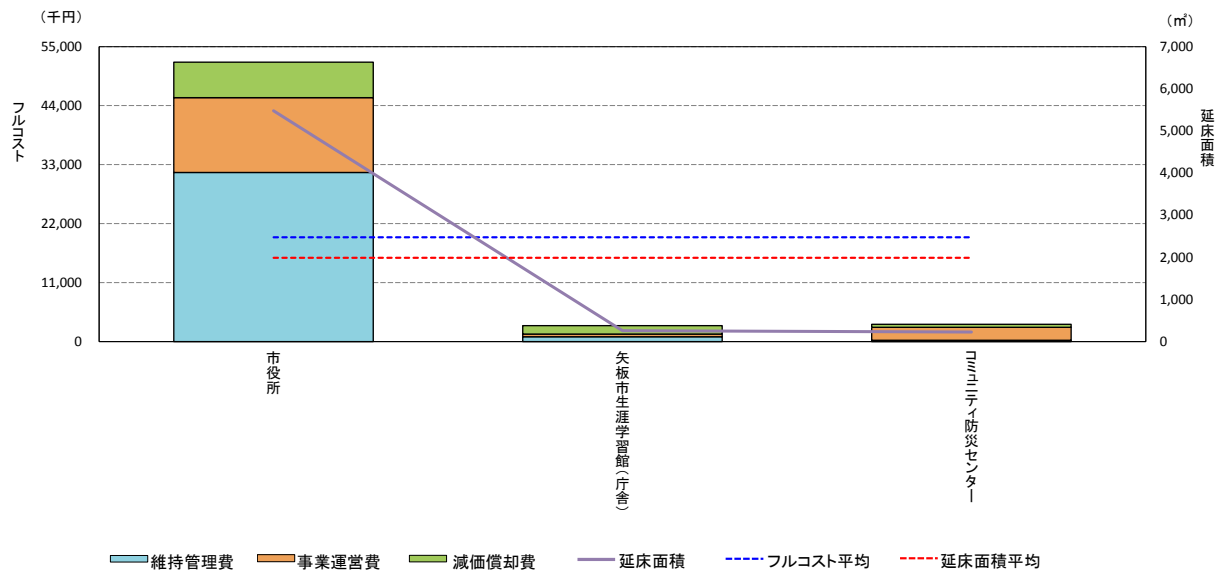
庁舎にかかるフルコストは 58,314 千円です。

図 4-13-1 庁舎等の配置状況



① 〔庁舎等〕 庁舎の状況

図 4-13-2 庁舎のフルコストと延床面積



庁舎のうち、延床面積が最も広いのは、市役所の5,478㎡であり、2番目は矢板市生涯学習館(庁舎)の260㎡です。また、フルコストが最も高いのは、市役所の52,117千円であり、2番目はコミュニティ防災センターの3,230千円です。

図 4-13-3 庁舎の延床面積と耐用年数到来年度

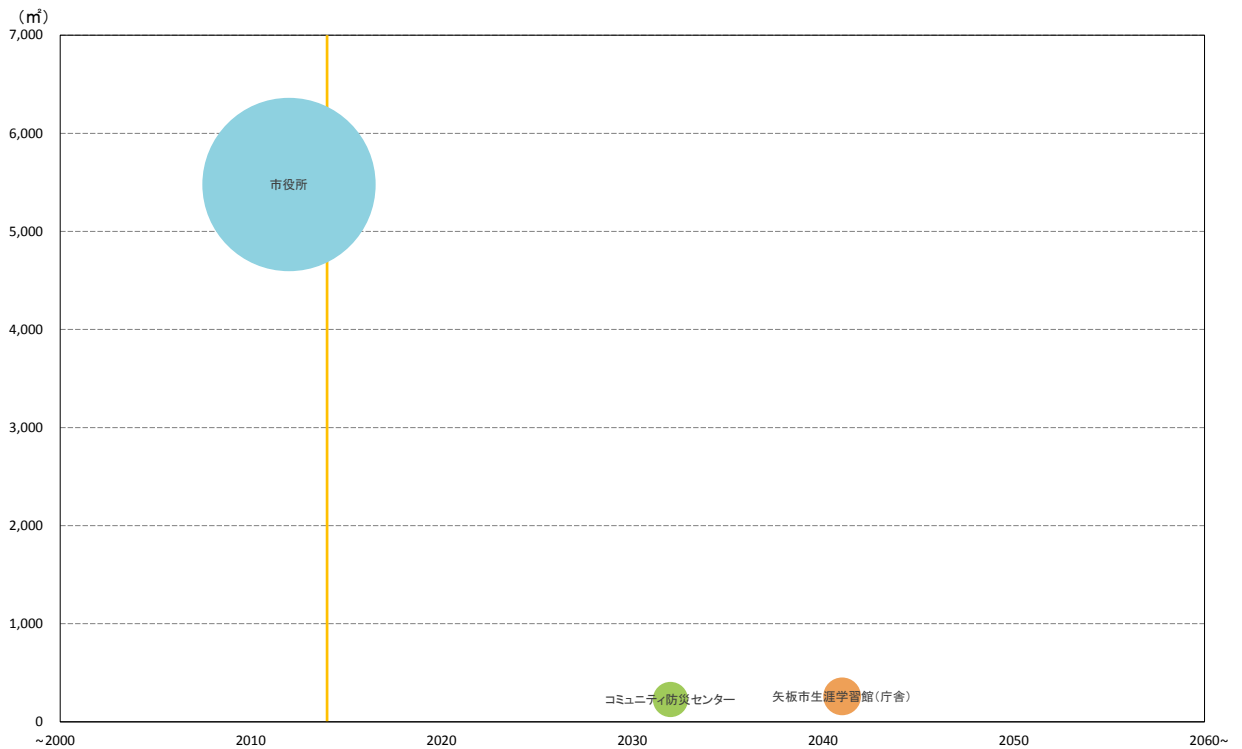
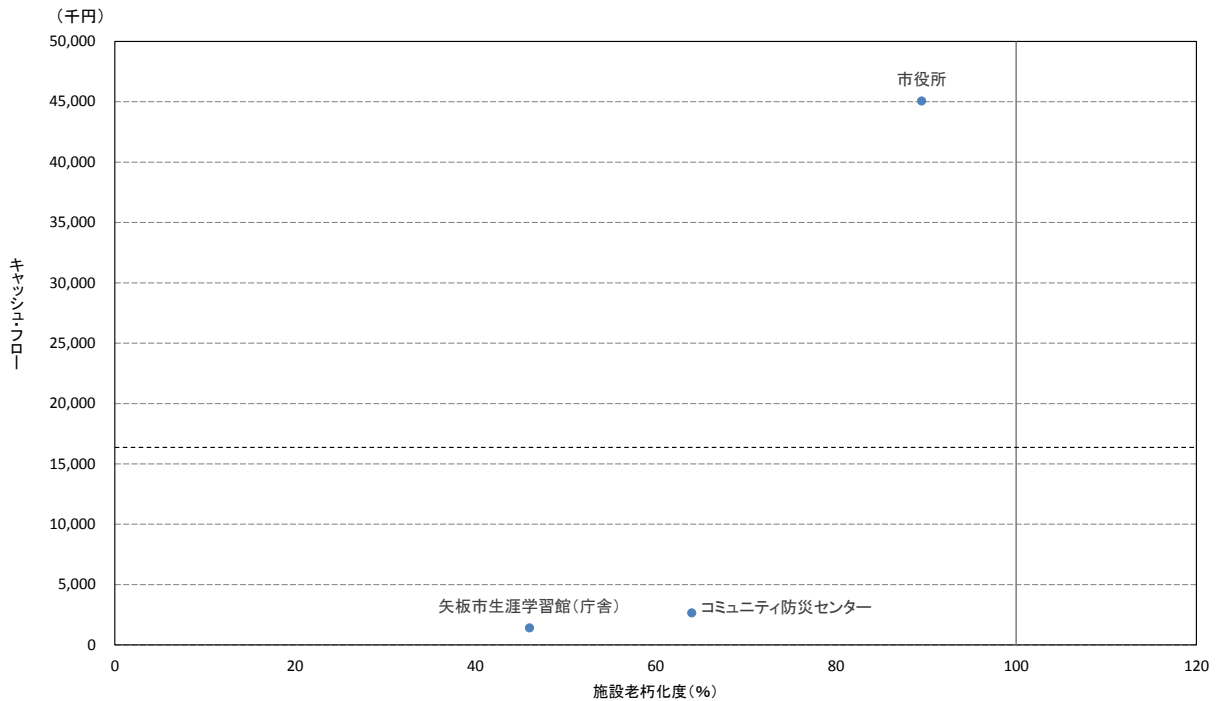


図 4-13-4 庁舎のキャッシュ・フローと老朽化度



市役所は昭和 37 年度に建築されておりますが、老朽化が進行していることから、今後の更新について早急な検討が必要です。将来の建替更新にあたっては、サービス提供のあり方を踏まえた検討が必要です。

各地区に行政窓口の機能は必要と考えられますが、サービス水準を見直したり、さらに他の施設と複合化したりするなども考えられるため、行政センターのみならず周辺の施設の建替えの時期などを踏まえて検討していく必要があります。

14 消防施設の状況

表 4-14-1 消防施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
消防器具置場	矢板	1	第1分団第1部消防器具置場	直営		64	60.00	平成 17年度	木造
	矢板	2	第1分団第2部消防器具置場	直営		64	53.33	平成 18年度	木造
	矢板	3	第1分団第3部消防器具置場	直営		38	120.83	昭和 60年度	軽量鉄骨造
	矢板	4	第1分団第4部消防器具置場	直営		64	6.67	平成 25年度	木造
	矢板	5	第1分団第5部消防器具置場	直営		64	20.00	平成 23年度	木造
	矢板	6	第2分団第1部消防器具置場	直営		46	106.67	平成 10年度	木造
	矢板	7	第2分団第2部消防器具置場	直営		46	166.67	平成 1年度	木造
	矢板	8	第4分団第1部消防器具置場	直営		46	113.33	平成 9年度	木造
	矢板	9	第4分団第2部消防器具置場	直営		53	86.67	平成 13年度	木造
	矢板	10	第4分団第3部消防器具置場	直営		53	80.00	平成 14年度	木造
	矢板	11	第4分団第4部消防器具置場	直営		64	66.67	平成 16年度	木造
	矢板	12	第4分団第5部消防器具置場	直営		53	100.00	平成 11年度	木造
	矢板	13	第4分団第6部消防器具置場	直営		46	120.00	平成 8年度	木造
	矢板	14	旧第1分団第4部消防器具置場	直営		53	102.94	昭和 54年度	コンクリートブロック
	泉	15	第2分団第3部消防器具置場	直営		64	73.33	平成 15年度	木造
	泉	16	第5分団第1部消防器具置場	直営		64	40.00	平成 20年度	木造
	泉	17	第5分団第2部消防器具置場	直営		64	26.67	平成 22年度	木造
	泉	18	第5分団第3部消防器具置場	直営		46	120.00	平成 8年度	木造
	泉	19	第5分団第4部消防器具置場	直営		21	137.50	昭和 56年度	軽量鉄骨造
	泉	20	旧第5分団第1部消防器具置場	直営		44	75.00	平成 8年度	軽量鉄骨造
	片岡	21	第3分団第1部消防器具置場	直営		70	0.00	平成 26年度	木造
	片岡	22	第3分団第2部消防器具置場	直営		53	93.33	平成 12年度	木造
	片岡	23	第3分団第3部消防器具置場	直営		69	13.33	平成 24年度	木造
	片岡	24	第3分団第4部消防器具置場	直営		64	46.67	平成 19年度	木造
	片岡	25	旧第3分団第1部消防器具置場	直営		46	83.87	昭和 63年度	鉄骨造
小計						1,359			
合計						1,359			

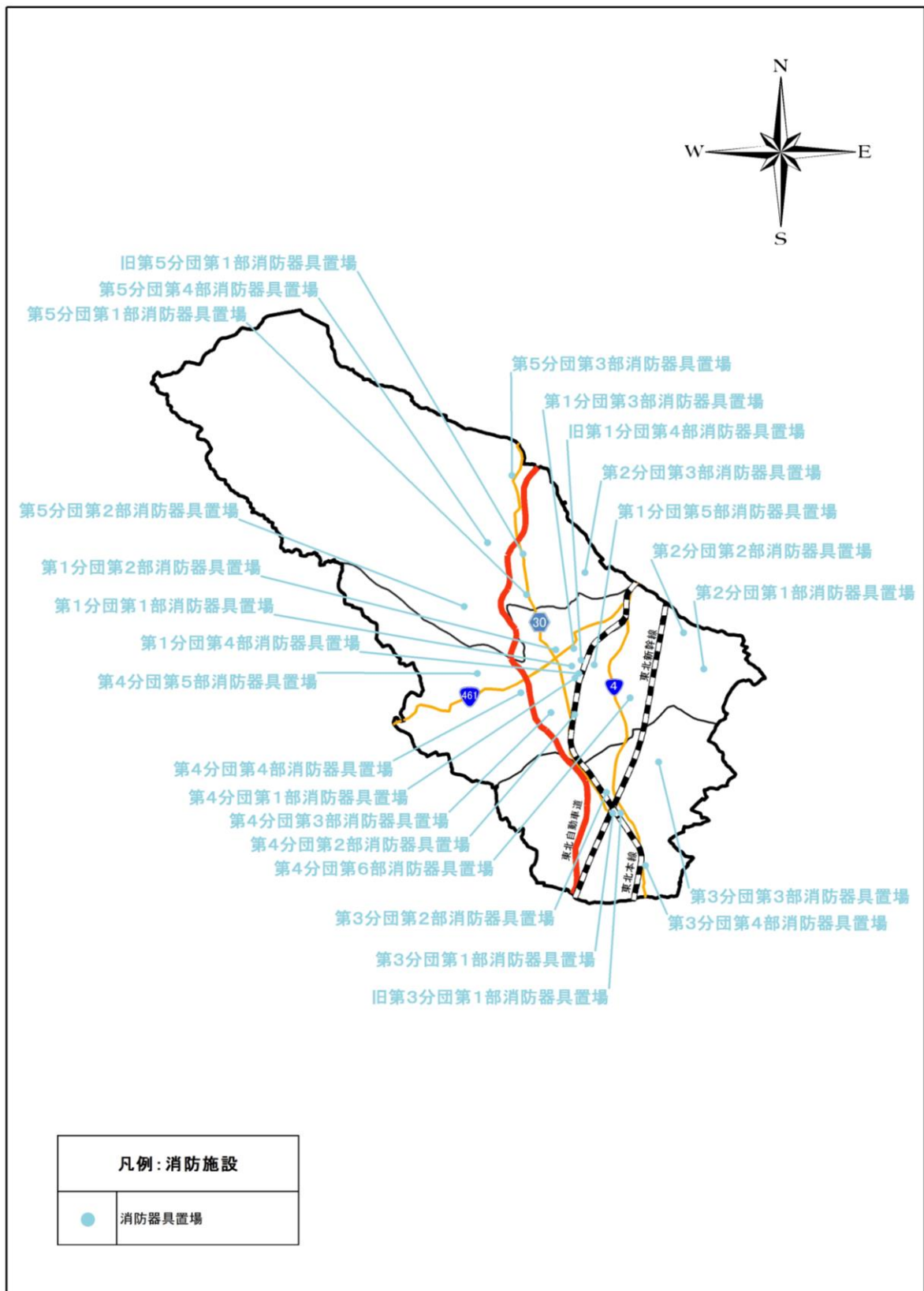
消防器具置場は、市内に 25 施設あり、延床面積は合計 1,359 ㎡です。

表 4-14-2 消防施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持 管理費 (千円)	事業 運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者 1人当たり のコスト (円/人)	減価 償却費 (千円)	フル コスト (千円)	利用者 1人当たり のフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネット コスト 収支差額 (千円)	指定 管理料 (千円)
消防器具置場											
第1分団第1部消防器具置場	147	1,741	1,889	—	—	749	2,638	—	0	2,638	—
第1分団第2部消防器具置場	159	1,618	1,778	—	—	682	2,460	—	0	2,460	—
第1分団第3部消防器具置場	79	1,588	1,668	—	—	0	1,668	—	0	1,668	—
第1分団第4部消防器具置場	125	1,610	1,736	—	—	773	2,509	—	0	2,509	—
第1分団第5部消防器具置場	121	1,609	1,731	—	—	766	2,497	—	0	2,497	—
第2分団第1部消防器具置場	269	2,076	2,345	—	—	0	2,345	—	0	2,345	—
第2分団第2部消防器具置場	227	1,822	2,049	—	—	0	2,049	—	0	2,049	—
第4分団第1部消防器具置場	156	1,512	1,668	—	—	0	1,668	—	0	1,668	—
第4分団第2部消防器具置場	309	1,447	1,757	—	—	605	2,362	—	0	2,362	—
第4分団第3部消防器具置場	129	1,646	1,776	—	—	499	2,276	—	0	2,276	—
第4分団第4部消防器具置場	148	1,861	2,009	—	—	576	2,586	—	0	2,586	—
第4分団第5部消防器具置場	155	1,638	1,794	—	—	587	2,382	—	0	2,382	—
第4分団第6部消防器具置場	259	1,894	2,153	—	—	0	2,153	—	0	2,153	—
旧第1分団第4部消防器具置場	3	320	324	—	—	0	324	—	0	324	—
第2分団第3部消防器具置場	47	1,887	1,935	—	—	611	2,547	—	0	2,547	—
第5分団第1部消防器具置場	102	2,203	2,305	—	—	643	2,948	—	0	2,948	—
第5分団第2部消防器具置場	199	1,973	2,172	—	—	280	2,452	—	0	2,452	—
第5分団第3部消防器具置場	207	2,251	2,458	—	—	0	2,458	—	0	2,458	—
第5分団第4部消防器具置場	180	2,128	2,308	—	—	0	2,308	—	0	2,308	—
旧第5分団第1部消防器具置場	0	320	321	—	—	110	431	—	0	431	—
第3分団第1部消防器具置場	0	0	0	—	—	0	0	—	0	0	—
第3分団第2部消防器具置場	153	2,065	2,218	—	—	584	2,802	—	0	2,802	—
第3分団第3部消防器具置場	191	2,153	2,345	—	—	752	3,097	—	0	3,097	—
第3分団第4部消防器具置場	158	2,187	2,345	—	—	615	2,961	—	0	2,961	—
旧第3分団第1部消防器具置場	42	2,059	2,101	—	—	132	2,233	—	0	2,233	—
小計	3,576	41,621	45,197	0	0	8,970	54,167	0	0	54,167	0
合計	3,576	41,621	45,197	0	0	8,970	54,167	0	0	54,167	0

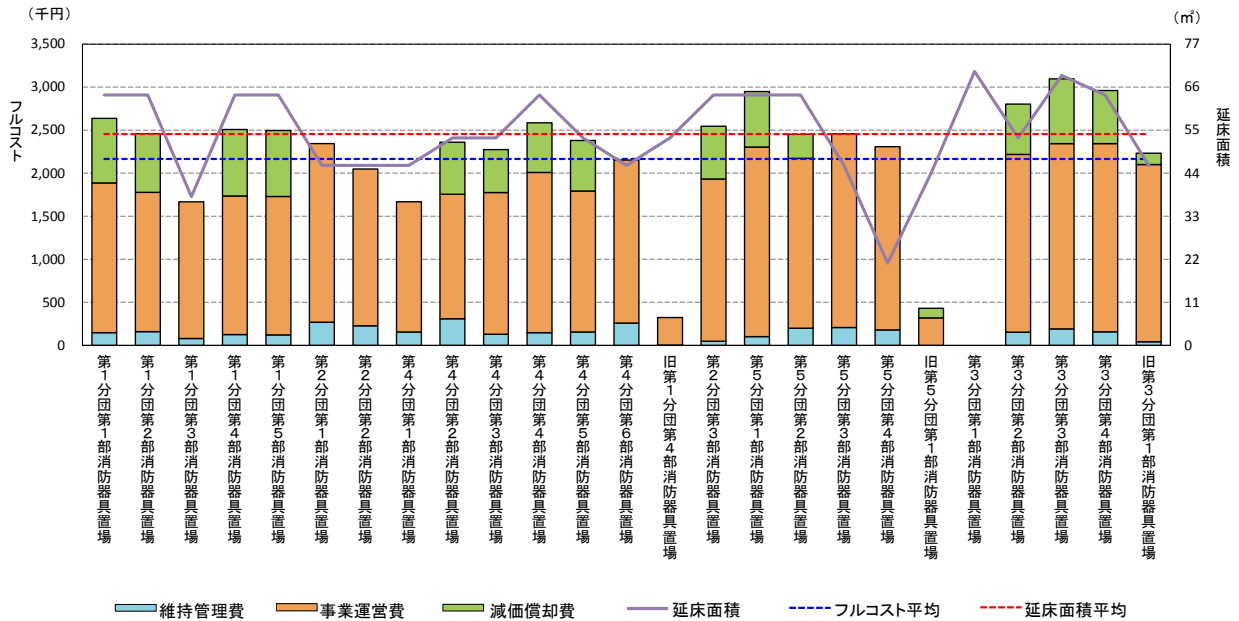
消防器具置場にかかるフルコストは54,167千円です。

図 4-14-1 消防施設の配置状況



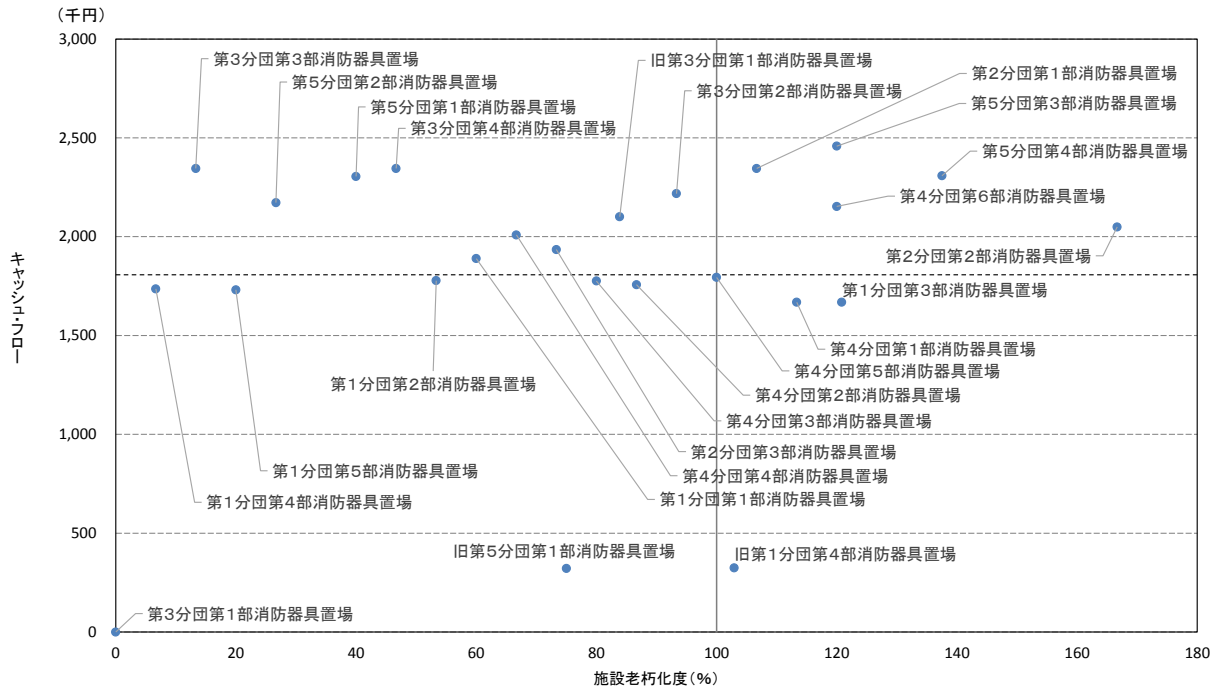
① 〔消防施設〕 消防器具置場の状況

図 4-14-2 消防器具置場のフルコストと延床面積



消防器具置場のうち、延床面積が最も広いのは、第3分団第1部消防器具置場の70㎡であり、2番目は第3分団第3部消防器具置場の69㎡です。また、フルコストが最も高いのは、第3分団第3部消防器具置場の3,097千円であり、2番目は第3分団第4部消防器具置場の2,961千円です。

図 4-14-3 消防器具置場のキャッシュ・フローと老朽化度



第5分団第4部消防器具置場は、昭和50年代に建築され、老朽化が進行しています。また、第2分団第2部消防置場は、早急な対応が求められています。多くの施設が、老朽化が逼迫した状況ではありませんが、計画的に点検や改修等を行うとともに、消防施設は市民の安全に不可欠な施設であるため、消防能力を維持しながら、可能なコスト削減策を検討していきます。

15 その他行政系施設の状況

表 4-15-1 その他行政系施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
環境系施設	矢板	1	矢板市道の駅エコモデルハウス	指定管理者		264	22.73	平成 21年度	木造
	矢板	2	リサイクルハウス(物置)	直営		38	130.00	平成 3年度	木造
小計						302			
合計						302			

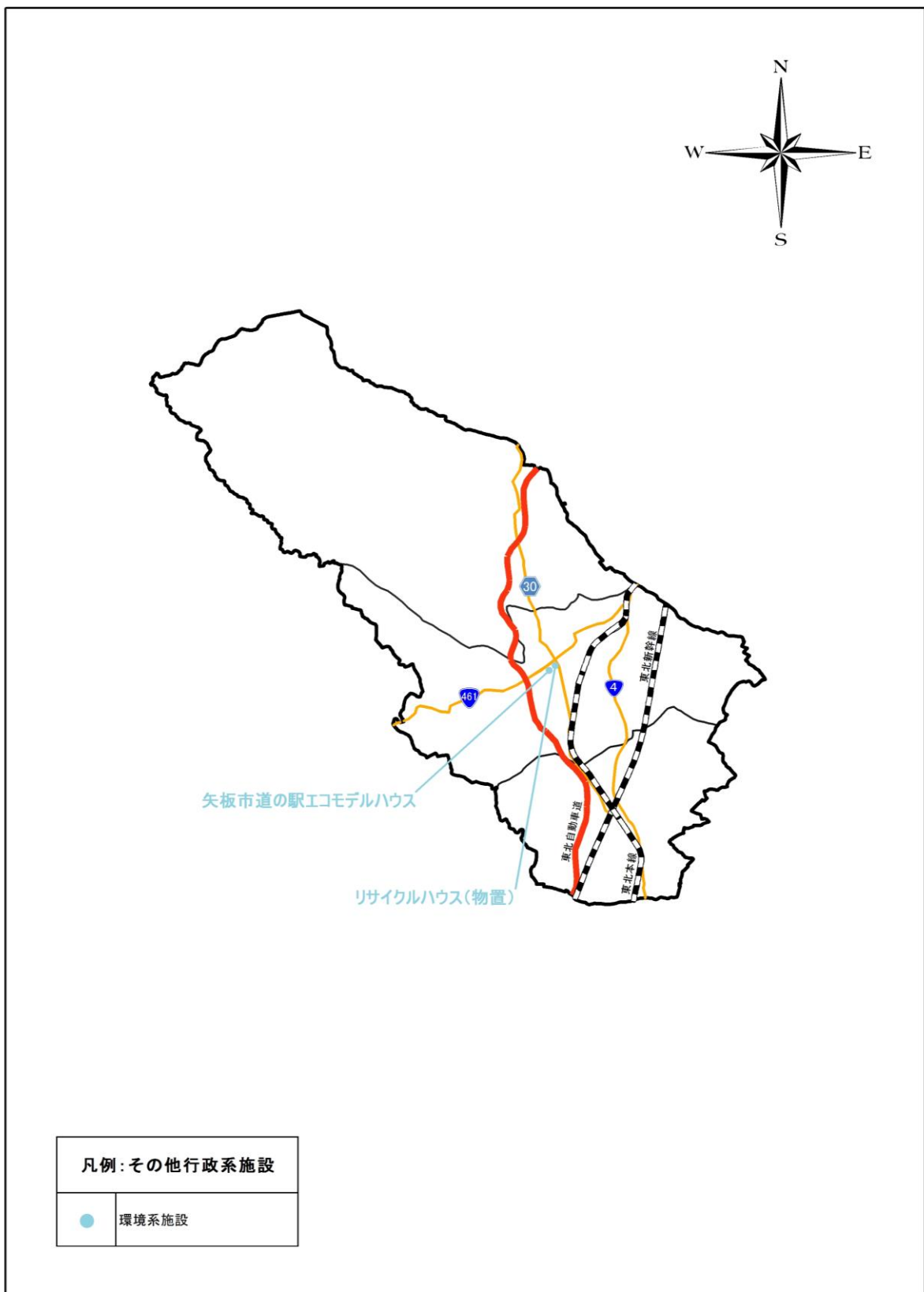
環境系施設は、市内に 2 施設あり、延床面積は合計 302 ㎡です。

表 4-15-2 その他行政系施設の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
環境系施設											
矢板市道の駅エコモデルハウス	1,723	3,707	5,430	6,084	892	3,559	8,990	1,477	0	8,990	5,114
リサイクルハウス(物置)	116	1,998	2,115	—	—	21	2,137	—	63	2,073	—
小計	1,840	5,705	7,546	6,084	1,240	3,581	11,127	1,828	63	11,064	5,114
合計	1,840	5,705	7,546	6,084	1,240	3,581	11,127	1,828	63	11,064	5,114

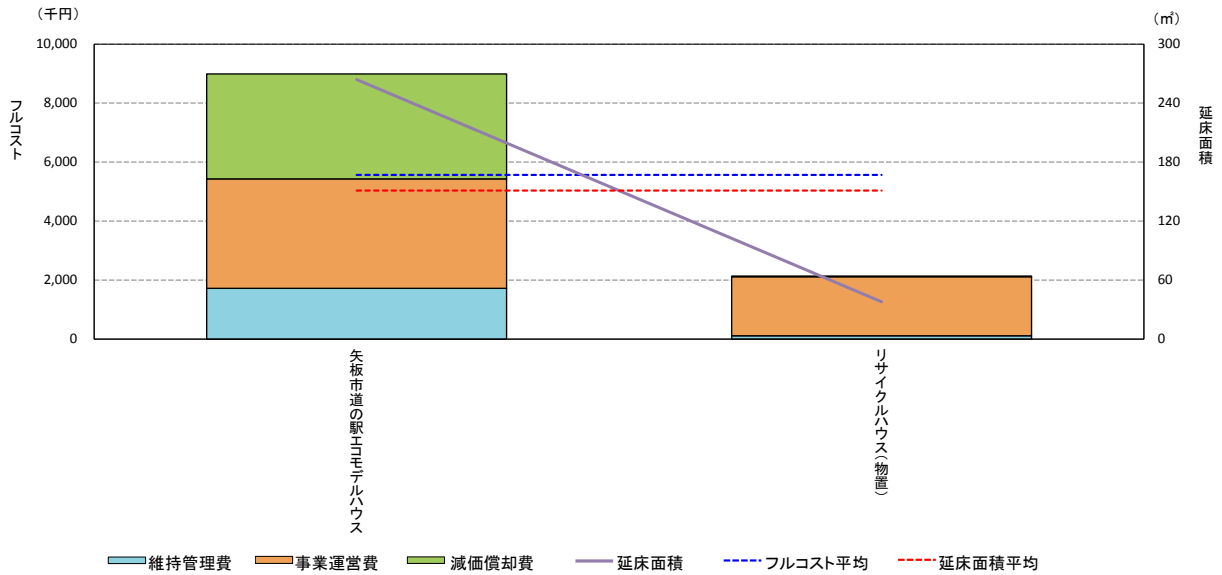
環境系施設の利用者数の合計は 6,084 人です。これらの施設にかかるフルコストは 11,127 千円です。

図 4-15-1 その他行政系施設の配置状況



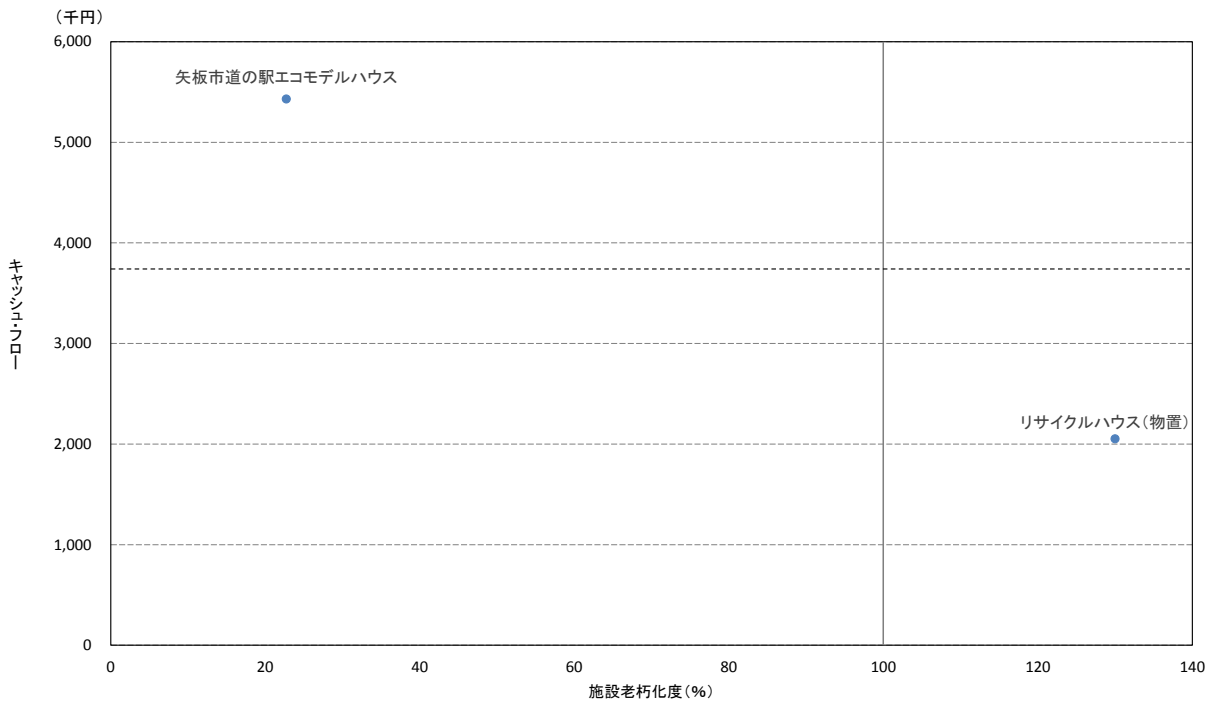
① 〔その他行政系施設〕環境系施設の状況

図 4-15-2 環境系施設のフルコストと延床面積



環境系施設の延床面積は、矢板市道の駅エコモデルハウスが264㎡で、リサイクルハウス（物置）が38㎡です。また、フルコストは、矢板市道の駅エコモデルハウスが8,990千円であり、リサイクルハウス（物置）が2,137千円です。

図 4-15-3 環境系施設のキャッシュ・フローと老朽化度



リサイクルハウスは老朽化が進行しており、早急な対応の検討が必要です。今後の更新にあたっては、適正な機能のあり方を検討していくことが求められます。

16 公営住宅の状況

表 4-16-1 公営住宅の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
市営住宅	矢板	1	荒井市営住宅(平屋)	直営		4,115	119.56	昭和 42年度	コンクリートブロック
	矢板	2	中市営住宅	直営		10,367	76.78	昭和 51年度	鉄筋コンクリート
	泉	3	上太田市営住宅(平屋)	直営		2,877	119.38	昭和 47年度	鉄骨造
	泉	4	上太田市営住宅	直営		3,379	14.92	平成 19年度	鉄筋コンクリート
	片岡	5	高倉市営住宅	直営		3,739	63.64	昭和 58年度	鉄筋コンクリート
	片岡	6	石関市営住宅	直営		5,181	51.49	平成 1年度	鉄筋コンクリート
	片岡	7	乙畑市営住宅(平屋)	直営		2,916	116.88	昭和 44年度	コンクリートブロック
	片岡	8	乙畑市営住宅	直営		6,969	39.11	平成 5年度	鉄筋コンクリート
小計						39,541			
合計						39,541			

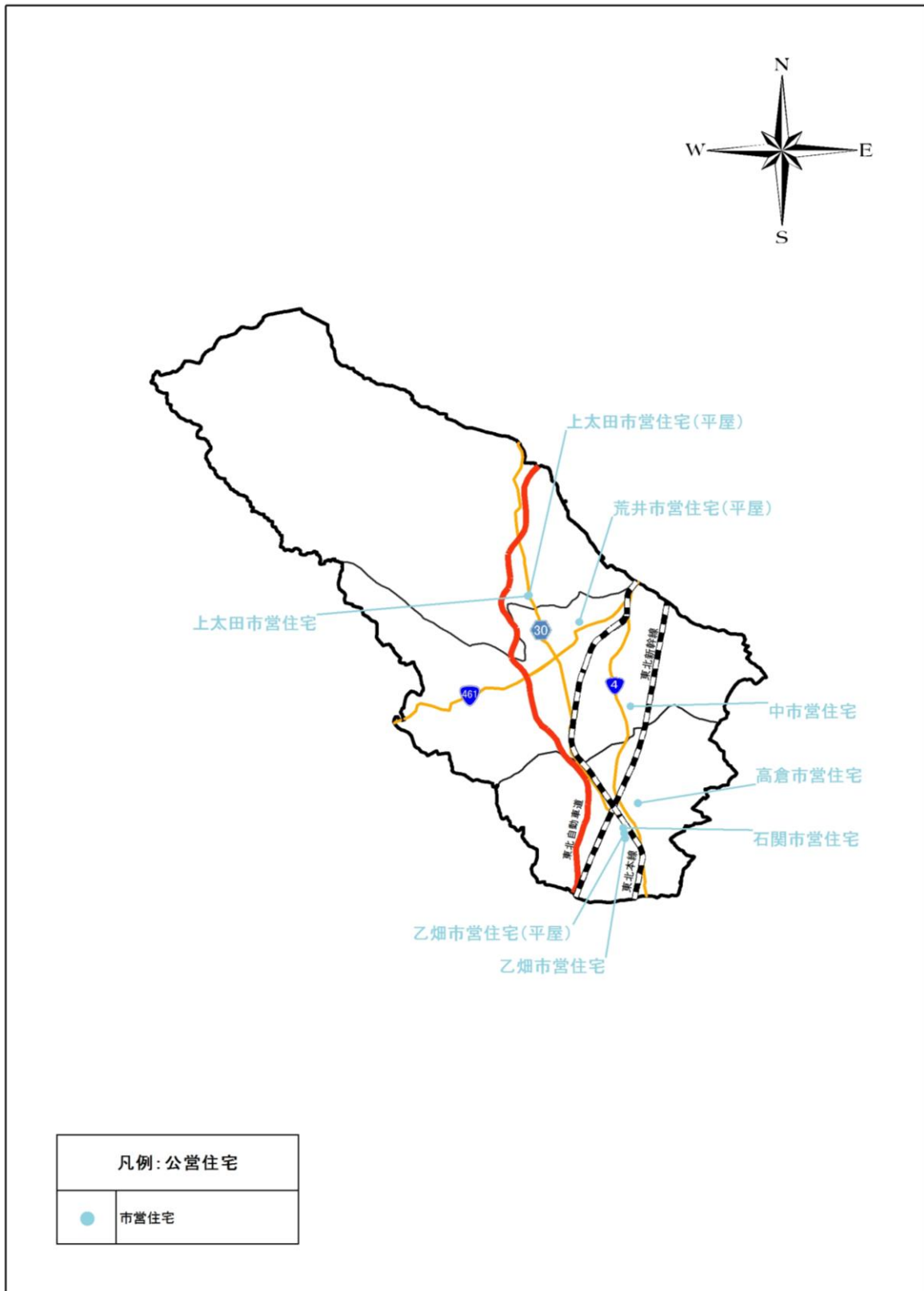
市営住宅は、市内に 8 施設あり、延床面積は合計 39,541 ㎡です。

表 4-16-2 公営住宅の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	入居戸数 (戸)	入居戸数当たりのコスト (円/戸)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	入居戸数当たりのフルコスト (円/戸)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
市営住宅											
荒井市営住宅(平屋)	2,641	2,127	4,769	50	95,391	0	4,769	95,391	2,660	2,109	—
中市営住宅	14,124	6,893	21,018	125	168,148	191,374	212,392	1,699,140	32,198	180,193	—
上太田市営住宅(平屋)	1,111	694	1,806	16	112,888	0	1,806	112,888	1,497	308	—
上太田市営住宅	4,129	2,222	6,352	50	127,040	134,014	140,367	2,807,340	19,435	120,931	—
高倉市営住宅	6,272	2,336	8,608	38	226,551	94,700	103,309	2,718,667	10,576	92,733	—
石関市営住宅	7,745	3,125	10,870	52	209,048	170,518	181,388	3,488,247	17,682	163,706	—
乙畑市営住宅(平屋)	2,357	1,621	3,979	38	104,722	0	3,979	104,722	2,765	1,213	—
乙畑市営住宅	6,471	7,165	13,636	70	194,803	298,013	311,649	4,452,137	28,890	282,758	—
小計	44,854	26,187	71,041	439	161,825	888,621	959,662	2,186,019	115,707	843,954	0
合計	44,854	26,187	71,041	439	161,825	888,621	959,662	2,186,019	115,707	843,954	0

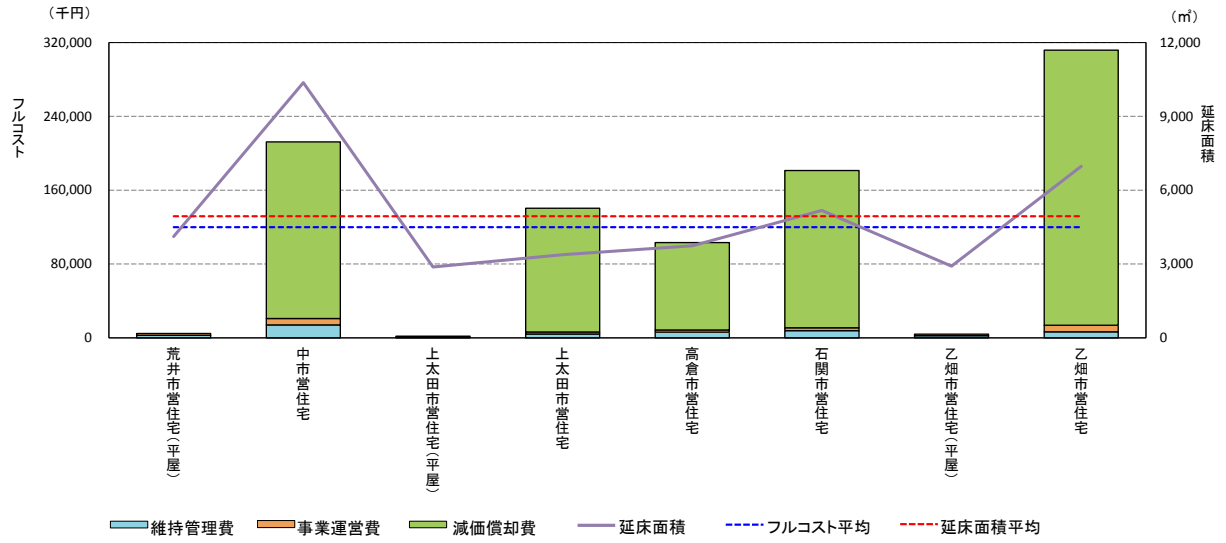
市営住宅にかかるフルコストは 959,662 千円です。

図 4-16-1 公営住宅の配置状況



① 〔公営住宅〕市営住宅の状況

図 4-16-2 市営住宅のフルコストと延床面積



市営住宅のうち、延床面積が最も広いのは、中市営住宅の 10,367 ㎡であり、2 番目は乙畑市営住宅の 6,969 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、乙畑市営住宅の 311,649 千円であり、2 番目は中市営住宅の 212,392 千円です。

図 4-16-3 市営住宅の延床面積と耐用年数到来年度

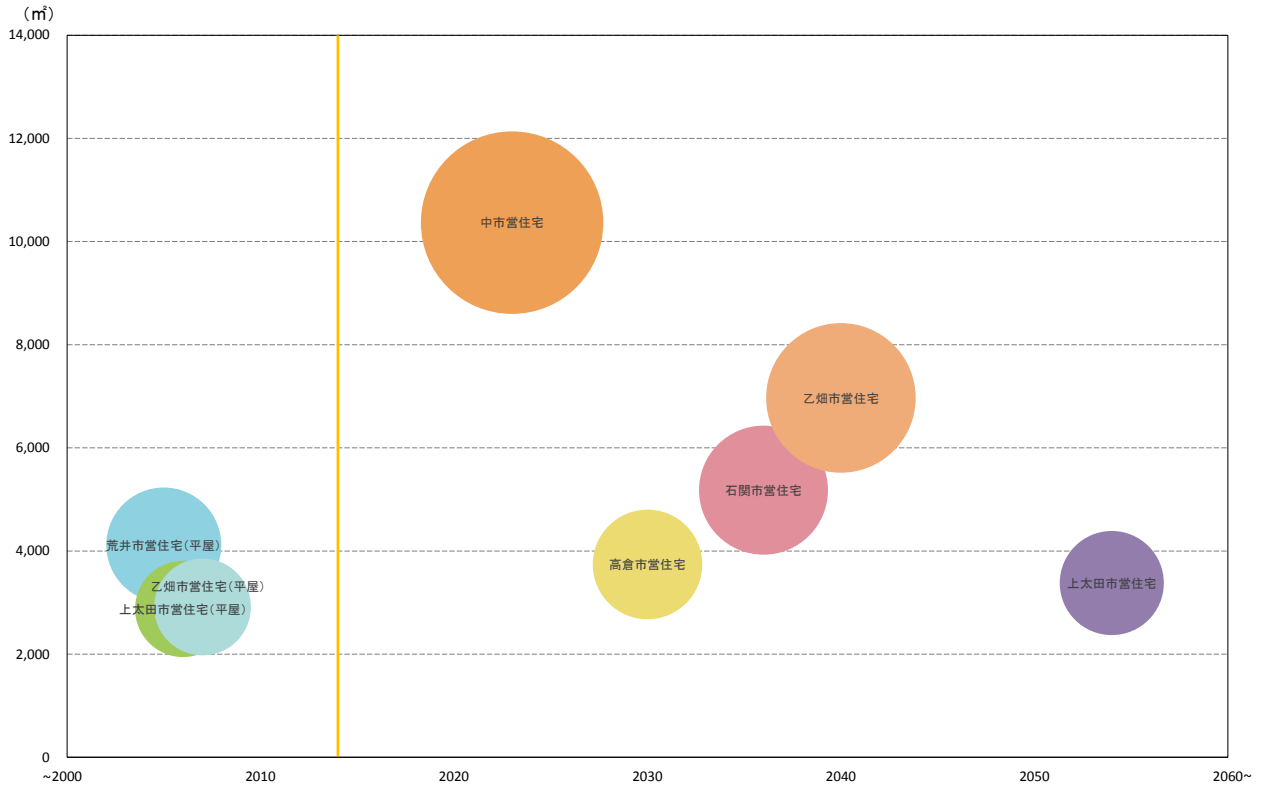
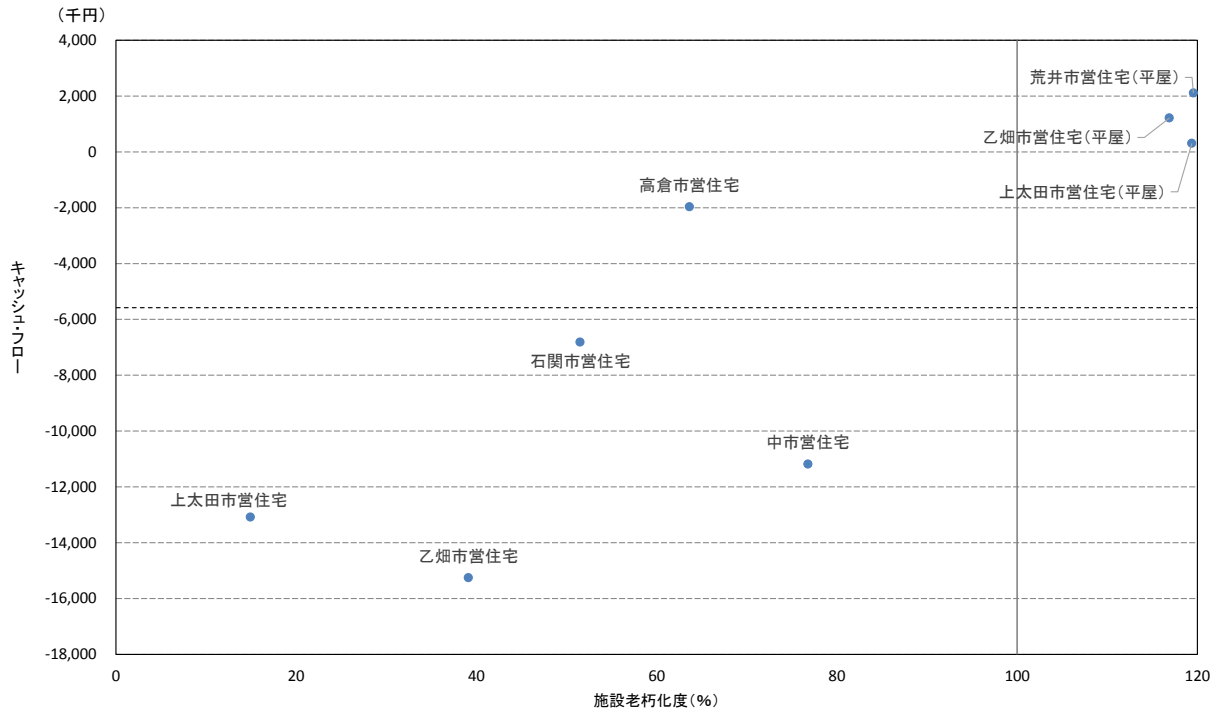


図 4-16-4 市営住宅のキャッシュ・フローと老朽化度



建築年度は、石関市営団地、乙畑市営住宅、上太田市営住宅1号棟を除き、多くが昭和40年代、50年代であり、老朽化が進んでいます。特に荒井市営住宅（平家）、乙畑市営住宅（平屋）、上太田市営住宅（平家）については、早急な対応が必要です。

今後老朽化が進んでいくなか、建替え更新のための負担を踏まえ、公営住宅の総量や民間借上げ、家賃補助など他の手段への転換の検討などが求められます。

17 公園の状況

表 4-17-1 公園の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
公園	矢板	1	長峰公園	直営		185	62.80	平成 24年度	鉄骨造
	矢板	2	川崎城跡公園	直営		77	77.27	平成 10年度	木造
	矢板	3	矢板運動公園休憩施設	直営		262	123.53	平成 5年度	木造
	矢板	4	けやき公園	直営		6	26.67	平成 22年度	木造
	矢板	5	館ノ川広場	直営		43	90.53	平成 5年度	木造
	片岡	6	鶴ヶ池公園	直営		6	26.67	平成 22年度	木造
	片岡	7	矢板南産業団地公園1	直営		35	100.00	平成 11年度	木造
小計						614			
合計						614			

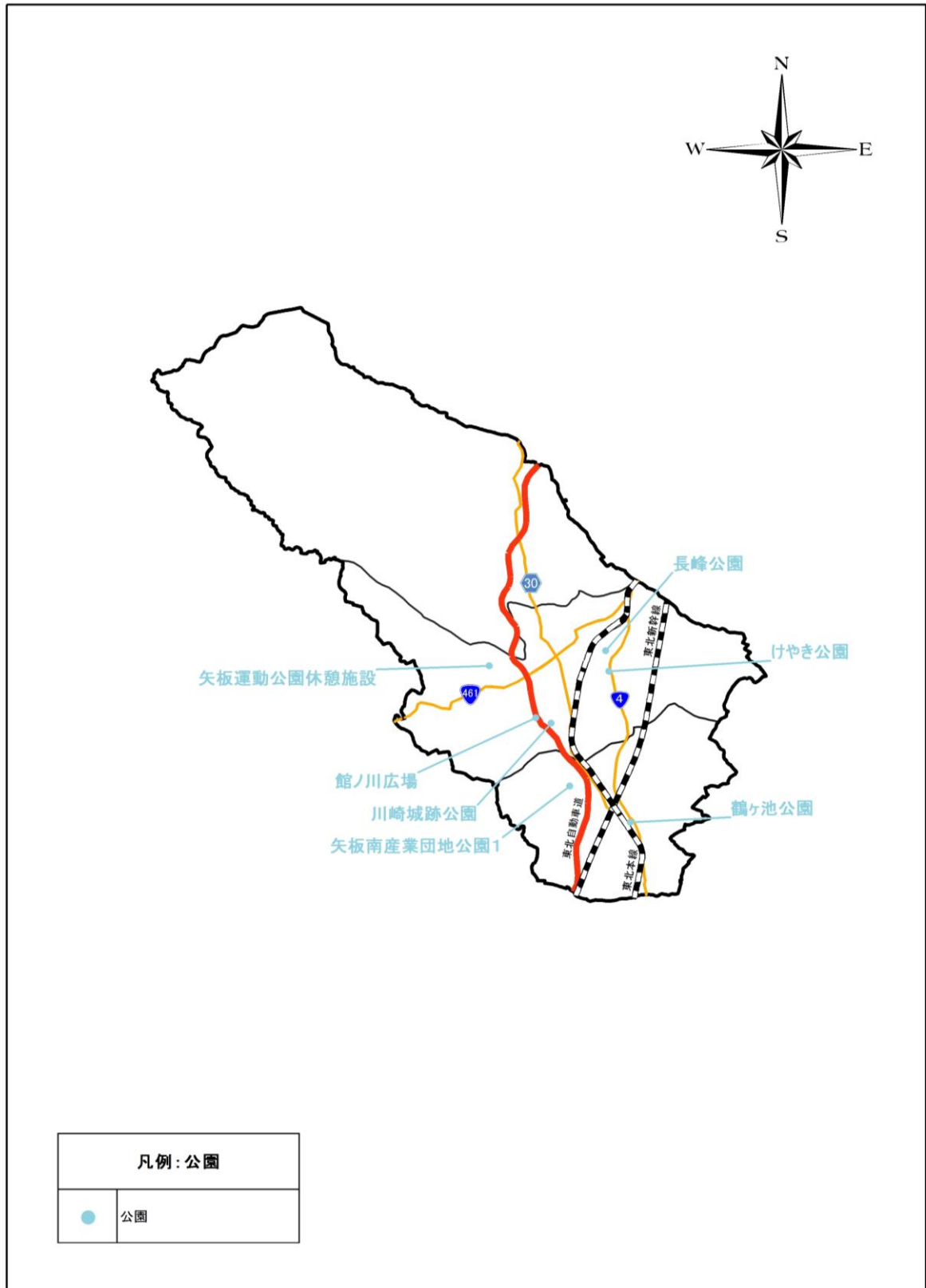
公園は、市内に7施設あり、延床面積は合計614㎡です。

表 4-17-2 公園の利用度とコストの一覧

施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
公園											
長峰公園	4,816	2,211	7,028	—	—	2,607	9,636	—	110	9,525	0
川崎城跡公園	3,648	1,525	5,173	—	—	2,427	7,600	—	62	7,538	0
矢板運動公園休憩施設	4,890	1,161	6,052	—	—	0	6,052	—	10	6,041	0
けやき公園	534	786	1,321	—	—	175	1,496	—	10	1,486	0
館ノ川広場	66	0	66	—	—	397	464	—	0	464	—
鶴ヶ池公園	722	786	1,509	—	—	186	1,696	—	5	1,690	0
矢板南産業団地公園1	551	776	1,328	—	—	960	2,289	—	5	2,283	0
小計	15,231	7,248	22,479	0	0	6,755	29,235	0	205	29,030	0
合計	15,231	7,248	22,479	0	0	6,755	29,235	0	205	29,030	0

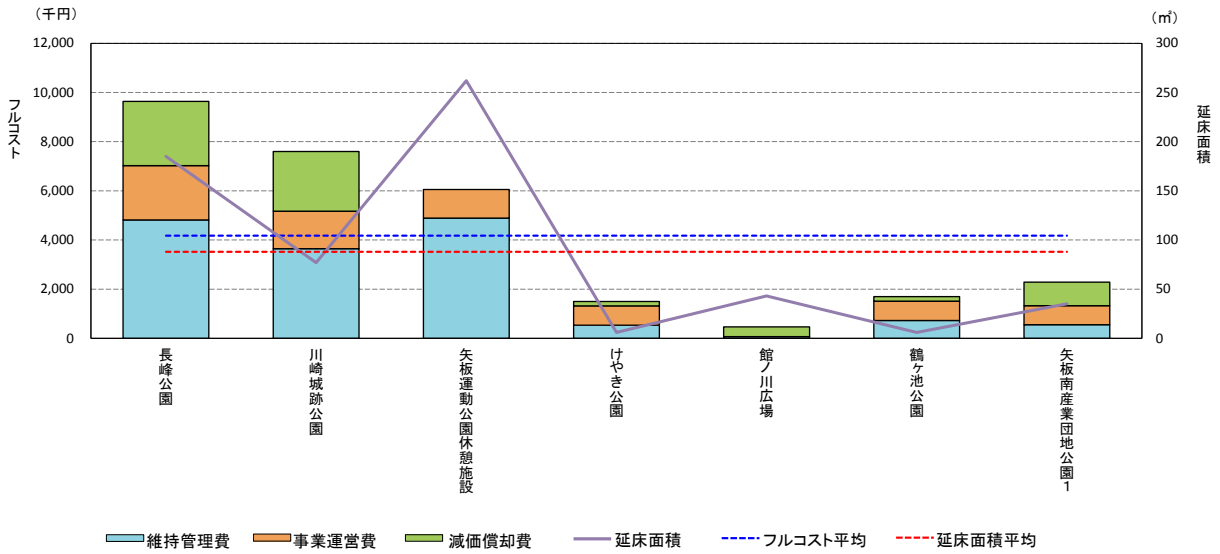
公園にかかるフルコストは29,235千円です。

図 4-17-1 公園の配置状況



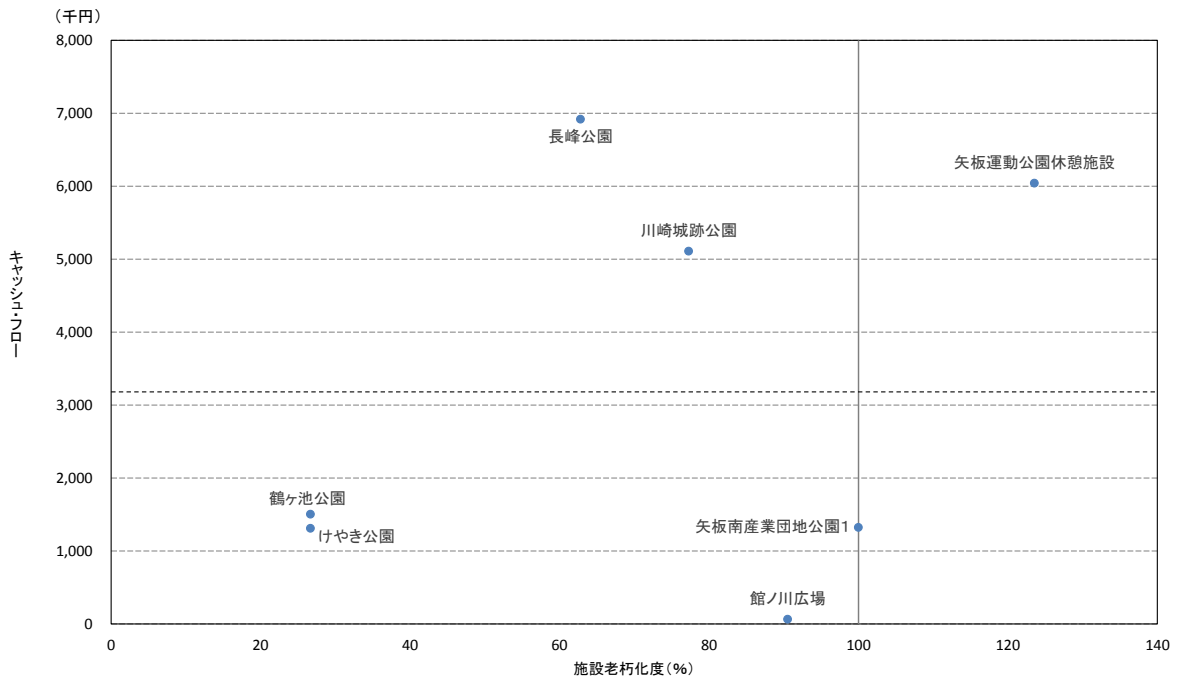
① 〔公園〕公園の状況

図 4-17-2 公園のフルコストと延床面積



公園のうち、延床面積が最も広いのは、矢板運動公園休憩施設の 262 ㎡であり、2 番目は長峰公園の 185 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、長峰公園の 9,636 千円であり、2 番目は川崎城跡公園の 7,600 千円です。

4-17-3 公園のキャッシュ・フローと老朽化度



矢板運動公園休憩施設は、平成5年に建築されましたが老朽化が進行しています。長峰公園、川崎城跡公園は他の施設に比べ、キャッシュ・フローが大きいので、コスト面で運営方法など見直しの必要があります。

18 その他施設の状況

表 4-18-1 その他施設の一覧

小分類	地区	No	施設名称	運営主体	複合施設	延床面積 (㎡)	老朽化度 (%)	主要建物建築年度	主要建物構造
駐車場、駐輪場	矢板	1	矢板駅東自転車駐車場	直営		230	77.42	平成 2年度	鉄骨造
	矢板	2	矢板駅西自転車駐車場	直営		468	67.74	平成 5年度	鉄骨造
	片岡	3	片岡駅東自転車駐車場	直営		228	70.97	平成 4年度	鉄骨造
	片岡	4	片岡駅西自転車駐車場	直営		189	0.00	平成 26年度	鉄骨造
小計						1,115			
公衆トイレ	矢板	1	市役所前公衆便所	直営		24	150.00	昭和 38年度	コンクリートブロック
	矢板	2	矢板駅西広場	直営		37	80.00	平成 14年度	木造
	泉	3	学校平公衆便所	直営		57	57.89	平成 4年度	鉄筋コンクリート
	泉	4	大間々公衆便所	直営		39	71.05	昭和 62年度	鉄筋コンクリート
小計						157			
普通財産	矢板	1	旧矢板農業改良普及所	直営		482	111.05	昭和 45年度	鉄骨造
	矢板	2	矢板警察署駅前派出所	直営		35	70.00	昭和 54年度	鉄筋コンクリート
	泉	3	旧長井小学校	直営		1,925	117.90	昭和 63年度	木造
小計						2,442			
合計						3,714			

駐車場、駐輪場は、市内に 4 施設あり、延床面積は合計 1,115 ㎡です。

公衆トイレは、市内に 4 施設あり、延床面積は合計 157 ㎡です。

普通財産は、市内に 3 施設あり、延床面積は合計 2,442 ㎡です。

表 4-18-2 その他施設の利用度とコストの一覧

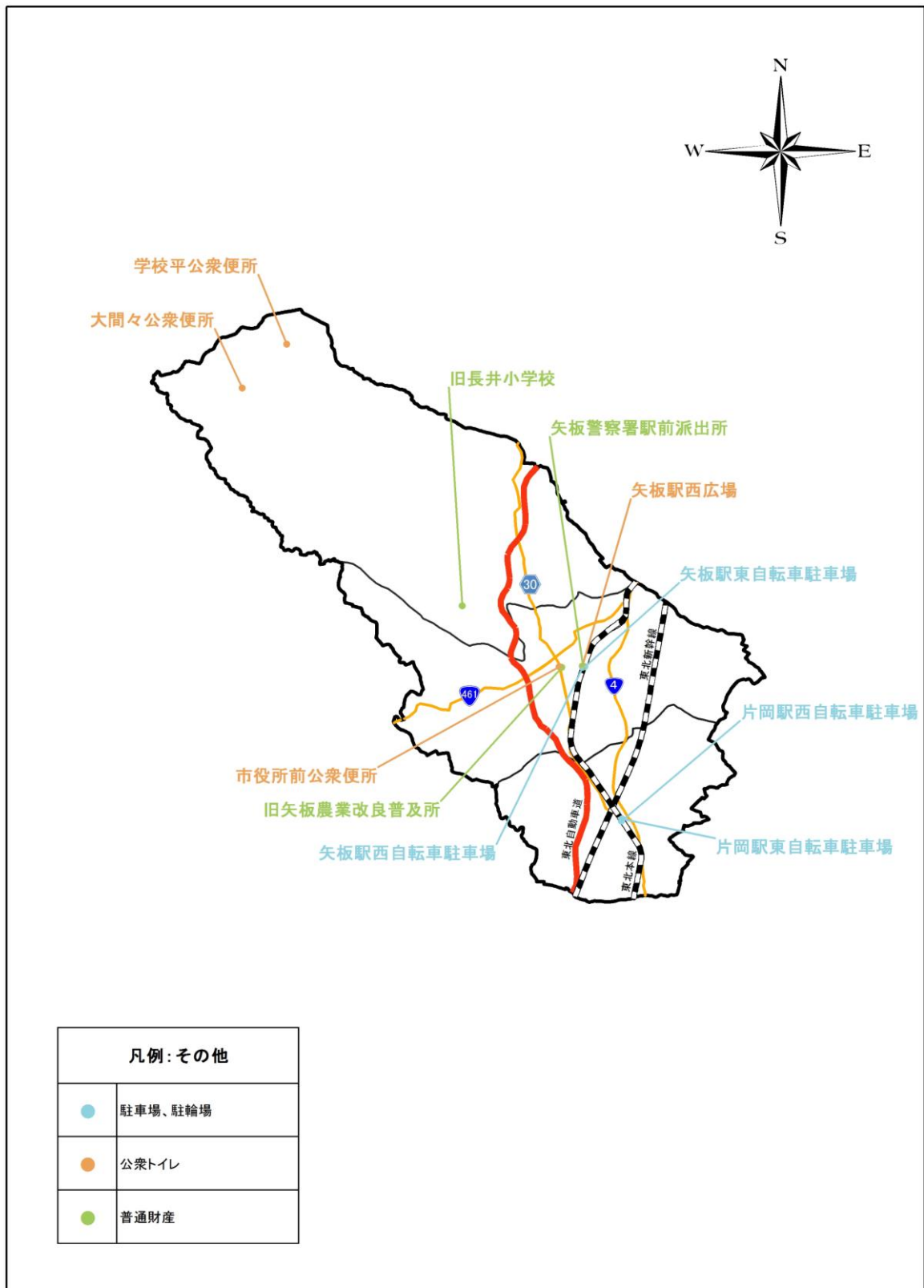
施設名称	維持管理費 (千円)	事業運営費 (千円)	コスト (千円)	利用者数 (人)	利用者1人当たりのコスト (円/人)	減価償却費 (千円)	フルコスト (千円)	利用者1人当たりのフルコスト (円/人)	収入 (千円)	ネットコスト収支差額 (千円)	指定管理料 (千円)
駐車場、駐輪場											
矢板駅東自転車駐車場	388	418	807	—	—	1,145	1,952	—	0	1,952	0
矢板駅西自転車駐車場	465	418	884	—	—	1,580	2,465	—	0	2,465	0
片岡駅東自転車駐車場	305	418	724	—	—	1,373	2,098	—	0	2,098	0
片岡駅西自転車駐車場	0	384	384	—	—	0	384	—	0	384	0
小計	1,160	1,641	2,801	0	0	4,099	6,901	0	0	6,901	0
公衆トイレ											
市役所前公衆便所	83	40	124	—	—	0	124	—	0	124	—
矢板駅西広場	1,477	111	1,588	—	—	678	2,267	—	0	2,267	0
学校平公衆便所	760	430	1,191	—	—	1,002	2,194	—	0	2,194	—
大間々公衆便所	474	765	1,239	—	—	270	1,509	—	0	1,509	—
小計	2,796	1,347	4,143	0	0	1,951	6,095	0	0	6,095	0
普通財産											
旧矢板農業改良普及所	799	76	876	—	—	172	1,049	—	775	274	—
矢板警察署駅前派出所	0	7	7	—	—	89	97	—	0	97	—
旧長井小学校	600	76	677	—	—	53	730	—	1,471	-740	—
小計	1,400	161	1,562	0	0	315	1,877	0	2,246	-368	0
合計	5,357	3,150	8,507	0	0	6,366	14,874	0	2,246	12,628	0

駐車場、駐輪場にかかるフルコストは 6,901 千円です。

公衆トイレにかかるフルコストは 6,095 千円です。

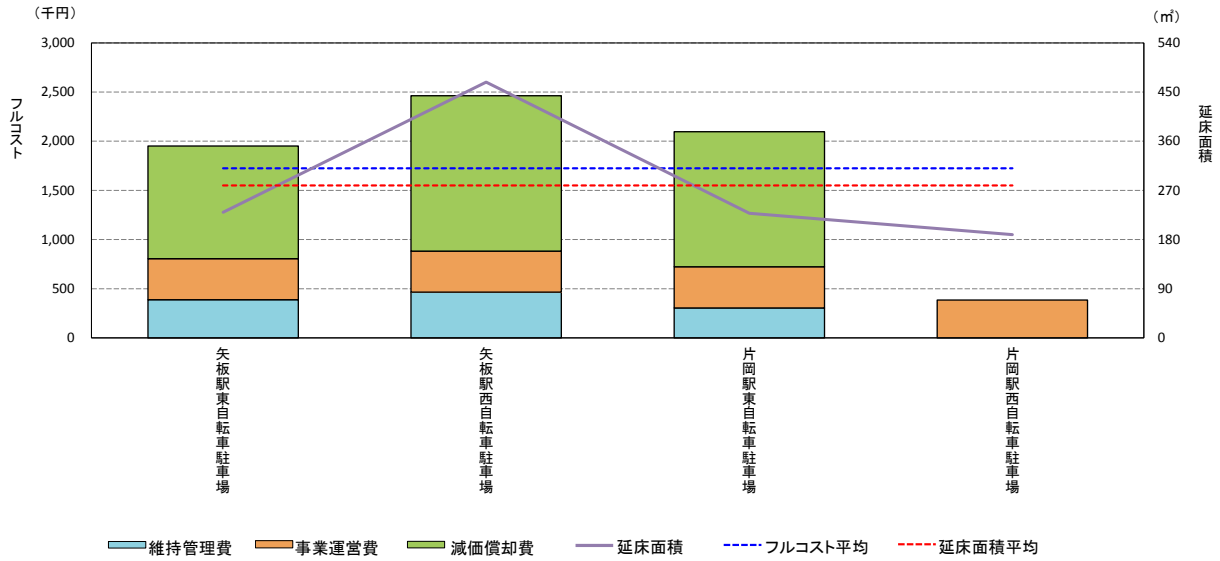
普通財産にかかるフルコストは 1,877 千円です。

図 4-18-1 その他施設の配置状況



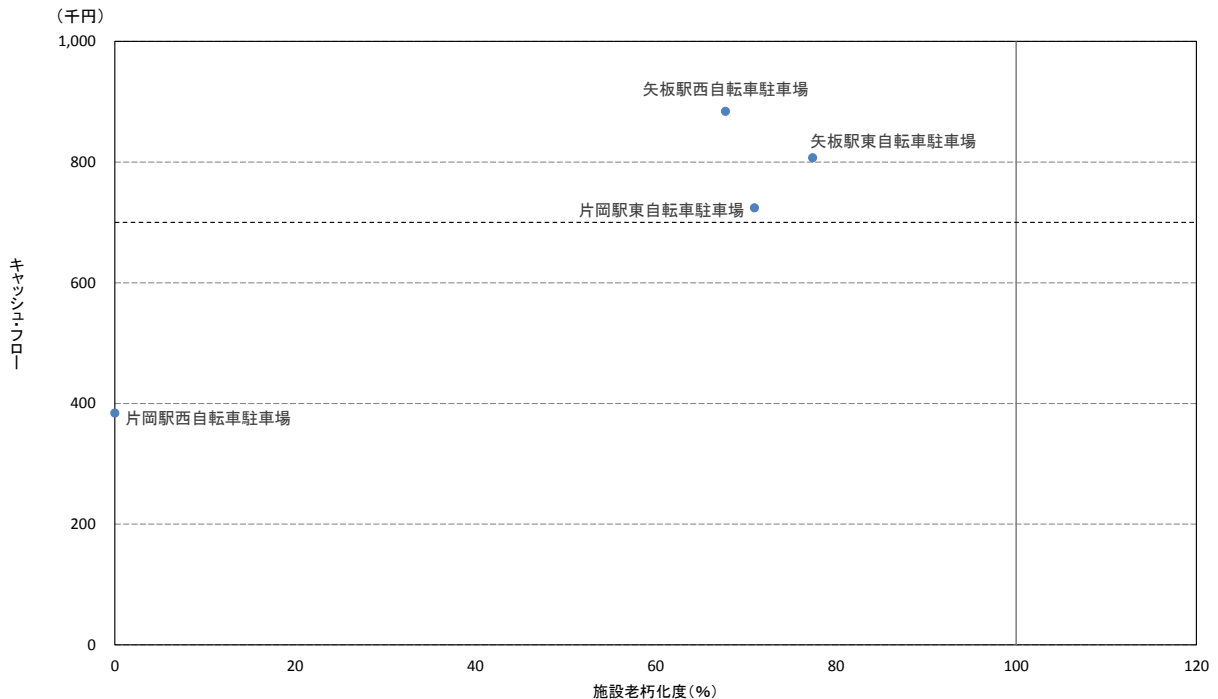
① 【その他施設】 駐車場、駐輪場の状況

図 4-18-2 駐車場、駐輪場のフルコストと延床面積



駐車場、駐輪場のうち、延床面積が最も広いのは、矢板駅西自転車駐車場の 468 ㎡であり、2 番目は矢板駅東自転車駐車場の 230 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、矢板駅西自転車駐車場の 2,465 千円であり、2 番目は片岡駅東自転車駐車場の 2,098 千円です。

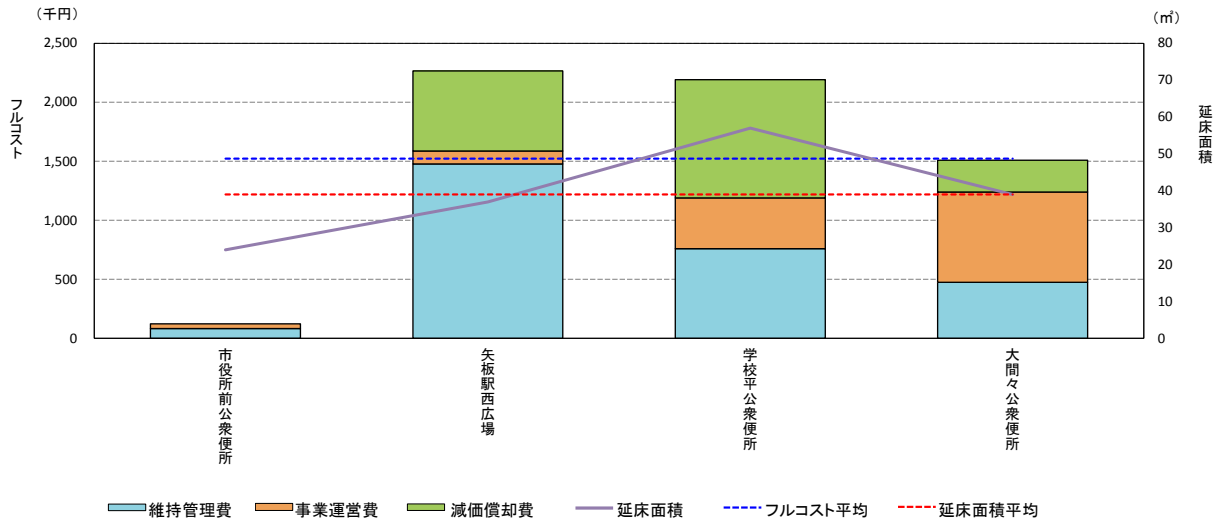
図 4-18-3 駐車場、駐輪場のキャッシュ・フローと老朽化度



駐車場、駐輪場は市内の4箇所設置されており、全て直営にて行われています。片岡駅西自転車駐車場を除き、老朽化が進行している可能性があります。今後の利用者動向、維持管理、運営方法などを踏まえた検討の可能性があります。

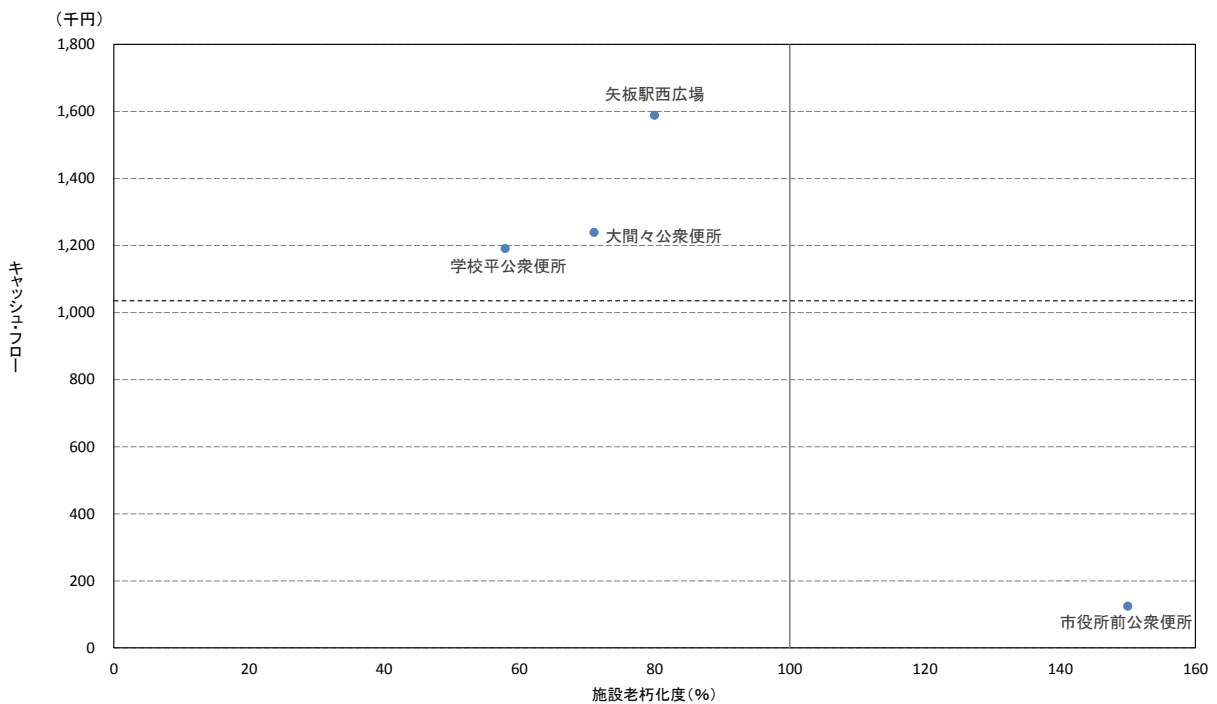
② 〔その他施設〕 公衆トイレの状況

図 4-18-4 公衆トイレのフルコストと延床面積



公衆トイレのうち、延床面積が最も広いのは、学校平公衆便所の57㎡であり、2番目は大間々公衆便所の39㎡です。また、フルコストが最も高いのは、矢板駅西広場の2,267千円であり、2番目は学校平公衆便所の2,194千円です。

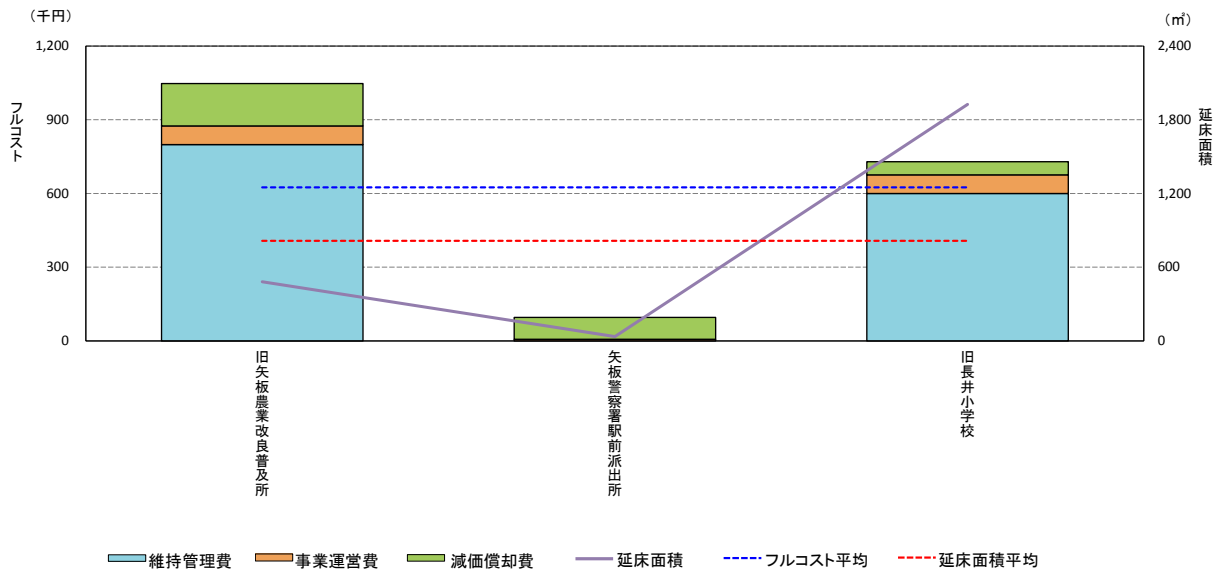
図 4-18-5 公衆トイレのキャッシュ・フローと老朽化度



公衆トイレは市内に4箇所設置されており、昭和38年度に建築された市役所前公衆便所は、老朽化が進行しており、早急な対応の検討が必要です。矢板駅西広場は、他の施設と比べキャッシュ・フローが大きく、コスト面から運営方法などの検討が必要です。

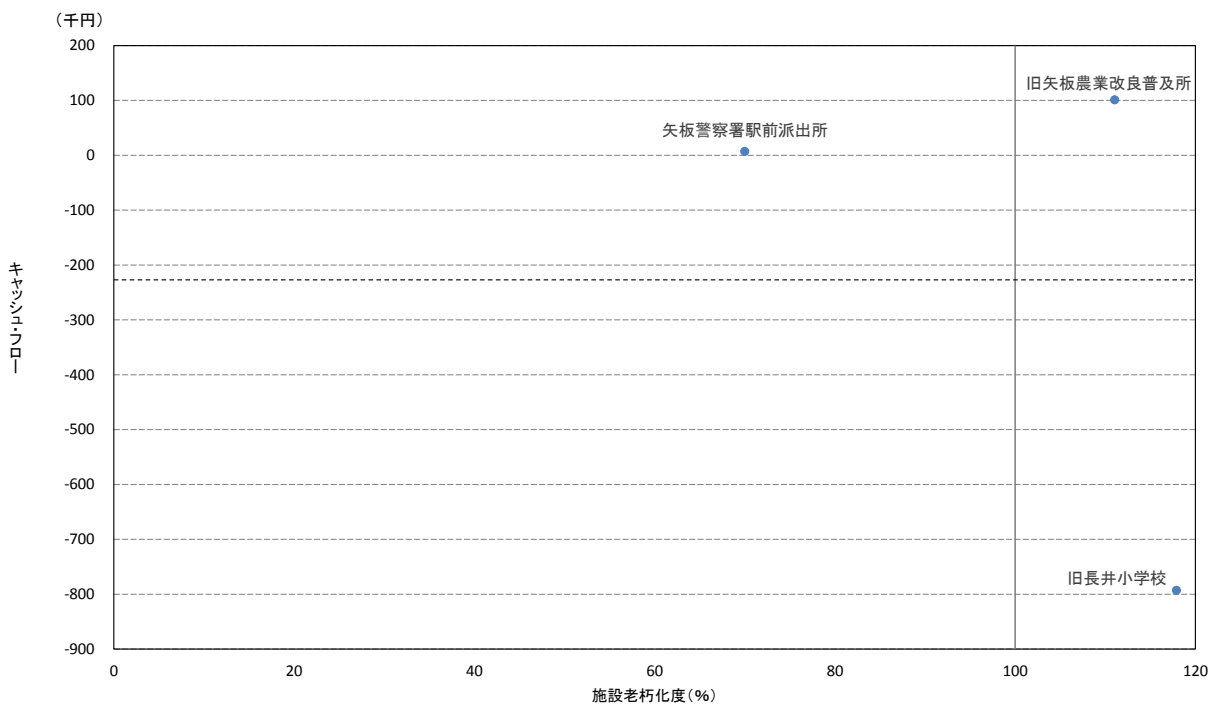
③ 〔その他施設〕 普通財産の状況

図 4-18-6 普通財産のフルコストと延床面積



普通財産のうち、延床面積が最も広いのは、旧長井小学校の 1,925 ㎡であり、2 番目は旧矢板農業改良普及所の 482 ㎡です。また、フルコストが最も高いのは、旧矢板農業改良普及所の 1,049 千円であり、2 番目は旧長井小学校の 730 千円です。

図 4-18-7 普通財産のキャッシュ・フローと老朽化度



普通財産、特に学校跡地については、その利用方法について、売却も含めて早急に検討することが必要です。